



2015



Ελπις

宣教 100 周年記念誌 エルピス

日本福音ルーテルなごや希望教会



日本福音ルーテルなごや希望教会
宣教 100 周年記念誌 エルピス

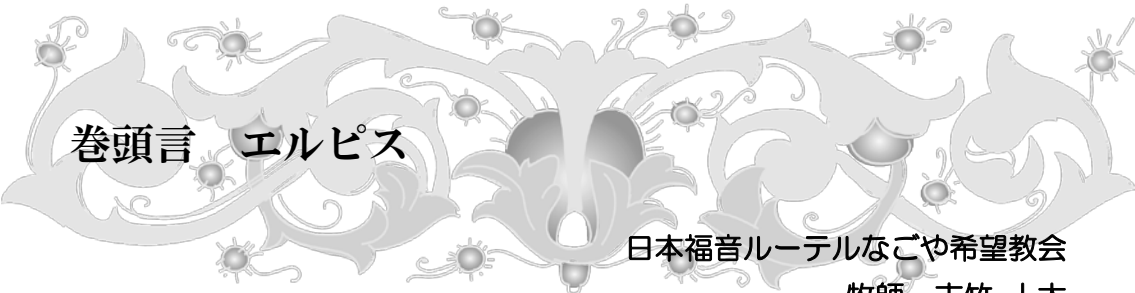
目次

巻頭言	3
三教会通史	
名古屋教会通史	6
名古屋教会通史 補遺	27
希望教会通史	34
名東教会通史	40
なごや希望教会通史	53
神に仕えた教職たち (100 年の時の中で)	65
なごや希望教会 100 周年に寄せて (教会員の寄稿文)	
新しい会堂	74
感謝	82
未来へ	89
あとがき	102
写真で見る三教会の歩み	103
付録資料	
なごや希望教会宣教 100 年史 年表	
ルーテル幼稚園 創立 90 年史 年表	

記念誌の題とした Ελπις エルピスは、ギリシア語で「希望」を意味する。

希望は開かれたドアの向こうに広がっている。教会は、神が起こし給うた十字架の下に集められる出来事であるが、閉じられた場所ではなく、神の国に至る道を歩ませ、守り給う神の出来事である。神ご自身が希望を開き、神ご自身が希望そのものとして生きて導き給う。

これまでも、そしてこれからも希望を開き給う神に従って歩み続けるとの信仰によって、100周年記念誌の表題を「エルピス（希望）」とした。



巻頭言 エルピス

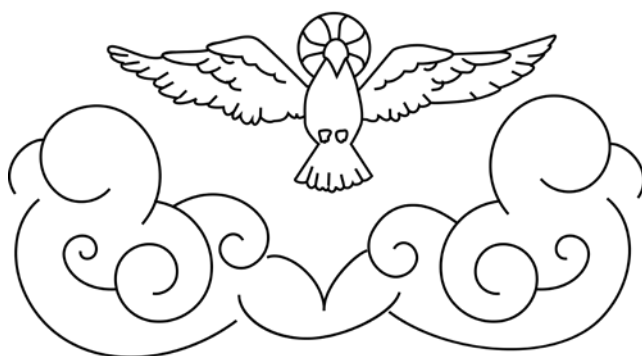
日本福音ルーテルなごや希望教会
牧師 末竹 十大

「主よ、あなたはわたしの希望。」(詩編 71:5) と詩編の作者は歌う。

ここで「希望」と訳されている言葉は、ヘブライ語聖書(BHS)ではティクバーであり、ギリシア語訳旧約聖書(LXX)ではヒュポモネー(忍耐)が訳語としてあてられている。これに続く「主よ、わたしは若いときからあなたに依り頼み」と訳されている箇所(LXX)の訳文はこうである。「主、わたしのエルピス、わたしの若いときから」。ということは、エルピスは「信頼」を生きる「忍耐」との関係において「希望」となっていることが理解できる。それゆえに、使徒パウロは「忍耐」ヒュポモネーから「希望」エルピスに至る信仰の道(ローマ 5:3~5)を語っているのである。

預言者エレミヤは「イスラエルの希望である主よ」(エレミヤ 17:13)と祈っている。聖書の信仰においては、「希望」とは神ヤーウェご自身のことであり、造り主こそが我々の根拠、我々の未来である。このような聖書的「希望」の最終形態が「神の国」である。そこに至るためには、信仰における「忍耐」が必要である。忍耐は練達を、練達は希望を働き生み出すが、その始まりは「苦難」であるとパウロは語っている。神ご自身が希望であるがゆえに、神に信頼して苦難を引き受ける信仰は、神ご自身から与えられる。「希望」は苦難を引き受けさせる神の力であり、十字架が指し示すものである。

なごや希望教会が迎える 100 周年は神が歩ませた 100 年。恵みを注ぎ続けた神がおられて、我らは今ここにいる。これからも「希望」そのものである神に信頼して、歩み続けよう。「主よ、あなたはわたしの希望」と歌いながら、苦難を引き受け、十字架を見上げて。



三教会通史

1915 年～2009 年

名古屋教会
1915 年～2009 年

希望教会
1965 年～2009 年

名東教会
1980 年～2009 年



名古屋教会 通史

松原雅夫

はじめに

日本福音ルーテル名古屋教会（現・なごや希望教会今池礼拝所）が、名古屋の地に伝道を始めてから 2015（平成 27）年 10 月で 100 周年を迎えた。

「私たちの教会が、名古屋に伝道を始めたのは 1915（大正 4）年 10 月 30 日です。名古屋市昭和区鶴舞町の電車通りに面した借家が伝道所で、門の上から松の枝が覗いているという門構えでした。玄関を上がると 2 畳の部屋があり、8 畳 2 間と広い台所、2 階は 2 間で、奥の部屋が 10 畳くらいで礼拝に用いられ、表の 6 畳がホールン宣教師の事務室に当てられていた、と思います」——中学在学中に鶴舞町の名古屋教会で同宣教師から堅信式を受け、のちに日本福音ルーテル教会の議長や神学大学の学長を勤められた岸千年先生＝写真＝が、名古屋教会伝道 50 周年記念誌『教会の歴史』に思い出として書かれている。「あのころの集まりは 14 人から 20 人くらい。中区矢場町にホールン宣教師の住宅があつて、そこで中学生や商業学校の生徒を集めて英語で聖書の講義をしておられました。多いときには 20 人を超え、紅茶やクッキーをいただくのが楽しみでした。ちょっと変わった雰囲気でしたから、ひきつけられたのかも知れません」。さらに、岸先生は「時は来り、時は去るのですが、変わりなきはキリストの限りもない愛です。名古屋教会は愛によってたてられ、愛によって与えられています。兄弟姉妹の愛による交わりが、これからも名古屋教会を強め、御名に栄えあらしめて行くことでしょう」と結ばれている。





それから 100 年。鶴舞町から幾度か移転して現在の千種区今池に根を下ろした。2009（平成 21）年に名古屋東部地区 3 教会（名古屋、希望、名東教会）の合同により、名称は「なごや希望教会今池礼拝所」と変わったものの、改めて 100 年を振り返ってみると、そこには絶えず聖霊の導きがあり、御名によって多くの人々に福音を伝えてきた喜びが残されている。

ただ残念ながら資料の多くが戦災や移転、改築などで散逸しており、まとめるに当たっては、1954（昭和 29）年発行『日本福音ルーテル教会史』、1971（昭和 46）年発行『日本福音ルーテル教会東海教区 20 年史』、1998（平成 10）年発行『東海教区史』、2004（平成 16）年発行『日本福音ルーテル教会 100 年史』と、名古屋教会に残されていた『伝道 50 周年記念誌（1965 年発行）』、『名古屋教会 70 年の歩み（1985 年発行）』のほか、残存していた名古屋教会総会記録などを参考にし、2005（平成 17）年に発行した『宣教 90 年の歩み』を補筆改訂して 100 年史をまとめた。巻末には教会年表のほか、1926（大正 15）年に教会付属の「千種ルーテル幼稚園」として発足、1951（昭和 26）年に「ルーテル幼稚園」と名称変更し、創立 90 周年を迎えた幼稚園の年表も合わせて掲載した。

日本福音ルーテル教会の生い立ち

ルーテル教会は、16 世紀のドイツにおいて、宗教改革者マルティン・ルター（1483～1546 年＝肖像画）によって再び発見された純粋な福音を信じ、教え、かつ実行するキリスト教会である。すべてのルーテル教会員は、ルターの「小教理問答書」および「アウグスブルク信仰告白」に表明された宗教改革の教理を受け入れ、恵みの手段の正しい教理を信じること。また、真の教会は、福音が正しく説教され、洗礼式、聖餐式など聖礼典がキリストの命令に従って正しく執行されるところにある、としている。





日本では、1893（明治 26）年にアメリカの「南部一致ルーテル教会」の宣教師たちによって、佐賀の地で宣教が開始され、日本福音ルーテル教会の基礎が築かれた。そしてルーテル教会は佐賀から福岡の久留米、熊本、九州一円、東京、名古屋、大阪、下関などの地に広がっていった。1904（明治 37）年には長野県諏訪で宣教していた「フィンランド・ミッション」と合同して長野、北海道の地にも「日本福音ルーテル教会」が組織されていった。ところが、第二次世界大戦時下の宗教団体法によって、日本福音ルーテル教会は「日本基督教団」への併合を余儀なくされた。戦争も終わって間もない 1947（昭和 22）年、信仰告白と組織の問題を理由に、日本基督教団を離脱して「日本福音ルーテル教会」を再建したのである。

また、1949（昭和 24）年に宣教師が来日し、静岡、浜松、島田、名古屋などを拠点に宣教活動を続け、1960（昭和 35）年に組織された「東海福音ルーテル教会」と、1963（昭和 38）年に合同し、新たな「日本福音ルーテル教会」が誕生した。同時に「教区制」の変更が行われ、名古屋教会は旧「日本福音ルーテル教会」東教区名古屋地区から復活、挙母、岐阜の 4 教会と共に、新「日本福音ルーテル教会」東海教区の所属になった。（東海教区史から）。さらに、2009（平成 21）年に名古屋東部地区の名古屋教会、希望教会＝1965（昭和 40）年宣教開始＝、名東教会＝1980（昭和 55）年宣教開始＝が合同し、名称も「日本福音ルーテルなごや希望教会」と改め、それぞれ今池礼拝所、自由ヶ丘礼拝所、名東礼拝所として今日に至っている。

名古屋伝道の先駆者たち

日本福音ルーテル教会が 1893（明治 26）年に佐賀で宣教を開始した 22 年後の 1915（大正 4）年、名古屋でも伝道が開始された。名古屋教会の初代・値賀虎之助牧師は 1883（明治 16）年に長崎出島のメソジスト教会で受洗した。鎮西学院に入学、さらに青山学院神学部を卒業して、後に同学院教授になった。41 歳



のとき、伝道を志し、熊本、鹿児島、那覇の各メソジスト教会の牧師として牧会伝道に従事した。その後、九州学院で英語を教えていたが、ルーテル教会に転籍して、再び伝道に身を投じることとなった。同じころ、学院で新伝道地を探し、名古屋を開拓伝道地に決めたイー・テー・ホールン宣教師に誘われ、協力者として名古屋に赴任、ホールン宣教師と共に名古屋伝道開拓の先駆者となった。名古屋に着任したホールン宣教師と値賀牧師は 1915 年 10 月 30 日の宗教改革記念日に昭和区鶴舞町の家で最初の集会を行った。名古屋市周辺にはルーテル教会員がおらず、教師たちとその家庭の人々ばかりだったという。11 月第 1 日曜日からは中区松枝町（現・千代田二）に教会の家屋を定め、日曜学校、聖日の礼拝、水曜日集会を行い、宣教師館では日曜日朝、火曜日午後、水曜日夜に英語聖書の講義を行った。集会に集まった人々は、日曜学校 19 人、日曜日朝 11 人、夜 5 人、聖書研究会は平均 8 人だった。こうした状況でスタートし、1916（大正 5）年に入った。それから 3 年、1918（大正 7）年 5 月に値賀牧師は博多教会に転任するまで伝道活動を続けた。

値賀牧師が去ったあとの 9 月、高島貞久牧師が赴任した。高島牧師は早稲田大学に入学、同政経学科を卒業した。この間に信仰の道に進み、東京の牛込福音教会で受洗した。米国留学などを経て、各地の教会で牧会に従事、名古屋教会に赴任して、正式に日本福音ルーテル教会に転籍した。この年、植村正久氏の東京神学社を卒業してルーテル教会で働くようになった椎名熙一郎伝道師が着任、さらにシカゴルーテル神学校を卒業し、日本宣教師の任命を受けて来日、名古屋に赴任したエス・オー・トウラクソン宣教師と前任のホールン宣教師と共に伝道体制を整え、名古屋教会の活動を軌道に乗せた。1922（大正 11）年には千種区元古井町（現・今池一）に集会所を開設するなど、前任の 2 宣教師に代わって赴任したアーサー・シー・クヌーテン宣教師と協力して、大きな一歩を踏み出したのである。クヌーテン宣教師はシカゴ市生まれでウィッテンベルグ大学ハンマ神学校を 1920（大正 9）年に卒業、同年 10 月に外国宣教師の任を受けて来日、2 カ年間日本語を学んだあと、ルツ・シー・クヌーテン夫人とともに名古屋に赴任した。夫人もウィッテンベ



ルグ大学で教育学を学んだあと、ハンマ神学校で聖書を学び、外国伝道の任を受け、夫君とともに長く名古屋地方の伝道に尽くした。

今池町に新会堂建設、幼稚園も開設

名古屋伝道に大きな足跡を残した高島牧師が 1924（大正 13）年に転任した後を受けて武藤醇牧師が着任、クヌーテン宣教師とともに名古屋伝道に力を注いだ。武藤牧師は小学校教員から献身して九州学院神学部に入學、在學中に欧州戦争に応召して従軍し、戦後、神学校に復歸して卒業した。武藤牧師はクヌーテン宣教師と協力して、1926（大正 15）年にはルーテル幼稚園の前身である千種ルーテル幼稚会を設立、園児 13 人でスタート、初代園長にクヌーテン宣教師夫人が就任した。さらに、翌年には中区矢場町（現・栄三）にあった伝道所を千種区元古井町の集会所に合併し、新しく購入した同所の土地に教会を建設、1927（昭和 2）年 4 月 20 日に献堂式を行った。この年の 5 月、クヌーテン宣教師夫妻は休暇のため帰米、武藤牧師も大牟田教会に転任のため、名古屋を後にした。

同じ年の 6 月、久留米で開かれたルーテル教会総会で、米国で 7 年間研鑽して帰国した平井清牧師が任命を受け来名した。平井牧師は博多ルーテル教会で受洗後、九州学院神学部に入學、途中で米国に留学、レイノア大学を経て、フィラデルフィアルーテル神学校に入學、1926（大正 15）年に卒業。帰路欧州を回り、ドイツのライプチヒ大学神学部にしばらく学んで帰国した。任を受けた平井牧師は新会堂初の牧師として伝道に努めた。1928（昭和 3）年、休暇を終えたクヌーテン宣教師夫妻が再度着任、米国で同師が募金した資金で、1929（昭和 4）年に千種区今池町（現在地より 100 メートル北）に土地を購入し、会堂の再建をはかり、翌 1930（昭和 5）年 9 月完成、同月 14 日から礼拝を開始、同時に幼稚園舎も完成し、同月 28 日に日本福音ルーテル教会総会議長・三浦冢牧師の司式で献堂式を行った。10 月には幼稚園が文部省から正式に認可され、園長にはクヌーテン宣教師夫人が就任した。《名古屋地方では、1928（昭和 3）年、大曾根地方に新しく伝道を開始、大曾根講義所として高瀬義正伝道師が赴任



したが、1931（昭和 6）年に辞任、後任に青山四郎牧師が着任して伝道を始めた＝現・復活教会の前身》

1931（昭和 6）年、平井牧師は 4 年間の名古屋伝道活動を終えて東京に転勤することになり、後任として吉田康登牧師が下関教会から赴任した。吉田牧師は九州学院在学中に熊本教会で受洗し、同学院神学部を卒業すると門司教会から日田教会、下関教会を経て名古屋教会に任を受けた。1938（昭和 13）年に横浜教会に転任するまでの 7 年間、名古屋での伝道に専念した。同年、吉田牧師のあとを受けて、東菊次牧師が着任した。東牧師は大牟田教会で洗礼を受け、1928（昭和 3）年に神学校に入学、1933（昭和 8）年に東京阿佐ヶ谷伝道所に赴任したあと、1938（昭和 13）年に名古屋に転じた。1940（昭和 15）年にはクヌーテン宣教師夫妻がアメリカに帰国、1941（昭和 16）年に東牧師が辞任、代わって大内弘助牧師が名古屋教会からの招聘を受け着任した。大内牧師は 1925（大正 14）年に九州学院神学部を卒業、水俣教会などを経て名古屋教会の牧会活動に従事することになった。

名古屋教会の戦後復興

1941（昭和 16）年 12 月 8 日未明、日本の運命に大きな転機をもたらす太平洋戦争が起きた。そのため、日本におけるキリスト教会も大きな変革に直面した。こうしたなかにあっても伝道活動は続けられた。名古屋地方も重要な軍需生産地帯として、あらゆる面で戦局の推移から受ける影響も大きく、昼夜の別なく行われた空襲で名古屋市はほとんど廃墟と化した。1945（昭和 20）年 3 月 15 日の名古屋空襲で教会堂、幼稚園舎が全焼し、翌 16 日には大曾根講義所が罹災した。同講義所はそれ以前に破壊されて用をなさず、集会は閉鎖し、残った会員は名古屋教会に合流していた。8 月 15 日ようやく戦火が収まって戦争終結。だが終戦による経済的窮迫と、思想的、社会的混乱に直面した。そして、太平洋戦争は日本の宗教地図を大きく塗り替えた。憲法による信仰の自由がそれである。大内牧師は千種区若水町（現・若水）の



牧師館で集会を継続した。このころ、アメリカのクヌーテン宣教師から、組み立て式の会堂を送るために努力している旨の連絡が入った。そして 1949（昭和 24）年 3 月、クヌーテン宣教師から送られてきた組み立て会堂が現在地に建設され、平井清総会議長によって献堂式が行われた。同時に罹災後、休園していた幼稚園も再開した。《この組み立て式会堂は、名古屋教会が本格的会堂を建設した後に、岐阜市の開拓伝道の拠点として岐阜市鷺山の現在地に移転し、現会堂が建設されるまで用いられた》

この年の 8 月、名古屋教会の再建に努力した大内牧師がルーテル神学校に転任し、俵貢牧師が後任として日田教会から赴任した。俵牧師は久留米教会のウインテル宣教師から指導を受け、佐賀地方伝道の宣教助手として働き、佐賀教会で受洗したあと神学校に入学、1935（昭和 10）年に卒業し、直方教会を初任地に、幾多の教会を経て名古屋に着任した。このときの名古屋教会総会員数は男性 30 人、女性 28 人だった。さらに同じ年に、ハロルド・ディール宣教師夫妻が名古屋地方宣教師として宣教活動に加わった。1950（昭和 25）年 8 月には牧師館が完成した。ディール宣教師は名古屋教会 70 年の歩みの中で「私が着任したときは、大内牧師は神学校に転任され、俵牧師がこられたところでした。米国製のプレハブが教会の建物でした。名古屋での初めてのクリスマスでは、暖房の乏しい会堂でいろいろなお祝いのために 9 時間を過ごしたのですが、わたしたちはダルマストーブに出来るだけ近づこうとしたものです。こんな風に皆さんと親しくなれたことは素晴らしいことでした」と記されている。

1951（昭和 26）年、俵牧師が下関教会に転出、唐津教会から江口武憲牧師が後任として転じてきた。江口牧師は 1942（昭和 17）年にルーテル神学専門学校を卒業したあと、唐津教会に任を受け宣教に努めていた。江口牧師も戦後復興をかけた都市部で熱心に伝道活動を続けた。江口牧師は着任当時の思い出として「戦争の跡はまだいたるところ残っており、教会の周辺は家もまばらで、教会の広い敷地は刺のついた鉄の針金で囲われていました。敷地



の一隅には新築間もない牧師館があり、反対側にはジュラルミンとベニヤ板の粗末な会堂が建っていました。そこは聖日礼拝が守られるだけでなく、週日は幼稚園の園舎にもなっていました。教会の成長期でしたから、出席者も月ごとに増え、教会学校や青年会はとても活発でした。短い期間でしたが忙しい日々でした」と、70 周年の歩みに記している。1952（昭和 27）年には、100 人規模の幼稚園舎も完成した。江口牧師は 3 年後の 1954（昭和 29）年 6 月に熊本教会に転任することになり、下関教会から來名した白髭市十郎牧師と交代した。

白髭牧師はルーテル神学校を卒業後、1948（昭和 23）年に博多教会で行われた総会で按手札を受けた。白髭牧師の着任後、教会堂の本建築の動きが活発になり、会堂献金を呼びかけた。予算は 460 万円で、その 1 割を会員が負担するための努力が続けられた。会堂建築をめぐるいろいろな問題があった。本会堂建築のため、教会役員会で会堂設計、その他について話がかかり進められていた。それはあくまでも名古屋教会だけの、非公式の委員会が自分たちなりのプランを積極的に進めるという熱心さだった。熱心のあまり主導権を握る方向に突っ走る傾向があった。会堂建築のルールは本教会の任命した建築委員会が一切の責任を負うことになっており、非公式の委員会は解消すべきだが、この点が最後まで理解されず、白髭牧師が説得に苦勞した。このような問題があったものの、ヴォーリズ建築事務所の設計により、建築費は 400 万円で、1955（昭和 30）年 10 月 18 日に待望の会堂が完成した。ルーテル教会総会議長代理の平井牧師、白髭牧師、ディール宣教師による司式で名古屋教会会員や近隣の信徒らも出席して献堂式が行われ、それまでの組み立て式会堂から移ることになった。総会員数も 150 人前後に増え、礼拝出席者も 45 人から 60 人前後となって、名古屋教会の礎が固まったといえる。新会堂も出来てすべての建設が一段落し、伝道への歩みが力強く始まった。





会員も少しずつ増え、壮年会や婦人会など教会員のグループ活動も活発に行われた。

1958（昭和 33）年、白髭牧師の博多教会への転任が決まり、「名古屋教会在任中の会堂建築をめぐる教会内部の問題や献堂式の準備などで精神をすり減らし、肉体も精神もかなり消耗してしまった」（70 年の歩みから）と、在任 4 年間を振り返って名古屋教会を後にした。

安定した教会成長期に入る

白髭牧師が転任された後を受けて、後任に折田良三牧師が任命された。折田牧師在任中の 1959（昭和 34）年に第一種自給教会となり、自立して伝道活動を展開することになった。1960（昭和 35）年、米国への留学が決まり、その後に大阪教会から中尾忠雄牧師を迎えた。このときの教勢は礼拝出席者 65 人、教会学校生徒 60 人、幼稚園児 96 人、職員 7 人だった。中尾牧師は甘木教会で洗礼を受けて、神戸の英国聖書協会に入社し、聖書の普及に努めていた。後に献身してルーテル神学専門学校に入学、1941（昭和 16）年に卒業したあと、小城教会をはじめ多くの教会で伝道活動を続けてきた。

中尾牧師は名古屋教会のみならず一宮地方伝道など開拓伝道にも力を注ぎ、さらに聾啞者伝道など、幅広く活動を展開していった。1963（昭和 38）年、旧日本福音ルーテル教会と東海福音ルーテル教会の合同に伴い教区制が変更になり、それまでの旧福音ルーテル教会東教区名古屋地区から、東海教区の所属になった。この東海教区には名古屋教会のほか、復活教会、挙母教会、岐阜教会が加わった。1965（昭和 40）年に名古屋教会伝道開始 50 周年を記念して式典を挙行了。この昭和 40 年代は社会人の青年が増えて 30 から 40 人が集まり、教会学校教師や文書伝道奉仕、訪問伝道奉仕など幅広い活躍を展開した。しかし、結婚や転勤などで減少傾向になり、昭和 50 年代には活動もやや低調になってしまった。



一方、中尾牧師は幼稚園の運営にも力を注いだ。日曜日の朝、幼稚園児の母親を対象に聖書研究を続け、その中から多くの受洗者を生んだ。今は亡き中尾牧師から引退後に寄せられた 70 周年の歩みの文章によると「教会に連なる幼稚園は、幼児にイエスの愛を伝える大切な機関であって、教会として無視できないことと思います。多くても少なくとも、イエスの聖言を伝える大切な機会が与えられていることは素晴らしいことであり、教会は幼児教育の原点に立って幼稚園を見直して欲しいと思います。幼稚園は若い夫妻の家庭に接近するのに最も良い条件ではないでしょうか」。さらに「あるとき園庭で遊んでいた 3 歳の女の子が、何があったか分かりませんが、モミジのような手を組み合わせ、目にはうっすらと涙を浮かべ熱心に祈っている姿を見たときほど、大きな衝撃を受けたことはありませんでした。父なる神に祈ることを教えておいて幸せだったと痛感しました」と、書かれている。

1967 (昭和 42) 年に米国ノースダコタ出身のエベリン・タフ宣教師が名古屋に赴任した。12 年間の伝道活動は、中尾牧師と共に名古屋教会を中心に、江南幼稚園、江南団地をはじめ、ルーテル・アワー放送の聖書通信講座受講者フォローアップのため、尾張、一宮地方をカバーするなど、広範囲にわたり、赤い乗用車を駆って、会員や求道者の家庭を訪問したり、集会を開いたりして活躍した。教会内では婦人会や、青年会、幼稚園、父母の会にもかわり、聖書研究などを通して「充実した日々 (タフ宣教師)」を過ごした。また、クリスチャン・ホームが多く誕生したのもこのころである。

《ルーテル・アワー放送は 1951 (昭和 26) 年 10 月、中部日本放送から第一声を送出、全国の民放で放送された。東海地方も 1953 (昭和 28) 年来、日曜朝に中部日本放送のほか静岡放送、月～金曜深夜に FM 愛知など地元局から放送、聖書通信講座＝**写真はテキスト**＝も行われ、聴取者からの講座応答、解答添削のために静岡事務所と名古屋事務所 (復活教会内、ゲイレン・ギルバートソン宣教師＝復活教会兼





務＝と女性伝道師が担当）が設置されていた。東海教区も 1979（昭和 54）年から 1982（昭和 57）年にかけて独自のラジオ伝道「心の広場（静岡放送）」を企画、ルーテル・アワー放送の電波に乗せて展開した。なお、ルーテル・アワー放送は放送局の宗教番組撤退傾向、料金値上げ、放送時間帯の移動などから 1989（平成元）年 12 月末で終了した》。

名古屋教会で 16 年間に渡って牧会活動を展開した中尾牧師は 1976（昭和 51）年に引退、豊田市に移り、キリスト教精神に基づく幼稚園を創設した。中尾牧師の引退に伴い、1976（昭和 51）年 6 月から 1 年間は恵教会（現・名古屋めぐみ教会＝名古屋市南区）の宝珠山幸郎牧師の兼牧となった。宝珠山牧師は名古屋教会の戦前からの伝統である「信仰と愛」を大切に、恵教会との兼牧を果たした。もちろんタフ宣教師が積極的に協力したことはいうまでもない。この年、幼稚園舎の増築などもあり、園児数は 110 人を数えた。また、ボーイスカウト、ガールスカウトが発団、教会も育成会を設けてスカウト活動を支援した。

月報『からし種』を創刊



1977（昭和 52）年に米国留学を終えた伊藤文雄牧師が着任した。伊藤牧師も新しいプール造りや園舎整備を図って幼稚園の定員を 120 人に増員する申請を愛知県にするなど、幼児教育に力を注いだ。また、教会の広報紙として 1979（昭和 54）年に月報『からし種』を手書きのガリ版刷り＝**写真は創刊号**＝で発行した。「みんなの信仰の広場、

啓蒙、証の場所」を発行の主旨と目的として出したもの。1990（平成 2）年の 69 号から活字印刷になり、信徒の編集委員会を設け、牧師が代わって一時中断はあったものの、2005（平成 17）年の 238 号まで受け継がれ発行されて



きた。1979（昭和 54）7 月、15 年にわたって、名古屋教会を中心に伝道活動
を続けてきたタフ宣教師が菊川教会に転任し、代わって横浜教会からデルバ
ート・ルメ宣教師が着任した。伊藤牧師は 1980（昭和 55）年 4 月、「名古
屋教会が人材と施設を生かして、世界のために、アジアのために貢献される
ことを祈りたい」（70 年の歩みから）と、名古屋教会のさらなる前進を期待
しながらルーテル神学校に転勤した。後任には三原教会から明比輝代彦牧師
が赴任した。

明比牧師は『からし種』によると「キリストを信じる者の心は、主によっ
て燃やされます。その人が、み手により頼み、従っている限り燃やされ続け
るのです。それは実に素晴らしい人生です。皆さま、ご一緒にそんな人生を
歩もうではありませんか」と、巻頭言に着任の思いを書いている。ルメ宣教
師と協力して、明比牧師は家庭集会にも力を入れ、5～10 か所の信徒に家庭
を開放してもらい聖書研究会を続けた。また、1982（昭和 57）年に日進市米
野木町南山、愛知牧場内の十字ヶ丘復活苑に会員信徒の遺骨を収める納骨室
3 室を購入したほか、10 月にはバザーの収益金で会堂北側の集会室を増改築
して現在のように広くするなど、整備にも貢献した。この年にスカウトの創
立 5 周年記念式も行った。1983（昭和 58）年、教会は明比牧師の 1 期 4 年
の契約更新を審議する臨時総会を開いて、牧師の招聘問題を話し合い、同牧
師の招聘継続を決定した。一方、幼稚園では後援会の結成を計り、卒園児や
その関係者、幼稚園教師、関係者の協力を募って「ぶどうの会」が発足、支
援活動も活発になった。

1984（昭和 59）年から 85（昭和 60）年にかけては伝道 70 周年を迎える
に当たり、教会堂の屋根の修理や外壁の塗装工事を行った。1985（昭和 60）
年 10 月 27 日、講師に清重尚弘ルーテル学院大学長（現・九州ルーテル学院
大学長）を招いて 70 周年記念礼拝を実施、歴代牧師の言葉や信徒の思い出を
綴った記念誌『恩寵＝名古屋教会 70 年の歩み』＝**次頁写真**＝も発行するな



ど、感謝の催しを行った。さらに開園 60 周年となった幼稚園の感謝礼拝、記念式を 11 月 2 日に千種区内の愛知会館で挙行、23 日には記念子供の集いを教会で開催した。また、1987（昭和 62）年にはスカウト発団 10 周年記念礼拝を行うなど、名古屋教会伝道活動の節目となる行事が相次いだ。



1988（昭和 63）年 4 月、明比牧師は 2 期 8 年間の在任を終え、半田・常滑教会に転任、変わって室園教会の重野信之牧師を招聘した。重野牧師は 1970 年代に東海教区の半田、豊橋教会などで牧会活動が続け、教区常議員も務めて教区事情には詳しく、名古屋教会でも積極的に伝道活動を展開した。とくに、『からし種』を毎月 500 部印刷して各所に送付するなど、文書伝道を重視し、からし種の活用にも力を入れた。さらに、教会玄関の左右の土地を賃貸駐車場として管理組合を組織し、収益事業の実施が出来るよう土地所有法人の本教会と契約し事業収入を計るなど、財政面にも目を向けた。この年の 12 月 26 日から翌年 1 月 29 日までの 1 か月間に会堂の土台かさ上げや、床の張り替え、聖壇の改修も行われ、会堂がリフレッシュされた。

1990（平成 2）年の東海教区総会で再び教育部長（常議員）に選出された重野牧師は、名古屋教会の牧会を行いつつ、教区行政にも力を入れた。さらに 3 月 28 日から 4 月 8 日までシカゴで開催された世界都市伝道協議会に出席したり、10 月 23 日から 30 日まで大阪市で開かれた世界都市伝道協議会に参加するなど対外的にも多忙を極めた。しかし、ルメ宣教師の活躍と多くの会員の奉仕活動もあって教会は順調な歩みを続け、残された記録によると、総会員数 362 人、現住陪餐会員数 115 人、礼拝出席者平均 62 人だった。1992（平成 4）年、みのり教会（豊橋市）牧師の休職で重野牧師が兼牧になった。そのため毎月第 3 主日にはみのり教会で礼拝を担当、名古屋教会では信徒が「証し」を担当して礼拝を行った。



改革の意識と新しい力

1992（平成 4）年に名古屋教会で 13 年間を過ごしたルメ宣教師が定年退職し、1994（平成 6）年 9 月にフィンランドからペッカ・フフティネン宣教師が着任するまでの間は宣教師不在が続いた。1995（平成 7）年 4 月、日本福音ルーテル教会教職転任制度に従い、7 年間の任期を終えた重野牧師は名古屋教会を辞任し、ひかり教会に転出した。代わって、焼津教会出身で、東教区で通算 10 年の牧会、米国で 4 年間の留学を終え、帰国後、諏訪教会で牧会をしていた鈴木浩牧師が着任した。鈴木牧師は名古屋教会の牧師、幼稚園長としてのほか、ルーテル学院大学とルーテル神学校講師も兼ね、1 週間のうち 2 日ないし 3 日間は東京という多忙な日々だったが、名古屋に戻ると牧会活動、とくにマルコ福音書の聖書研究に力を注いだ。しかし、教会を留守にすることが多いため、教会総会で事務長職を設け、幼稚園と兼務することが提案され、検討された。フフティネン宣教師も鈴木牧師を助け、聖書研究会や音楽を通しての伝道活動に努めた。12 月 3 日には白髭牧師を迎えて伝道開始 80 周年記念礼拝を行った。その先生方の働きを受けて、名古屋教会に変革と新しい力がみなぎってきたことが、総会報告書に記されている。

しかし、1996（平成 8）年、フフティネン宣教師が帰国、鈴木牧師の一人体制となったため、前年提案された事務長職が設置された。こうした中であっても、鈴木牧師のマルコ福音書の聖書研究会は続けられた。教会員の聴講者も多く、配られたテキストは B 5 版 400 ページを超す膨大なものになった。神学校講師をしながらの聖研準備だったが、鈴木牧師は「原稿は（推敲を重ね、書き直し、清書して）そのまま出版できるような状態にする」というカール・バルトの言葉を実践した。《このテキストは名古屋教会 90 周年記念として、『ガラヤへ行け—マルコ福音書研究』というタイトルで新教出版社から出版された》。



1997（平成 9）年 10 月、ルーテル学院大学が鈴木牧師を招聘し、翌年 4 月からルーテル神学校の専任教師として転出することが伝えられた。名古屋教会役員会はルーテル学院大学の「名古屋教会を全面的に支援する」、本教会の「今年度人事で最優先する」という言葉を受けて、鈴木牧師の転出を了解し、常駐牧師の不在のやむなきにいたった。また、主任牧師として名東教会のトーマス・スティンバーグ宣教師の兼任が発令された。9 月には、信徒宣教師としてフィンランドからヘレナ・カリヤライネン宣教師が着任して活動を開始したが、11 月に体調を崩し、翌年、就任式を行ったものの、4 月に帰国することになった。毎週の聖日礼拝には学院大の清重尚弘先生、徳善義和先生、江藤直純先生、J・サック先生、鈴木浩先生ら大学、神学校の教授陣が来名し説教を受け持った。もちろんスティンバーグ宣教師も主任牧師として礼拝を行い、信徒も当番制で礼拝を担当し奨励を行った。

1 年間の常駐牧師不在は会員に多くの教訓を残した。このころは東海教区で複数共同牧会論議が活発に行われており、それだけに会員一人ひとりの役割、何が出来るかを学んだ年になった。礼拝出席者数は平均 44 人、前年を 2 人下回った。この間、役員会は牧師人事を働きかけてきた。しかし、思うような進展を見ず苦慮してきたが、下関教会の落合成光牧師が招聘を受け、1999（平成 11）年 4 月に着任した。翌 2000（平成 12）年度の教会総会報告で「昨年 1 年間の新来会者は 57 人になり、この方々にどのように関わっていくかが、最優先されるべき」と述べ、これらの人々との交わりのための文書伝道、電子メール、ホームページが必要で、新しい伝道方策を展開する時代になったとの認識を示した。名古屋教会も時代の先取りがこれからの伝道には不可欠な要素になってきた。1 年間の常駐牧師不在のマイナスを取り返すためには大きな努力が求められ、落合牧師も説教を中心とした伝道に力をいれた。そんなとき、東海教区総会で教区書記（常議員）に選ばれ、名古屋めぐみ教会に設けられていた教区事務所長も兼任となって教区内の諸教会との関わりも増えた。教会では幼稚園長も兼ねており、忙しい日々となった。



衝撃走る幼稚園舎の全焼

2001（平成 13）年 4 月 6 日未明、名古屋教会員と幼稚園父母たちに大きな衝撃が走った。午前 2 時 50 分ごろ、幼稚園の正門付近から出火し、木造モルタルの一部 2 階建て園舎（450 平方メートル）が全焼したのだった。翌日の新聞によると、この日、名古屋市内の千種区と東区で 5 件の不審火による火災が発生し、幼稚園もそのうちの 1 件だった。

当時、幼稚園運営委員会の内河恵一委員長は「火災は入園式の 3 日前でした。教会が園舎再建に迷うことは、即事業の停止に繋がりがねません。存廃議論に時間をかけることは許されませんでした」と振り返る。火災のあとすぐに教会、幼稚園の関係者で「ルーテル幼稚園園舎再建合同委員会（委員長・内河運営委員長）」を発足させて募金活動を進める一方、ナゴヤ・ミュージカル・センターの企画協力を得て千種区今池のガスホールで「イサオ・ササキ&篠崎正嗣デュオコンサート」、同区池下の愛知厚生年金会館で「グッチ裕三&グッチーズコンサート」「亀渕友香ゴスペルコンサート」などのチャリティーコンサートや、同区吹上、浩養園の協力で同園を会場に「ドラゴンズグッズのチャリティーオークション」などを計画、さらに教会会堂を会場に「アイルランド音楽とクラシックの午後」「フィンランドのゴスペルファミリー」も計画。そのチケット販売、プログラムの広告集めに教会員、幼稚園父母たちは一丸となって飛び回った。その努力がむくいられ、会場や出演者をはじめ多くの協力者、聴衆を集め、すべての公演を成功させた。宗教法人立のため公的資金の援助はなく、本教会からの支援もなく、すべて独自の活動だった。

全国の教会やOBら約 1400 人・団体の寄付金や物品提供もあって、翌 2002（平成 14）年 3 月 9 日に園舎の完成式、15 日には卒園式が行われた。内河委員長は新しい園舎＝写真＝の 2 階ホ





ールで行われた完成式で「新園舎の完成でさらに中身を充実させ、神さまの前に一人ひとりの子供たちを大切に、厳しい社会を力強く生きていくための主体性を伸ばす保育活動を地域に提供していきたい」と語り、多くの人々の協力に謝意を表した。この願いは教会員の共通の思いであり、まだ続くであろう困難に向かう決意となった。父母の会会長も「地域の人たちや教会の方々、卒園者の温かさを体験することが出来ました」と、教会と地域の絆の強さを感じとっていた。建設会社の協力もあって焼失から約 11 ヶ月での再建で、建設費は備品も含め約 1 億円だった。

新しい園舎も完成し、苦難を克服した喜びが広がったその年の 6 月、ふたたび教会と幼稚園関係者に衝撃が走った。6 月、7 月の二か月間に新園舎の職員室の床、廊下の壁板、牧師館の応接室などで 4 回も放火騒ぎが発生、さらに 5 回目は礼拝堂の受付にも油のような液体がまかれる事件が起きた。幸いいずれも大事に至らなかったが、幼稚園の父母の動揺は大きく、千種警察署もパトロールカーを常駐させ、定期的に巡回するなど夜間警備を強化した。教会も男性教会員やボーイスカウトが協力して、教会に交替で泊り込むなど防犯活動を展開する一方、セキュリティーも強化し、教会や幼稚園の周囲が見渡せるよう防犯カメラを設置し、防犯ベルも増やした。この間も父母や教会員が見守る中で幼稚園の保育は続けられた。

しかし、11 月末になって予想もしていなかった悲しい結末を迎えた。幼稚園事務を担当していた夫人が逮捕されたのである。「新しい園舎ができ、引っ越しや事務が忙しくて体調を崩し、昨年の火事を夢見るようになった。その後、県などに出す申請書の事務が停滞し書類を燃やそうと思った」という。当時の山之内正俊総会議長は 12 月 21 日の地元新聞朝刊 2 紙に「お詫び広告」を掲載し、さらにルーテル教会機関紙『るうてる』2003（平成 15）年 1 月号に、ルーテル教会としてとった対応を説明した。また、裁判には、幼稚園や教会の関係者ら約 200 人が、祈りと共に寛大な処置を願う嘆願書を提出した。結果は猶予判決だった。夫人は「なぜ、このような恐ろしい



罪を犯してしまったのか、「なぜ、誰かに相談できなかったのか。たくさんの「なぜ」を自分に問いかけてみても、はっきりした答えを見つけることが出来ません。少なくともあの時は自分自身の今しか見ることが出来なくなっていました。神さまに背を向け裏切ってしまったのです。幼稚園の子供たちや保護者、教会の方々に心からお詫びしたい」と述懐している。この年の1月、落合牧師は「社会的責任、道義的責任、教會的責任をどう果たせばいいのか、考えて歩いていく」との言葉を残して辞任した。教会も、この言葉を重く受け止め、共に祈りつつ静かに歩みたいと願っている。また、6月にはスカウト育成会の総会が開かれ、解散することが決議された。少子化による団員の減少が響き、スカウト活動が出来なくなったのが解散の原因となった。

落合牧師の辞任後、京都教会から小泉潤牧師が着任するまでの6か月間は、当時、復活教会で牧会をしていた明比輝代彦牧師の兼務となり、常駐牧師不在を余儀なくさせられた。このころから東海教区では政策の要である自立教会の形成にかげりが見え始め、自立教会候補と目されていた教会の成長が鈍化し、牧師の人事異動にも影響が出始めた。このため複数共同牧会問題の論議が盛んになった。7月になって小泉牧師が着任し、教会員の精神的アフターケアを中心に精力的に伝道活動を展開した。小泉牧師はルーテル教会の総会議長も経験し、教会の状況にも詳しく、〈礼拝を整える〉〈牧会をする〉〈伝道をする〉〈奉仕の業を展開する〉〈教会を管理する〉の5つの目標を設定し、その一つひとつの実行を目標に、豊かな経験を生かしつつ努力した。さらに、名東教会のティモシー・メイソン宣教師の転任により、同教会を兼牧し、主日の午前中は名古屋教会で礼拝司式・説教を行い、午後は名東教会で礼拝司式・説教を行うことになったほか、知多教会の人事異動に伴い主任牧師となり、3教会を掛け持ちする多忙な日々となった。この年の礼拝出席数は平均42人だったが、初めて教会を訪れた人が42人あった。昨年からいろんなことがあっただけに、新来会者の増加は地域との大きなつながりであり、名古屋教会の牧師、会員の働きが認められた結果となった。



合同で新しい教会が誕生

2004（平成 16）年に入ると、名古屋、復活、希望の 3 教会に名東教会も加わり、明比牧師をリーダーに教会代議員ら信徒役員が集まって、東海教区の複数共同牧会方策＝従来の 1 教会 1 牧師の形態は牧師不足の折、成り立たなくなってきた。牧師不足を兼牧体制で補う道もあるが、兼牧される教会が常に「従」の立場におかれがちになるため、こうした不均衡を解消し、一つひとつの教会に教職の働きが行きわたるために、教区が導入を決めた制度。複数の教職が複数の教会、または一つの教会で協力して宣教、牧会の務めを行う体制で、宣教、牧会において信徒の賜物が生かされるよう、牧師と信徒が協力する体制と定義されている＝を受けた合同会議が頻繁に行われた。合同礼拝なども実施されたが地域差や会員の事情もあり、話し合いはなかなかまとまらず会議は続けられた。

2005（平成 17）年 3 月末、小泉牧師が定年を迎えて退職、改めて知多教会に牧会委嘱を受けて転任した。さらには、復活教会の明比牧師も転任となった。2005 年 4 月、4 教会（希望、名古屋、復活、名東）は、神水教会の末竹十大牧師、小鹿教会の竹田孝一牧師を招聘した。基本方針は、4 つの礼拝を 2 人の牧師が交互に担当し、4 教会が合同に向かうというものだった。末竹牧師は名古屋・名東教会、竹田牧師は復活・希望教会の牧会をすることになった。両牧師の着任により 4 教会合同への動きが一気に活発になった。両牧師とも東海教区内教会での牧会を経験済みで教区事情にも通じ、直ちに合同役員会、合同作業委員会、共同活動委員会などの組織をつくり、討議を続けた。その結果、合同役員会で、合同するということでは一致を見たものの、「教会共同体を形成し、合同の期日は定めない、センターチャーチ構想も視野に入れる」という提案がされた。両牧師からは「4 教会が合同するという前提で招聘を受けた。その前提が無くなった以上、今回の招聘を解除し



て、新たに招聘しなoshite欲しい」との要望が出された。これを受けて、名古屋・希望・名東・復活の4教会は、「合同を目指す教会共同体を形成することを前提として、主にある一致を目指して一緒に働いて欲しい」と再度招聘し、両牧師も応諾して新たな活動委員会を設け作業を続けることになった。

この年、名古屋教会の動きを伝えてきた月報『からし種』が3月発行の238号＝**写真**＝を最後に休刊となった。企画し集稿し、編集する担当者が不在になったのが原因で、新しい編集者を公募したものの応募者が無く、やむなく休刊することになった。



宣教90周年を迎えた10月23日には、90周年記念礼拝を「あの方はあなた方より先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる（マルコ16章7節）」を主題聖句に「歴史を振り返り、現実を確認し、神のみ恵みを覚えて、さらなる宣教に進む」をテーマとして、ルーテル学院大学の鈴木浩教授を招いて行った。午前中の礼拝に引き続き、午後は隣接ホールに席を移して、記念パーティーを開催、明比輝代彦東海教区長（竹田牧師代読）、田中博二地区宣教委員長の祝辞のあと、参加者全員で食事を共に楽しみ、3人の教会員からそれぞれの年代別に語られた当時の思い出を聞いて、90年の歩みを振り返った。さらに記念会のあと、会堂で二人の女性会員による賛美コンサートもあって、終日、記念ムードに包まれた。出席



者には名古屋教会が新教出版社から自費出版した鈴木浩ルーテル学院大学教授の著書『ガリラヤに行け』（A5判上製＝**写真左**）を記念品として贈呈し喜ばれた。また、名古屋教会の『宣教90周年の歩み』（A4判横）も発行、あわせて贈呈した。10月31日には創立80周年を迎えるルーテル幼稚園が同ホールで、記念礼拝と中部大学桐山



雅子教授による記念講演会「子育ては心育て」を開いた。このあと、同園の卒業生によるバイオリン独奏、在園児保護者によるトーンチャイム演奏なども披露されて 80 周年を祝った。

2006（平成 18）年も年初から教会合同への動きが続けられた。9 月 16 日の 4 教会合同代議員会には、東海教区の青田勇教区長も出席、「合同に向かって働いてきたが、与えられた任が全う出来ないので辞任したい」という末竹、竹田両牧師の意向が伝えられた。4 教会のうち、名古屋、希望、名東の 3 教会は「（合同後、復活教会との関わりにおける礼拝形態の検討を続け、3 教会合同のセンター教会が招聘することにして）慰留したい」、復活教会は「（教会・幼稚園の課題が解決されなければ慰留することは）受け入れられない」と意見が分かれた。この結果を教区長に報告し、名古屋教会臨時信徒会の意見も踏まえ、改めて 3 教会が両牧師を招聘（慰留）、復活教会に関しては 4 教会合同から切り離して、3 教会合同でスタートすることを確認した。12 月 31 日のことである。

いろいろな紆余曲折があったものの、この年の 8 月に英語礼拝の宣教師として来日したチャールズ・フレドリクソン宣教師も加わり、2007（平成 19）年 4 月から『一つの教会』としての働きが実質的に始まった。主日礼拝は名古屋教会が午前、希望教会が午後、名東教会のメンバーはどちらかの教会に出席することになった。同年 6 月 3 日、名古屋教会での合同礼拝後に合同臨時総会を開き、教会名称を「日本福音ルーテルなごや希望教会」に決定した。宣教 92 年の名古屋教会、同 42 年の希望教会、同 27 年の名東教会が一つに結ばれ、新しい歴史の一ページを開いた日でもある。そして 2008（平成 20）年 2 月の教会総会で 3 教会の名称も、今池礼拝所（旧・名古屋）、自由ヶ丘礼拝所（旧・希望）、名東礼拝所（旧・名東）と決まった。役員会も一本化された。新しい教会は東海教区総会、本教会総会の承認を経て、2009（平成 21）年 1 月に正式発足した。



名古屋教会 通史補遺

ルーテル幼稚園の保育

名古屋ルーテル幼稚園

運営委員長 松隈芳久

はじめに

名古屋ルーテル幼稚園の保育は、「キリスト教保育」、「自由保育」と呼ばれる保育理念、「縦割り（異年令混合）保育」と称される保育形態などを特徴とする。宣教 100 周年を機に、幼稚園 90 年の歩みの中にこれらのキーワードが登場し、園の特徴となるに至った経緯を辿ってみたい。

本稿は、これらの保育にひたむきに取り組み、特色ある園づくりに尽くした中野廣子姉からの聞き取りを中心にして作成した。従って、記録としては、彼女が第一線を退いた 2000（平成 12）年 3 月までのルーテル幼稚園を対象にしている。表題を「ルーテル幼稚園の保育」としたゆえんもそこにある。

キリスト教保育の源流

名古屋ルーテル幼稚園の歴史を辿ると、園長ルツ・クヌーテンの名が開設から 10 数年間残されている。宣教師アーサー・C・クヌーテンの夫人である。当園のキリスト教保育のルーツはここにある。太平洋戦争の勃発による宣教師の母国への帰国を受け、初めての邦人園長として大内弘助牧師が就任し、終戦までの 4 年間、その任を務めた。終戦後の休園期間を経て 1949（昭和 24）年に園が再開されて以降 1979 年度まで、さらに 7 代にわたって牧師が園長を務めることとなった。

園職員に目をやると、太平洋戦争中の 1941 年度から休園期を挟んで 1950 年度にかけて長留文子姉の名がある。教会員の江田文子姉（2014（平



成 26) 年 9 月、96 歳で召天) だ。名古屋のミッション系の学校で保育を学んだ方である《因みに、1932 (昭和 7) 年、クヌーテン園長時代に長留幸子姉の名がある。文子姉の姉上である》。

1949 (昭和 24) 年の幼稚園再開から 4 年にわたって太田操姉 (旧姓: 松岡) の名がある。日本福音ルーテル東京教会で本田牧師に導かれた方で、江田姉と共に幼稚園の再生に貢献された。その後の職員欄には青柳富貴姉 (のちに椋山女学園大学付属幼稚園・園長: 故人)、高木妙之姉 (現姓: 佐藤)、中野廣子姉など身近に接した教会員の名が並ぶ。

ルーテル幼稚園史に中野姉の名が初めて現れるのは白髭牧師時代の 1957 (昭和 32) 年である。1927 (昭和 2) 年生まれの彼女は、軍国主義に弄ばれた世代である。江田姉と同じキリスト教主義の学校で保育への道を歩み始めるものの、勉学の機会は名古屋陸軍兵器補給廠・高蔵寺部隊での勤労奉仕 (火薬の小分け作業)、お寺での学童保育への動員などに奪われ、専門的な知識、技能を身につけるいとまもないまま免状を与えられての卒業だったという。こうして始まった保育者としての歩みは、かじりかけのフレーベル教育の知識を頼りに手探りで進むものだった。

フレーベル教育への取り組み

日本の幼児教育の分野では、明治時代から幼児教育の祖と称される F.W.A. フレーベルが提唱した、いわゆる「フレーベル教育」が主流だった。中野姉が学んだのもそうだったから、試行錯誤の第一歩はこの伝統的な保育への取り組みだった。

フレーベル教育では恩物 (おんぶつ) と呼ばれる教材 (第 1～第 10 恩物) と、それによる手技工作 (第 11～第 20 恩物) が基本的な構成である。その詳細は省くが、教材としての毛編み玉、積み木、色板などを、組む・折る・切るなどして遊ぶ。

フレーベル教育の実践に励む彼女に園長・折田牧師 [1958 (昭和 33) 年～1960 (昭和 35) 年在任] から一つの問いが投げかけられた。「キリスト



教保育の基本はなんですか？」。中野姉がルーテル幼稚園の教師になって約4年、日々の保育に追われながらも自分の保育を見直す時が来ていた。折田牧師の問いは、時宜を得たものだった。

間もなく折田牧師に代わって中尾牧師が着任し、15年間(1960(昭和35)～1975(昭和50))にわたって園長を務めた。中尾牧師は歴代牧師の中でもとりわけ熱心に幼児教育に取り組んだ。小城教会、大阪教会など、幼稚園を持つ教会を歴任し、幼稚園運営にも手腕を発揮して、着任時70名足らずだった園児が数年のうちに100名を超えるまでになった。児童書を自費出版するなど、児童文学にも造詣が深く、それらを散りばめ熱をこめて語られる毎週の全クラス合同礼拝での説教には迫力があつた。

各クラスは毎日、朝の礼拝で始まった。中尾牧師は祈ることの大切さを園児や保護者、教師たちに説いた。教師たちにとって、毎週・木曜日の教会の祈祷会は、「出席すべきもの」だった。1975(昭和50)年に退職されると、豊田市井上町に自ら幼稚園を設立された。

この15年間にわたる中尾園長時代も、中野姉は保育現場の責任者として日々の務めを果たしつつ、自分に突きつけられた「キリスト教保育とは何か」との命題を前に、答えを求めて試行錯誤を続けていた。

フレーベルは幼児期に自由に遊ぶことの大切さを説いたのだから、当時の「フレーベル教育」は、決められた教材、手法で、決められた作品を作り上げる教育として普及していた。子どもの自主性、創造性の育みを目ざす中野姉にとって、当時のフレーベル教育は保育者が子どもに指示する保育と映ったのだった。

この当時に読んだ本では、実用性本位の教材と心理学的教育方法で知られるドイツの教育者ザルツマン(1744-1811)の「蟻の書」、「蟹の書」の2冊が心に残っているという。

モンテッソーリ教育との出会い

1960年代になって新たな幼児教育法が日本に伝わってきた。20世紀初



頭にイタリアの精神科医マリア・モンテッソーリによって考案された「モンテッソーリ教育」である。子どもたちが手にする色とりどりの木製玩具には、彼らの繊細な五感をやわらかく刺激するよう、その形、大きさ、手触り、重さ、材質などに深い配慮がなされている。

フレーベル教育に違和感を抱いていた中野姉にとって、この教育には心惹かれるものがあつた。モンテッソーリ教育を先駆的に実践していた愛知県立大学の付属幼稚園を訪ねると、そこには自由に、しかも遊具に込められた思いに沿って遊ぶ子どもの姿があつた。遊具を整え、教師たちと研修を進めて、ルーテル幼稚園のモンテッソーリ教育が動き出したのは 1970 年代も半ばを過ぎる頃だった。

いうまでもなく、モンテッソーリ教育も保育の一手法にすぎない。学べるべきは、単なる保育の手法でなく、幼稚園という集団の中でしかできない子どもたち同士のふれあいを生かす保育の心である。それが中野姉の思いだった。

自分たちの保育を

当時は「キリスト教保育連盟」の活動が活発で、あちこちで講習会などが開かれていた。望ましい保育を模索していた中野姉は、それらに積極的に参加した。そこは、同じような問題意識をもつ保育者たちとの交流の場でもあつた。

その交わりの中に愛知県立大学や近隣幼稚園の教師たちがいて、ひとつのグループができていった。その仲間たちとの話し合いから、フレーベル、モンテッソーリなど既存の教育法にこだわらず、広くキリスト教保育の心を学ぼうという機運が芽生えていた。

1973（昭和 48）年、中野姉と近隣の幼稚園長の二人が、愛知県私立幼稚園教員海外研修でヨーロッパに派遣された。フィンランド、イギリス、ドイツ、スイス、フランスなどの保育施設を訪問し、保育の現場をつぶさに観察するとともに、当地の先生たちの保育観などにも触れた。心に残った



のは、子どもたちを自由に遊ばせ、必要なときに、それぞれの子どもを手助けする先生の姿だった。子どもたちを一つに集めて指導する姿は目にしなかった。先生たちは多様な保育観を持ち、自分の保育に確信を持っているのが印象的だった。日本では手に入れにくい遊具を買い求めることができたのもありがたかった。この海外研修を経て、自分たちの保育を探ろうとの思いがさらに募った。

自分たちの学びに指導者が欲しいということで、白羽の矢が立ったのは、東京都町田市にある鶴川学院農村伝道神学校の太田千恵子先生だった。先生はキリスト教保育連盟のカリキュラム委員長だった。太田先生が講師を務める講習会に参加したり、名古屋に先生を招いたり、あるいは鶴川学院シオン幼稚園の見学に出かけたりした。絵画やリトミック（リズム遊び）などの実技を学び、保育現場での疑問を解く場でもあった。キリスト教保育の精神とそれに基づくカリキュラムの立て方も学び、それを実践している幼稚園で確認することができた。この実り豊かな学びは、1970年代半ばから約10年続いた。そこで見えてきたものが、キリスト教保育の実践理念としての自由保育だった。

自由保育へ

「自由保育」とは、日本の幼児教育の先駆者である倉橋惣三(1882～1955)が提唱した保育理念で、子ども自身の意志や主体性を尊重し、自発的な活動を中心とした保育をいう。子どもの自由な発想を活かす保育理念だが、保育者の関わりが欠けると「放任」に陥るおそれがある、とされる。なお、自由保育と相対する保育理念は、保育者が指導目標に沿って進める「設定保育」で、クラス全体を対象とすることが多い。

中野姉は、キリスト教保育と自由保育とは切っても切れない関係にあると考える。「一人ひとりの子どもが神様からの賜物である」ということを実践するのがキリスト教保育の出発点と捉らえるからである。以下に、中野姉が語った言葉の中から、自由保育に関するものを抜粋した。



自由保育の姿

- ◆ 子どもは一人ひとりちがうし、また変わっていく。それぞれの思いを受けとめることが大事である。それが、必要に応じて友だちを助ける子どもを育む。
- ◆ 自分の思いで子どもたちを動かすのではなく、子どもたちがやりやすいように環境を整えるのが先生の務めである。
- ◆ 「こうしたら」と先に口を出さないこと。子どもは自分で、また子供同士で考えるようになる。失敗したら、どうしたらよいかを考えさせる。
- ◆ 保育を時間で区切るのではなく、遊びの流れに沿って進める。「おやつ」も一斉でなく、時間に幅をもたせるとよい。遊びを終えて頂くおやつは、うれしい。

反省点

- ◆ 自由保育では子どもが先生の役割を果たせる場面があるが、子どもまかせの「手抜き保育」と誤解されたことがある。教師は状況を適格に把握していなければならない。
- ◆ 保育の終了時間が遅れがちになり、迎えにきた保護者の不興があったことがある。状況に応じて保育の流れをコントロールすることも必要である。

縦割り保育

自由保育の実践手段の一つに縦割り保育(異年令混合保育)がある。

1974 年、中野姉は 3 才児から 5 才児と一緒に活動する縦割り保育を採り入れた。この保育形態の良さは、つぎのような点にあるとされる。

- ◆ 年下の子どもは、年上の子どもの活動を見て学び、憧れ、目標にする。
- ◆ 年上の子どもは、年下の子どもの世話をし、教えることによって、自信、やりがい、思いやりを持つようになる。



- ◆ 少子化の時代、異年令の子どもと交わることで、自我の発達、自然な上下関係の形成が促される。

おわりに

1980（昭和 55）年 4 月、それまで歴代の牧師が務めてきた園長職に、初めて信徒である中野姉が就任した。以後、若干の曲折を経て、2000（平成 12）年 3 月の彼女の引退まで信徒園長が続き、その後、2003～2005 年度の嶋昭江姉、2006～2013 年度の浅井敬兄とその流れが継承されることになる。

中野姉は、聞き取りが終わる頃、保育の心得を示す一遍の詩を教えてくれた。

あなたのこどもは あなたのこどもではない

彼らは 人生の希望そのものの 息子であり娘である

あなたは 彼らに愛情を与えてもいいが

あなたの 考えを与えてはいけない

あなたは 彼らのようになろうとしてもいいが

彼らを あなたのようになろうとしてはいけない

何となれば 彼らは彼ら自身の考えを持っているからだ

カール・ギブラン



希望教会 通史



希望教会の宣教は、名古屋市の東山地区の発展に着目して、1963（昭和 38）年 10 月にエリック・ピーダーセン宣教師が派遣されたことに始まる。現在地（千種区富士見台）に建てられた宣教師館で宣教への準備を続け、2 年後の 1965（昭和 40）年 9 月 12 日に宣教師館で最初の主日礼拝を行った。

その後、同区光が丘に土地を求め、教会堂を建築し 1967（昭和 42）年 3 月に献堂式が挙行された。その頃、陪餐会員は 6 名であったが、英語バイブルクラスや親子英会話教室が盛んに行われ、キャンドルサービスには 59 名 子どもクリスマス祝会には 120 名の出席があった。

1974 年までに自給を目指すとして宣教されていたが、光が丘の会堂は場所がわかりにくいところだったため、富士見台の宣教師館に人が集まるようになった。そこで、1972（昭和 47）年に光が丘に宣教師館を建て、1975（昭和 50）年に現在地への移転を決めた。

富士見台の宣教師館では 1976（昭和 51）年 8 月から礼拝をはじめ、さらに改善を加えて、1980（昭和 55）年 9 月 4 日に献堂式を行った。

1981（昭和 56）年には初めての専任邦人牧師となる早川顕一牧師が着任した。教団讃美歌になじみのある信徒が多かったため、礼拝には教団讃美歌が使用された。家庭集会、お花教室、お料理教室が行われた。CS も多くの子どもがあつまり、牧師の特技を生かしたけん玉会が盛んだった。後にけん玉名人も誕生した。1989（平成元）年からは、第 1 種自給教会をめざし、現住陪餐会員が 40 名を超え、主日礼拝平均出席者数も 35 名となった。1991（平成 3）年に内藤新吾牧師が着任し、1992（平成 4）年に第 1 種教会となる。讃美歌は教会讃美歌が使用されるようになった。



1993（平成 5）年広島プロジェクト問題について勉強会が行われる。真摯な態度でこの問題と取り組まれた内藤牧師の姿は、希望教会に連なる人々に深い感銘を与えた。勉強会はこの後 1996（平成 8）年まで続けられた。

C S では、以前から盛んだったけん玉にたこ焼きが加わり、「けん玉たこ焼き会」が子供たちの人気となった。内藤先生独自のレシピは好評だった。毎年夏に行われた C S キャンプは、ワイルドで思い出深い。教会員も一緒に参加した 1996（平成 8）年の駒ヶ根のキャンプは、素晴らしい景色と共に内藤先生の背中に背負われていた元吾くんを思い出す。

1994（平成 6）年には現在も使用されている会堂のイスが製作された。何度も試作し、ようやく作られたもので、重いがとても丈夫でひっくり返る危険がない。また、よく食べる教会であった。宴会やパーティー等が度々催された。

1995（平成 7）年希望教会の新しい看板を設置した。

1996（平成 8）年には近所の子供たちを集め、内藤文子牧師の「やかまし村の集い」が行われた。礼拝は柴田教会への宣教協力のため、毎月一回の信徒礼拝が行われた。また、宣教 30 周年の文集が制作された。

1997（平成 9）年に中村朝美牧師が着任した。10 月より、今まであまり使われていなかった教会式文を使用した聖餐礼拝が行われるようになった。式文になじめない信徒もあった。教区では複数共同牧会の協議が行われるようになった。複数共同牧会をめざしながら、復活教会との合同が協議されることとなった。

その頃、礼拝に出席されていたバル・パトリシーニョ兄より手作りの聖壇布が献品された。

C S はけん玉たこ焼き会が続けられ、ミニ四駆のコースを制作した。

1998（平成 10）年、希望館は雨漏りのため屋根の修繕をすることとなり、本教会の老朽化対策貸付を受けた。修繕費用は 140 万円。4 月より行われていた 3 教会複数共同牧会に向けての協議は、教区方策案が出るまで暫定的中



止となった。その後教区の方策案は復活教会と希望教会の合同となり、11月から復活教会と具体的な話し合いを再開するになった。

C Sは、けん玉たこ焼き会、ミニ四駆会が続けられた。

1999（平成 11）年には老朽化したブロック塀を撤去し、フェンスが設置された。これにより、教会の花壇が歩道からよく見えるようになり、教会の庭を見ながら散歩をする近隣の方を見かけるようになった。閉鎖的だった庭が明るく開放されたようであった。工事費用約 70 万円。

復活教会との組織合同をめざし、毎月 1 回 2 教会役員協議が行われた。

信徒間の交流を深め、2 教会が自分たちの教会であるという意識を持つための様々なプログラムが持たれた。更に 3 回の信徒会を開き、理解を深めた。

8 月に地区宣教委員長の要請で、名東教会を含めた 3 教会協議を持ったが、複数共同牧会の可能性までには至らなかった。

2000（平成 12）年 1 月、尾張岐阜地区宣教委員会で市内 6 教会（名古屋、恵、柴田、復活、希望、名東）で複数共同牧会を目指すという委員長提案が了承され、作業部会を組織し具体的に検討することとなった。しかし、この 6 教会協議会は教区の宣教方策がはっきり示されないため中断となった。

2001（平成 13）年、東海教区宣教 50 周年記念信徒大会のため来名した初代宣教師ピーターセンご夫妻、ルティオ宣教師、モルグ宣教師ご夫妻、ミッチェル宣教師が信徒宅にホームステイし、旧交を深めた。11 月 5 日の全聖徒主日には、ピーターセン宣教師、ミッチェル宣教師によって、説教と聖餐に与った。

希望館の絨毯の張り替えが行われた。

復活教会との 2 教会役員協議が続けられたが、次の理由で合同は破棄された。「合同に対して細部にわたっての調整が出来ず、合同の合意を白紙に戻し、今後は教区の宣教方策が明確になるまで個々の教会で待機する」

2002（平成 14）年、4 月より名古屋教会との兼牧となる（落合成光牧師）。しかし翌 2003（平成 15）年、諸事情のため牧師不在となり、急遽内藤新吾牧



師が主管牧師となった。希望教会の信徒は信徒礼拝を拒否し、教区からの応援牧師も毎週は望めなかったため、教団の引退牧師に応援をお願いすることとなった。当時礼拝にご夫婦で出席していた松田一路牧師と志村信夫牧師が月に一度説教を引き受けてくださった。そのため教団讃美歌が使用されることがあった。また、若い人にも受け入れられやすいようにと、内藤主管牧師の方針により、リビングプレイズなど新しい讃美歌を積極的に取り入れ、簡略式文を作る等、試行錯誤を行った。教会存続の危機感のため、2003（平成15）年度の希望教会定期総会は90%を超える驚異的な出席率のもとで開催された。

2004（平成16）年に小泉潤牧師が名古屋、名東に、明比牧師が復活、希望に着任したが、復活教会との兼牧のため、10月より礼拝時間が午後2時となった。2003（平成15）年11月より名古屋、復活、希望3教会合同役員会が開かれ合同を目指して、協議が行われた。

2005（平成17）年4月、名古屋4教会の牧師として竹田孝一牧師、末竹十大牧師が着任した。復活、希望は竹田牧師、名古屋、名東は末竹牧師が担当。式文は簡略化したものを使用。リビングプレイズも使用した。簡略式文は足りない部分があったため、正式に認められるように整えていくこととなった。

2006（平成18）年、9月の合同役員会において、4教会の思いの違いが明確となり、牧師2人は辞任を表明。名古屋、希望、名東の3教会の代議員が集まり、まず3教会で合同しようということになり、10月の合同役員会において3教会合同が承認された。合同した3教会は辞任を表明した牧師2人を再招聘し応諾された。

2007（平成19）年4月より、名古屋、希望、名東の3教会は組織合同して一つの教会となるべく歩み出した。老朽化していたエントランスやひびの入っていた希望館の外壁がリニューアルされ、白い壁は木目に、庭は車がたくさん停められるように整えられた。9月2日宣教40周年の記念礼拝が早川頭一牧師を説教者として行われた。また40周年記念誌が発行された。



多治見修道院見学やイチゴ狩り、温泉付きの野外礼拝が行われた。よく食べよく出かけた。

2008（平成 20）年 5 月の全国総会において、3 教会合同が認められ、2009（平成 21）年 1 月 1 日より正式に合同した教会として歩み始めた。

宣教 40 年の間には多くの宣教師、牧師の移動があった。また、存続の危機に面したこともあったが、多くの人が集まって礼拝を守り、現在に至った。

式文について

東海福音ルーテル教会の歴史を持つ希望教会は式文についていくたびか様式を変えている。合同期にあたり、十戒式文という東海福音ルーテル教会の式文を使用しないで日本における諸ルーテル派の合同を前にして作った「茶色式文 1964（昭和 39）年 2 月」を使用して、最初の礼拝を行っている。1980（昭和 55）年 3 月 9 日の礼拝から聖餐式には 1974（昭和 49）年に作ったルーテル教会の讃美歌、教会讃美歌を使用しはじめた。1981（昭和 56）年 5 月、邦人牧師になると日本基督教団長老派に近い独自の礼拝式文を通常で使用されるようになっていく。同時に教会讃美歌でなく、教団讃美歌の使用が多くなっていった。しかし、聖餐式には式文を使用し始め、1991（平成 3）年からは教会讃美歌だけになった。ところが、その後、式文の使用が次第になくなっていった。1997（平成 9）年 8 月 17 日の週報によると 10 月より聖餐式には新しい式文を試行すると記され、実際 10 月から実行された。

2003（平成 15）年 11 月 2 日また独自の式文が使用されはじめた。牧師が兼任時代にあり、他教派の牧師を礼拝によんでいること、信徒が司式を奉仕しても大丈夫なようにとの配慮である。讃美歌もリビングブレイズが使用されている。若い人たちにも受け入れやすい讃美歌をとの思いによるものである。



2005（平成 17）年、ルター派教会として相応しい独自式文＝**カット**＝を慎重に作り始めた。これまでのことを反省し、試作を重ね、役員会、信徒会で協議した。全国教会の式文委員会、信仰職制委員会で審議、アドバイスを受け、完成したものを 2007（平成 19）年の総会で承認を頂き、現在も自由ヶ丘礼拝所の昼礼拝で使用している。



式文
み言葉の儀
(賛会の手)

前奏
聖歌の歌
み名による祝福

司) 父と、子と、聖霊のみ名によって
会) アーメン、

十戒

- 第 1. あなたには、わたしをおいてほかに神があつてはならない。
- 第 2. あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
- 第 3. 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
- 第 4. あなたの父母を敬え。
- 第 5. 殺してはならない。
- 第 6. 姦淫してはならない。
- 第 7. 盗んではならない。
- 第 8. 隣人に關して偽証してはならない。
- 第 9. 隣人の言葉を欲してはならない。
- 第10. 隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。

聖の告白の結め
司) 私たちは父である神のみ前に真心をもって近づき、罪を懺悔し、主イエス・キリストのみ名によって救いを願ひましょう。

- 1 -



名東教会 通史

教会の誕生



名東教会は、東海教区の東部開拓伝道計画によって生まれた。計画の一環として、1978（昭和 53）年 4 月に立地調査委員会が設けられ、2 年間の適地調査を経て、名古屋市藤が丘周辺が最適とされた。

1980（昭和 55）年 4 月、「ハートとハートが会おう・・・その時何かが起こる！」をキャッチフレーズに、周辺にチラシ 1 万枚が配られた。4 月 18 日、名古屋市千種区猪高町（現：名東区藤里町）のサンプラザ集会所で、トーマス・スティーンバーグ牧師による最初の礼拝（夕礼拝）が行なわれた。名東教会の誕生である。

当時、スティーンバーグ牧師には刈谷教会、岡崎教会での働きがあり、午前の礼拝はできなかった。その後、礼拝場所を公共の集会所から宣教師館に移した。ほどなくスティーンバーグ牧師が開拓伝道責任者に任命され、併せて名東教会の責任牧師となった。邦人牧師たちがその働きを助けた。1980（昭和 55）年 7 月、名東教会での最初の受洗者が与えられた。

1981（昭和 56）年のイースターに、初めて午前の主日礼拝が行なわれたが、出席者は 2 人だった。その後も、午前の礼拝より夕礼拝の出席者が多い状況が続いたが、次第に午前の礼拝出席者が多くなっていき、1986（昭和 61）年、「日本福音ルーテル名東教会」として、本教会から「第 3 種教会」として認定されるに至った。

宣教師館で礼拝が行われていた 8 年間、教会はミセス・スティーンバーグの働きに負うところが大きかった。礼拝のために部屋を整え、礼拝後は交わりの世話をされた。いつでもウェルカムの雰囲気、ケーキやクッキーのティ



ertime、クリスマスの美しい飾りなど、アメリカの文化に憧れて来る人たちも多かった。信徒たちは、ややもすると牧師夫妻に頼りがちだった。

スティーンバーグ牧師による名東教会（宣教師館）での受洗者は 23 人（うち幼児 6 人）を数え、礼拝には常に 25 人前後が出席するまでになった。

教会堂の建築

宣教師館も手狭になり、教会堂建築のための土地探しが続けられていたが、適当な物件は見つからなかった。1987（昭和 62）年に至り、宣教師館の土地を日本福音ルーテル教会が所有者の宣教師会（日本ルーテル社団）から購入し、それを増改築して教会堂を建てることにした。

本教会の常議員会は建築委員会を組織し、建築費 3,300 万円、3 分の 1 方式で資金を調達することとした。資金の内訳は次のとおりだった（自己積立金：1,200 万円、本教会補助金：1,100 万円、教区補助金：500 万円、教区内募金：500 万円）。教区内募金は、教区内の多くの信徒からの献金、東海教区総会の席上献金などだった。名東教会の自己資金は、スティーンバーグ牧師夫妻および信徒の献金のほか、牧師の英会話の生徒達からの献金だった。牧師のアメリカ在住のご家族や友人からも多くの献金が寄せられた。

1987（昭和 62）年 12 月 6 日 明比教区長によって起工式が行われ、翌年 5 月、1 階に礼拝堂、集会室、台所の教会部分、2 階に牧師館（一部牧師室）を備えた教会堂が完成した。教会堂前面には 5 台分の駐車スペースが設けられた。

献堂式は 1988（昭和 63）年 5 月 22 日、重富牧師、スティーンバーグ牧師の司式、戸田牧師、丹澤牧師、重野牧師の奨励のもとに行なわれた。東海教区の教会をはじめ国内外の多くの人々に祝福される中で行われた献堂式は、名東教会の信徒にとって感謝と感激にあふれるものだった。



自立をめざして

宣教師館から自立した教会、すなわちスティーンバーグ牧師夫妻に依存する体質から脱して、教会として独り立ちするための課題には次のようなものがあつた。維持経費の明確化、会堂の清掃・管理、対外活動、婦人会活動の充実などである。なかでも維持経費の確保は自立への大きな課題だった。

礼拝が宣教師館で行われていた頃から、スティーンバーグ牧師の意向で、献金は各人が礼拝時に思い思いに献金箱に入れる、席上献金という方法だった。婦人会費もそうだった。クリスマス、チャリティ・コンサートなどでの席上献金は、アフリカ難民、パレスチナ難民など、その時々援助を必要とする人々のために、すべてが世界ルーテル連盟を通して献げられた。

1992（平成 4）年頃からは、自立した教会となるための準備として、自由献金であっても献金袋に識別番号を付すことにした。会計はその番号を記録し集計するが、その番号の主はわからない。総会では一人ひとりの番号と年間の献金額が示された。しかし、これでは教会の予算を立てるときに困るので、1993（平成 5）年からは、各々が 1 年間に献金できる額を神様に約束する「約束献金」制にした。各人は約束額を目標にして礼拝時に献げた。総会時には約束額を達成したかどうかを判断できるような表が示された。

1994（平成 6）年から名古屋近郊の英語を話す人たちのための英語タ礼拝が始まったが、そこに集う人たちにもこのシステムが適用された。しかし、集計の煩雑さもあり、2005（平成 17）年からは、両礼拝とも会計係だけには個人名と番号がわかる方式にした。また、献金は会堂入口の献金箱に入れるのではなく、礼拝の中で献げることにした。

こうして、自立に向けて経済的な責任を果たす道筋が見えてきた。



教会活動

新しい会堂になってから、聖研、早朝祈り会、バイブルキャンプ（多治見修道院）などが行われるようになった。婦人会では、母の日に会員たちが友人を誘って交わり会を催し、チャイムス練習なども行うようになった。1990（平成 2）年 7 月には婦人会連盟に加入し、組織としても整っていった。

1990（平成 2）年頃はスティーンバーク牧師を中心に、後には大学生を含む信徒が協力して、子供たちとの聖書の学びができるようになった。教材には、CS 成長センター発行の成長カリキュラムに基づいて、聖書絵物語、子供教理絵本などが使われた。1997 年頃には、中学生、小学生から幼児まで、30 人ほどの集まりになった。

現住会員が 20 名を超え、二種教会の認定条件を満たすようになったので、二種教会への組織変更を申請することとなった。1994（平成 6）年 3 月、申請書を東海教区長経由で本教会・常議員会に提出し、8 月の全国総会で申請が承認された。これに伴い、9 月から、人件費のかからない教会として、自給金相当額を支援金として教区に納めることになった。なお、2004（平成 16）年以降、この支援金は教区共同拠出金と改称された。

自立した教会としての意識も高まり、名古屋地区での炊き出し奉仕や福祉村設立募金など教会外の活動にも毎月協力できるようになった。

英語・夕礼拝の始まり

1994（平成 6）年、スティーンバーク牧師は、名古屋地区に住む英語を話す人々のための夕礼拝を始めた。当初は月 1 回だったが、その後は毎週行われるようになった。夕礼拝の献金は、朝礼拝の会計担当者が朝夕合わせて管理した。夕礼拝に集う外国人の国籍は、アメリカ、韓国、中国、ベトナム、インドネシアなどバラエティに富んでいた。



クリスマス・イヴ礼拝は、朝礼拝と合同で、国際的な雰囲気で行われた。CS の子供たちのハンドベルや聖誕劇、婦人会チャイムス、ゴスペルバンド、フルート、ヴァイオリン演奏など多彩なプログラムだった。チャリティ・コンサートも合同で開催した。

夕礼拝出席者の中には、滞日期間が過ぎると帰国する人たちも多く、人数は定まらなかった。1999 年頃になると、国際結婚した人たちが日本語礼拝にも出席するようになった。

新しい役員たち

教会堂の建築から 10 年を経て、新しい会堂で洗礼を受けた人たちや、幼い子供たちを連れて教会を訪れ名東教会員となった人たち、そのような人たちが毎週礼拝に出席し、教会での有能な働き人になっていた。

1998（平成 10）年の総会において、宣教師館のリビングで礼拝をしていたころからの役員たちは、新しい人材にその務めを託すことにした。これを機に、会計処理などにパソコンが取り入れられた。

1998（平成 10）年はスティーンバーグ牧師にとって多忙な年だった。名古屋教会の鈴木牧師がルーテル神学校に異動され、後任牧師が与えられるまでの 1 年間、名古屋教会の主管牧師を務められたからだ。名古屋教会では、第 4 日曜日の礼拝説教のほか、幼稚園での礼拝や聖研、さらには江南幼稚園での礼拝や保護者、教師たちの学びにも携わった。若い役員たちは、多くの職責を抱えた牧師の働きを積極的に支えた。小さな子供をもつ母親のためのマザーズグループに参加し、病院訪問などにも同行した。

2000（平成 12）年 11 月、東海教区の宣教 50 周年を記念する信徒大会が、金城学院大学ランドルフ講堂で開催された。スティーンバーグ牧師は、来日する引退宣教師たちの世話役を担当した。名東教会の会員たちは、ミセス・



スティーンバーグの指揮のもと、当日の食事の席の設定やティータイムのケーキ作りに総動員で奉仕した。

スティーンバーグ牧師の定年引退

2001（平成 13）年 8 月 19 日、スティーンバーグ牧師の最後の主日礼拝が行われた。来日以来 35 年、東海教区の他教会での働きの後、名東教会では 21 年にわたって献身的に宣教に尽くした。スティーンバーグ牧師夫妻は、文字どおり名東教会の生みの親であり、育ての親だった。ミセス・スティーンバーグは、宣教師館時代から変わることなく、暖かく人々を迎え入れ、礼拝のオルガン奏者を務め、婦人会活動も積極的に支えた。

新たな歩み ― 複数共同牧会の動き ―

当時の東海教区・尾張岐阜地区宣教委員会では、複数共同牧会が繰り返し議論されていた。名東教会の役員は、2001（平成 13）年のスティーンバーグ牧師の定年引退を控え、牧師の帰国後も、引き続き日本語礼拝、英語礼拝を行えるか不安の中にあった。ふさわしい宣教師が与えられるかどうかが大きな問題だった。宣教委員会でのさまざまな意見などを参考に、名東教会が存続するためにはどのような道があるかを巡って頭を悩ましていた。

スティーンバーグ牧師の定年引退を 4 箇月後に控えた 2001（平成 13）年 4 月、後任として、掛川、菊川教会で宣教していたティム・メイソン牧師の名東教会派遣が伝えられた。メイソン牧師は夫人と 2 人の子どもと共に赴任し、最初の主日礼拝が 2001 年（平成 13）8 月 26 日に行われた。

メイソン牧師は、スティーンバーグ牧師が長年かかって築き上げた日本語礼拝と英語夕礼拝の活動などを、そのまま引き継いだ。英語礼拝の人数は 30 人～75 人に増え、礼拝の前には英語の教会学校が行われるようになった。教



会学校の子供たちは 20 人以上で、メイソン夫人も CS 教師を助けて子供たちの世話をした。

メイソン牧師は「日本語礼拝と英語礼拝のコミュニケーションを図るため、日本語礼拝役員会の再編、英語礼拝委員会の設置」を提案した。英語礼拝にいくつかのチームを作って役割を分担し、日本語礼拝と英語礼拝に連絡役としてのリエゾンを置いた。その頃、名古屋、復活、希望、高蔵寺、名東による 5 教会協議会が続けられており、メイソン牧師は、名古屋教会や希望教会で月 1 回の礼拝を分担した。

2002（平成 14）年 7 月末から 1 箇月間、メイソン牧師は、再発した椎間板ヘルニアの治療のためアメリカに帰ることになった。その期間をカバーするため、7 月 26 日にスティーンバーグ牧師が来日し、8 月 12 日まで滞在した。朝の主日礼拝と夕の英語礼拝、聖研も行われ、多くの参加者があった。

牧師と役員間に溝

メイソン一家が 8 月 26 日にアメリカから戻ると、9 月 1 日に役員会が開かれた。役員会後に、牧師と役員との間で議論が持ち上がった。英会話の献金、教会運営を巡って、牧師と役員との間に理解しあえないものがあった。その後も話し合いがなされたが相互の溝は埋まらず、役員会の 1 週間後、代議員、会計がしばらく教会を休むことを告げた。10 月から会計のみ代行を立てたが、代議員、会計は任期を残したままでの欠席が続いた。

翌 2003（平成 15）年 2 月の教会総会で、新たに教会役員を選ぶことになった。代議員、書記には教会創立期にその任を務めた会員が選出され、会計にはそれまで代行だった会員が正式にその任についた。



教会再編の動き

複数共同牧会構想は進展のないまま打ち切れ、新たに共同体として「名古屋、復活、希望」、「名東、高蔵寺」、「名古屋めぐみ、知多」をグループ化し、合同を視野に入れた検討が進められることになった。

名東教会と高蔵寺教会は「2 教会合同協議会」を発足させ、合同役員会、聖壇交換などを通して交流を深めることとした。

このような動きの中で、名東教会のあり方を定める教会規則の必要性が提起され、2004（平成 16）年の総会で規則制定の方針が承認された。役員会が作成した原案を教会員に諮り、さらには東海教区長の確認を得た。7 月の臨時教会総会での承認を経て、2005 年の定期総会日から施行された。

なお、2003 年（平成 15）から続けてきた高蔵寺教会との合同協議会は、次項に記すメイソン牧師の転任によって、解散することになった。

メイソン牧師の離任

メイソン牧師は、就任以来、音楽伝道にも力を入れ、チャリティ・コンサートや炊き出し活動の折などに、英語礼拝の名東バンドと共に活躍した。英語夕礼拝も出席者が増え、毎回 75 人を数えるほどになっていた。2004 年には英語夕礼拝の献金が朝礼拝を上回った。

そのような状況にあった 2004（平成 16）年 8 月、メイソン牧師は役員会で転任の意向を表明した。寝耳に水だった。転任先はシカゴのルーテル本部かハワイの教会とのことだった。後日、転任先の教会はハワイの **Calvary by the Sea Lutheran Church** で、転任の時期は 10 月中旬と知らされた。

8 月末から役員会は対策に奔走した。教会員への説明はもとより、教区常議員との話し合い、明比教区長との複数回の協議等々。9 月の初めに、本教会の常議員会に「宣教師派遣願」を提出した。9 月中旬には、教区長および主管



牧師（兼牧）に内定した名古屋教会の小泉潤牧師を交えて、礼拝時間、説教ローテーションなど当面の対応策を協議・決定し、直ちに、その内容をまとめた書状を教会員に郵送した。

9月26日に名東教会臨時総会を開催し、経過報告と今後の礼拝の持ち方を協議した。主日礼拝の説教は名古屋市内4教会（名古屋・復活・希望・名東）主管牧師のローテーションでなされること、それに伴い礼拝時間の変更が必要なことが示された。総会は、10月中旬から主日礼拝を従来の10時半から午後2時に変更することを全員一致で決議した。

2004（平成16）年10月10日、メイソン牧師による最後の主日礼拝と英語タ礼拝が行われ、10月14日、メイソン牧師は家族と共に日本を後にした。

主管牧師（兼牧）に小泉潤牧師

2004（平成16）年10月第3週から、主日礼拝は午後2時開始となり、第3週は明比牧師の担当だったが、翌週から小泉牧師によって主日礼拝が守られることになった。小泉牧師は、名東教会の会員たちにとって初めての邦人主管牧師だった。

小泉牧師は、名東教会のほとんどのメンバーが宣教師に育てられた者たちであること、また英語礼拝に集う外国からのメンバーの熱い祈りを覚えて、就任に当たっての思いを熱く語った。

「名東教会も全体教会に属する大切な教会である。長い間宣教師の指導による礼拝が行われてきたが、日本人にあった礼拝を心掛けて行きたい。これまで宣教師の給与や住居費のほとんどを派遣元に依存していたが、これからは経済的にも自分たちの教会は自分たちみんなで支えるという気持ちを確認なものにしたい。これから4教会の合同計画が進展すると思うので、そのこともきちんと理解して欲しい。教会は主が建てられたもの。姿、形は変わろうとも、イエスを中心に礼拝する群れであるならば必ず導いて下さる」。



小泉牧師の兼牧期間は引退予定の翌年 3 月末までで、その間、「聖書の学び」も毎週行われた。2005（平成 17）年 3 月 20 日、名東教会での小泉牧師の最後の主日礼拝が守られた。

末竹牧師、竹田牧師着任

2005（平成 17）年 4 月、末竹牧師と竹田牧師が 4 教会（希望、名古屋、復活、名東）の招聘を受けて着任した。基本方針は 4 つの礼拝を 2 人の牧師が交互に担当し、4 教会合同に向かうというものだった。末竹牧師は名古屋・名東教会を担当、竹田牧師は復活・希望教会を担当し、9 月以降は 4 教会の礼拝を 2 人の牧師が交互に担当することになった。名東教会の聖研と役員会は末竹牧師が担当した。

6 月には「4 教会合同のための作業委員会」が始まり、各教会から作業委員が選出された。その後、この委員会は「共同活動委員会」と改称され、両牧師と共に合同に向けてさまざまな検討がなされた。名東教会は当初から 4 教会が合同して 1 つの教会となることを希望していた。4 教会は、牧師給、福利厚生費などの共同費を、各教会の基礎収入に基づいて負担し、共同会計に送金することとした。名東教会は 20%を負担した。

4 教会合同の協議

2006（平成 18）年 7 月の共同活動委員会で半年間の総括がなされ、現状では先に進めない、ということで、両牧師から「組織合同して役員会を一本化し、自分たちの教会として今後の形を考えていく」との提案がなされた。

8 月の合同役員会までに各教会の意見を集約するというので、名東教会は会員のすべてが参加できるように 2 回の信徒会を開き、牧師案への賛同を得た。しかし 8 月の合同役員会では 4 教会の意見がまとまらず、信徒側から



修正案が出された。改めて 12 月中に結論を出すことにし、それまでに 3 回の合同役員会を開くことにした。

9 月の合同役員会で、「合同に向かって働いてきたが任が全うできないので辞任したい」との両牧師の意向が、同席した教区長から伝えられた。12 月末、3 教会（名古屋・希望・名東）は両牧師を慰留したが、復活教会は辞任の意向を承認した。

これを受けて、3 教会が改めて両牧師を招聘し、3 教会での合同をめざすことを確認した。復活教会は戸田牧師に牧会委嘱する道を選んだ。

フレドリクソン牧師着任

2004（平成 16）年 10 月のメイソン牧師離任後、ELCA（米国福音ルーテル教会）に宣教師派遣を依頼してきたが、候補者は現れず、英語礼拝は毎週信徒礼拝や委嘱牧師による礼拝を続けていた。2005（平成 17）年に末竹牧師が名東教会の担当になり、午後の日本語礼拝のあと、夕の英語礼拝にも出席して、英語礼拝が名東教会の宣教であることを確認してきた。英語礼拝のメンバーと協力して宣教師派遣を申請すると共に、宣教師派遣までの間、英語礼拝に出席していたミカ・ワイスさんに臨時信徒牧会者としての働きを要請した。2 年近くに及ぶ派遣交渉が実って、新たな宣教師が派遣されることになった。大きな喜びだった。

2006（平成 18）年 8 月 10 日、チャールズ・フレドリクソン牧師一家が来名し、同月 13 日に名東教会で主日礼拝を共にした。9 月 3 日、名古屋教会での 4 教会・英語礼拝の合同礼拝において、「英語礼拝および 4 教会の協力牧師」としての就任式が行われた。

フレドリクソン牧師一家を迎えた名東教会の牧師館は、3 年もの無人状態の間にコウモリが棲みついていた。出入りの穴を塞ぐため、足場を組んでの大工事となり、併せて、外壁、屋根、配管などの老朽化対策工事も必要とな



った。臨時総会を開いて補修工事の実施を決め、費用は建築積立金から支出することにした。9月中旬から11月初旬までの大掛かりな工事だった。

フレドリックソン牧師は日本語礼拝と英語礼拝の関係をよく理解し、英語礼拝を「国際礼拝」として位置づけた。

2007（平成19）年1月から、国際礼拝の献金などの会計業務は、日本語礼拝と分けて、国際礼拝の役員が管理することになった。日本語礼拝が英語礼拝の献金を合わせて管理していた時から、名東教会が英語礼拝の多くの方々の献金によっても支えられてきたことは感謝すべきことであった。2007（平成19）年の各教会の総会を経て、国際礼拝は名東教会だけでなく、3教会の働きとして位置づけられた。

3 教会合同に向けて

3 教会が合同をめざすことは各教会の共通認識だったが、その手続きは日本福音ルーテル教会のスケジュールに沿って進めなければならない。教会年度が1月に始まるのに対して、牧師の任期は4月～3月となっており、全体教会の総会は隔年開催である。そのような事情から、3 教会の合同が正式に認められるのは2008（平成20）年の全国総会と見込まれた。そこで、まずは3 教会のままで2007（平成19）年4月から組織合同することとした。

2007（平成19）年1月の名東教会総会では、現役員が病気や介護など家族の事情で役員を続けられないという問題を抱えていたが、役員を引き受けようとの申し出があり、難問が解決した。総会以降は、新役員が3 教会合同役員会に出席した。

組織合同後は主日礼拝を名古屋教会と希望教会で行い、名東教会員はどちらか通いやすい教会の礼拝に出席し、そこで教会活動することになった。3月25日、名東教会での最後の主日礼拝が竹田牧師によってなされた。名東教会の会員たちは、場所は変わっても今後も礼拝と教会生活を続けられる幸



いを感謝し、新たな一步を踏み出す気持ちを与えられて最後の主日礼拝に与った。

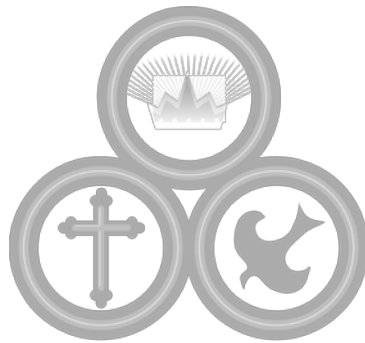
4 月からの実質的組織合同後、名古屋教会・希望教会のいずれの主日礼拝にも出席困難な人達のために、金曜日に週日礼拝が行われるようになった。末竹牧師による週日礼拝は、求道者の出席もあり、静かな雰囲気の中で守られている。

ひとつの教会への備え

2007（平成 19）年 4 月、3 教会は実質的に合同した教会として歩み始めた。役員会を一元化し、それぞれの教会の役員による合同役員会が組織された。6 月の名古屋教会での合同礼拝後に臨時総会が開かれ、合同後の教会の名称を「なごや希望教会」とすることが決まった。また、名古屋教会を今池礼拝所、希望教会を自由ヶ丘礼拝所、名東教会を名東礼拝所することも決定された。4 月以降、名東教会の礼拝献金等の会計処理は、預金通帳も含めて、希望教会の会計に委ねた。

2010（平成 22）年 6 月、フレドリクソン牧師が 4 年間の任期を終えて帰国した。それ以後、名東教会で行われていた国際礼拝は、パストラルリーダーであるロウレル・シェパード牧師によって守られている。（なお、2013（平成 25）年 10 月から礼拝場所は今池礼拝所に移った。）

2008（平成 20）年の全国総会において名古屋教会、希望教会、名東教会の合同が承認され、2009（平成 21）年 1 月 1 日をもって「なごや希望教会」としての歩みが始まった。



Trinity

なごや希望教会通史

2009 年～2015 年

なごや希望教会通史

合同後の歩み

2009(平成 21) 年 4 月、なごや希望教会の発足を待っていたかのように、竹田牧師が大森教会から招聘を受けた。末竹牧師、フレドリクソン宣教師とトリオを組み 3 礼拝所の牧会を勤めていた竹田牧師は「皆さんと別れるのは断腸の思いでしたが、この思いを大切にしてお森教会で力いっぱい主のみ業に励みたい。もし私の夢をこの地(名古屋)で実現することが、主の御心で許される時が来たならば、帰ってきて働かせていただきたい」と教会総会報告書に書き残し、招聘に応じて東京の新任地へ向かった。教会では後任に広島教会の佐々木赫子牧師を招聘し、同師が竹田牧師のあとを受けて、なごや

希望教会を担うことになった。佐々木牧師は 2006

(平成 18) 年 7 月から翌年 2 月まで、神学校のインターン生として名古屋教会で研修を行っただけに教会の事情にも詳しく、トリオの一人として、教会に出席することが困難な信徒の訪問や自由ヶ丘礼拝所を中心に牧会活動を展開した。

この年の 7 月には 2005(平成 17) 年 3 月から休刊していた広報紙の月報『からし種』に代わって、季刊紙『愛』=写真上=とタイトルを変えて年 4 回発行し、ホームページ=写真下=も立ち上げて、三礼拝所の集会案内や牧師説教を掲載するなど、新しく生まれ変わった教会としての動きが活発になった。

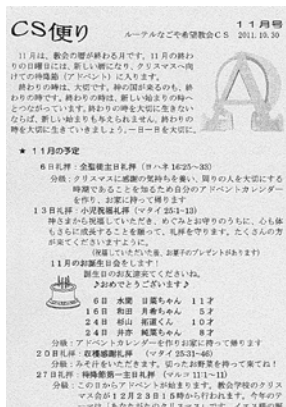
2010(平成 22) 年 6 月、フレドリクソン宣教師



は4年間の任期を終え、名東礼拝所を離れ帰米することになった。同師は「英語による礼拝（国際礼拝）ではぐったりすることもありましたが、日本語の礼拝に出席すると元気を回復出来ました。皆さまからいただいた最大の贈り物は、キリスト教の礼拝です」と『愛』に書き残している。後任の宣教師は無く、フレドリックソン宣教師が着任するまでの空白期間を国際（英語）礼拝で協力していたロウエル・シェパード師がパストラル・リーダーとして礼拝を担当することが決まった。シェパード師は、NPO法人「ホープ・インターナショナル開発機構」のアジア太平洋支部長を務めており、名東礼拝所では国際礼拝だけを担当し、瀬戸市の住居から通った。

さらに11月には佐々木牧師が宇部教会から招聘を受け、「私の牧師として残された奉仕は4年間です。これからも宣教の働きを強めて立たせてくださる神のみ言葉に仕えることに専念します」として受諾、2011（平成23）年4月に赴任することになった。後任をどうするか、を教会役員会で検討し、信徒懇談会にも諮ったが、教会の経済的理由もあり、結果的には末竹牧師の一人体制になることが決まった。しかし、今池、自由ヶ丘礼拝所では、早くから教会員や幼稚園父母の会（今池）、解散まではスカウト（今池）が協力して「ルーテルバザー」を催したり、家庭集会など、地域に立つ教会としての信徒の宣教活動も活発に続けられてきた。さらに、信徒を教師に小中学生、

幼稚園卒園児を対象とした教会学校の充実（2010年末時点今池礼拝所在籍82人、平均出席16人）。今池礼拝所では毎月「教会学校便り」＝**カット左**＝を発行、月間予定を掲載して、家庭への連絡を密にするなど、牧師の一人体制への心構えは出来ていた。なお、2012（平成24）年度から教会学校の呼称は「こどもの教会」に変更された。2013（平成25）年度の在籍は56人、平均出席17人だった。



牧師一人体制で宣教活動へ

2011（平成23）年3月末、佐々木牧師は宇部教会に赴任し、なごや希望教会の複数共同牧会が崩れ、末竹牧師が実質的に3礼拝所を受け持つ一人体制となった。1か月の活動を見ると、毎日曜日の主日礼拝は今池礼拝所午前9時から教会学校礼拝、午前10時30分から礼拝、自由ヶ丘礼拝所午後1時15分から求道者会、午後2時から礼拝。毎月1回今池礼拝所主日礼拝後に女性会、壮年会合同で聖書研究会。毎月二回火、水曜日午前9時30分から幼稚園父母聖研と聖書茶話会、同10時45分から幼稚園礼拝、毎水曜日は今池礼拝所で午後1時30分から聖書研究会、自由ヶ丘礼拝所で午後7時30分から聖書研究会、同木曜日午前10時から聖書に聴き祈る会、毎月2回名東礼拝所で金曜日に週日礼拝、毎土曜日は礼拝準備と週報印刷、また随時、3礼拝所の合同主日礼拝、幼稚園教職員の聖書研究会、家庭集会、洗礼準備会と洗礼後勉強会をしているほか、ホームページへの週間予定、牧師説教の入力などの予定が組まれている。



こうした末竹牧師の働きを分かりやすくするため、毎月のはじめに「教会だより」＝**カット左**＝を発行して教会員に配布するほか、今まで今池、自由ヶ丘礼拝所で別々に印刷していた「週報」＝**カット下**＝を一本化して今池、自由ヶ丘の異なる礼拝式次第を見開きにして、報告事項は共通にするなど簡素化を図っている。また、教会暦や教会行事に沿って適宜合同礼拝を行うなど、信徒の交流にも力を注いでいる。

こうした末竹牧師の働きを分かりやすくするため、毎月のはじめに「教会だより」＝**カット左**＝を発行して教会員に配布するほか、今まで今池、自由ヶ丘礼拝所で別々に印刷していた「週報」＝**カット下**＝を一本化して今池、自由ヶ丘の異なる礼拝式次第を見開きにして、報告事項は共通にするなど簡素化をするなど



末竹牧師は 2011（平成 23）年 8 月 21 日に自由ヶ丘礼拝所で行われた、なごや希望教会の一日修養会のなかで、『合同の成果と課題』と題して、3 教会合同までの経緯と、複数共同牧会の問題点、4 月からの一人体制に触れたあと、「教会の将来」を次のように話した。

「これから私たちが目指すべきものはなんでしょうか。礼拝所を一つにすることでしょうか。礼拝を一つにすることでしょうか。複数の牧師を迎えることでしょうか。それら個々の事柄の是非を云々するのではなく、宣教的に、教会形成的に相応しいものを、そのつど選択していくことが良いと思います。教勢の拡大を求めることは大事です。一人でも多くの方が洗礼を受け、神の国への歩みを共に出来るように取り組んでいきましょう。ただし、経済的に安定するということは宣教の手段ですから、目標を忘れないように、心がけていきたいと思います。宣教の目的は、パウロが語るように《神がすべてにおいてすべてとなる》ことです。しかも、その目標が実現するのは神の支配（神の国）に全面的に人間が服従するときですから、私たちのこの世の教会組織の存続が目的ではないのです。神の国へと向かっている私たちを生きていくことが信仰なのです。だからこそ、もっと大きな世界を望み見て、他者の救いのために祈る群れでありたいと思います」。

さらに続けて「私たちの宣教において大事なことは、《礼拝を守ること》《仕えること》《祈ること》です。神に仕えていただいて、仕えるものとして派遣され、他者の救いのために祈る群れとなるならば、必然的に神の意志に従う生活が現れてくるでしょう。そこにこそ、私たちの信仰的生き方があるということを忘れないで、《何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。（マタイ 6・33）》というイエスの言葉を信頼して歩み続けていきましょう。そして、この将来への歩みを支え導くものは、聖言葉（みことば）です。聖言葉を聴き、聖言葉を生きることを一人ひとりの信徒が求めていくことです。この当たり前のこ

とを忠実に生きることです。この世の組織としての教会を考えすぎると、当たり前のことが忘れられて、方策によって何事かを起せると思い込んでしまいます。神の必然がなければ何も起こりえないのです。私たちは今、聖言葉を信頼して歩いています。そこから離れないことです。そうすれば、神は私たちを用いてくださいます。まず私たちがなすべきは、聖言葉に忠実に聴き従うことです。自分の十字架を背負ってイエスに従うことです。聖言葉に問われ、聖言葉に促され、聖言葉に捉えられていく歩み続けることです。それだけが教会が教会として生きることなのです。キリストの体である教会として、神の国を目指して歩いていきましょう」と呼びかけた。

この呼びかけに応えるべく今池礼拝所壮年会は、末竹牧師の主日礼拝説教全文を月ごとにまとめてプリントし、希望者に配って、会員の『聖言葉の理解』に役立つよう説教の理解を深めている。さらに独自の研究会として、毎月1回、礼拝後に集まってLAOSをテキストにルーテル教会の教理問答、諸信条を学び、女性の会とも合同で末竹牧師を講師に聖書研究会も開き、聖言葉を学んでいる。

幼稚園の学校法人化

2009（平成21）年は、幼稚園の学校法人化に力を注ぎ、運営委員会で検討が続けられた。幼稚園園児数は最盛期には110人の規模だったが、少子化、周辺住環境の変化、その他の事情により1994（平成6）年には30人まで減少する事態になった。その後、60人まで戻ったものの、不審火による園舎全焼、新園舎をめぐる不幸な事件などから園児が減少、それを乗り越えて、2005（平成17）年には52人まで回復した。さらに、ホームページや、月報「はぐくみ」=カット=を発行



して、〈牧師（チャプレン）の巻頭言〉〈園長室から〉〈行事報告や案内〉など、園児を通し基督教に沿った教育内容のすばらしさをPRしているものの、宗教法人附属幼稚園の経済的自立は難しく、園児が70人を超えなければ赤字は免れないし、設備投資も出来ないのが実情。現在も教職員の処遇を抑えて収支を合わせているのが実情で、保育に情熱を燃やす教職員の待遇改善が大きな課題になっている。

今池礼拝所、自由ヶ丘礼拝所では教会員が恒常的に幼稚園支援献金をしているが、会員の高齢化により教会財政も苦しく、経済的支援は期待出来ない状況が続いている。そこで教職員の処遇改善には幼稚園の学校法人化による公的補助金の増額が必要ということになった。学校法人化については2004（平成16）年の教会総会で推進への承認を得て、挙母教会が経営する「学校法人・愛知ルーテル学院」への編入案（挙母教会や愛知県は好意的）や、他教会の学校法人幼稚園の実態調査など、法人化への事例が検討されており、改めて各方面と折衝が行われた。

その結果、宗教法人から学校法人になるためには「財産の保有と明確化」が求められ、その手続きが必要となった。かつて幼稚園敷地は学校法人の所有する土地でなければいけないとされていたものが、2004（平成16）年4月の法改正により、土地は借地で、建物の提供だけで良いということになった。ところが、借地にも「賃貸借地（有償）」と「使用貸借地（無償）」との二方法があり、行政（愛知県）側は学校法人の法的権利の強い賃貸借地を指導している。一方、本教会は借地人の法的権利が弱い使用貸借地を譲らず、他幼稚園の例も参考にいろいろ両者と折衝したものの、本教会のルールでは愛知県の認可基準をクリア出来ないことが判った。やむを得ず学校法人化計画を凍結することを2011（平成23）年の教会総会に報告して、今後、収支改善などを検討して教会独自で支援策を講ずることになった。



＜通史を執筆していた松原雅夫は、体調を崩し、入退院を繰り返したが2012（平成24）年5月15日に天に召された。松原雅夫が書き遺したものをうけて、松隈芳久幼稚園運営委員長が、その後の学法化に至る歩みを以下に追記した。＞

しかし、その後も行政の動向やルーテル教会に関係する幼稚園の学校法人化の動きを把握しながらルーテル幼稚園の学校法人化の道を探っていた。

2011（平成23）年10月、愛知県・私学振興室に改めて学法化の可能性を確認したところ、園地は使用貸借でもよいが、70人程度の園児数の規模では学法化は認められない、という新たな見解が示され、併せて、愛知ルーテル学院への編入による学法化を打診された。早速、愛知ルーテル学院にその旨を伝え、法人編入について快諾を得た。2012（平成24）年2月、なごや希望教会総会にルーテル幼稚園の学校法人愛知ルーテル学院への編入による学法化を諮り承認を得た。日本福音ルーテル教会（本教会）、愛知ルーテル学院、なごや希望教会の三者間で、園地の無償貸借、園舎の無償譲渡など法人編入に必要な契約を締結し、東海教区、本教会など所定の手続きを経て、愛知県への学法化申請が承認された。これを受けて、2013（平成25）年10月、愛知県知事に「ルーテル幼稚園設置者変更認可申請書」を提出し、2014（平成26）年1月、愛知県の認可を得た。なお、申請に当たって、長年慣れ親しんできた「ルーテル幼稚園」の名称を「名古屋ルーテル幼稚園」に改称することとした。同一法人内の「挙母ルーテル幼稚園」との混同を避けるためである。こうして、2014（平成26）年4月1日をもって「学校法人愛知ルーテル学院・名古屋ルーテル幼稚園」としての新たな歩みが始まった。

（松隈芳久追記）

2014（平成26）年4月1日、学法化された名古屋ルーテル幼稚園の新しい園長に末竹牧師が就任し、教師たちの交代もあり、新しい体制となった。しかし、学法化の目的であった経済的な安定は、学法化後改善されたとは言い難かった。園児数の安定的確保がなければ、公的補助金が増額されても、

教職員の給与増には結び付かないことが判明した。折しも、「待機児童ゼロ」を旗印に、政府が推進してきた幼保一元化は、新制度へと形を変え、幼稚園のみでも移行できるものになってきた。「新制度に参入すれば、措置となるので、園児数を確保できるのではないか」、「措置になれば家庭の生活環境の多様性から問題が生じるのではないか」などの意見があるなか、運営委員会では慎重に検討協議しているところである。キリスト教自由保育を探索する名古屋ルーテル幼稚園に相応しい運営形態を模索し、神のはぐくみに仕えようとしている。

(末竹十大追記)

*2011（平成 23）年から 2015（平成 27）年の歴史を以下に追記。（末竹十大記）

三つの歴史が一つの歴史に

2011（平成 23）年の教会総会において、2015（平成 27）年の今池礼拝所 100 周年をいかに祝うかを検討する準備委員会が組織された。準備委員会は、検討の結果を役員会に答申し、2012（平成 24）年教会総会において、宣教 100 周年記念実行委員会組織が提案された。「三つの歴史が一つの歴史に」と末竹牧師は訴えた。「2015（平成 27）年には今池礼拝所は宣教 100 年を迎え、自由ヶ丘礼拝所は宣教 50 年を迎えます。名東礼拝所は 35 年となります。宣教 100 年を契機に、なごや希望教会の宣教の祝いはすべての礼拝所を覚えて共に祝いたい」と提案書には記されている。示された実行案は以下の三点であった。

1. 記念誌には、各礼拝所の宣教の歩みが記され、合同した 2009（平成 21）年からの歩みも共に記す。三つの歴史が一つとなり、これから共に歩いていくのだということを記念誌編集において示すことができるようにしたい。
2. 記念行事は、各礼拝所を用いて、コンサートや講演会などを行う。



3. 記念事業として、各礼拝堂の修理や修築などを行う。

この後、各礼拝所で信徒会を開き、意見を聞く中で、修理や修築ではなく、新築を目指すべきではないかとの意見も出てきた。そこで、2013（平成 25）年 2 月の教会総会において、末竹牧師は宣教計画案の中で、「礼拝所一本化」が必要であることを訴えることとした。「2009（平成 21）年に合同したとは言え、各礼拝所を移動して礼拝を維持する牧師一人体制のままでは、宣教力が分散してしまう。新たに礼拝堂を建築し、未来に向かって歩み出すことが必要である」と訴えた。これまで場所を限定しないで議論されてきた新礼拝堂・牧師館を、立地的に最も良い今池に建てようと訴えたのである。末竹牧師の意見に対し、好意的に受け止める信徒は多かったが、反発を感じる信徒もあり、特に自由ヶ丘礼拝所を愛してきた人たちの中には、教会を離れる決断をした家族もあった。それでも、多くの信徒は新しい教会に向かって歩み出そうと決意した。

2013（平成 25）年 6 月 2 日、役員会は臨時総会を招集し、礼拝所一本化を提案。総会は、「三つの礼拝所を売却して、今池の地に礼拝堂を一本化すること」を決議した。末竹牧師は議案説明において、次のように説明している。「三つの礼拝所を売るということは、二つを売って、今池を残すということではなく、すべてを売却して、新たに今池の地を購入するつもりで、今池の地に一本化するという意味です。それぞれの礼拝所の建物自体はすべて無くなります。過去のものを残さないで新たに歩み出すのです」。

この臨時総会において、建築計画は 100 周年記念事業として位置づけられ、100 周年実行委員会が建築準備委員会を兼ねることが承認された。2014（平成 26）年の定期総会では、約 1 億 5 千万円の新築計画が提案され、承認された。

新築計画に向かって

先の総会で承認された新築資金は、自由ヶ丘礼拝所と名東礼拝所の土地売却金が約 1 億円になるであろうことを前提に、本教会からの借り入れ 2,000 万円と自己資金 3,000 万円を合計した金額であった。この金額に対して、心配する信徒もいた。将来を委ねなければならない子どもたちに借金を残したくないという意見もあった。そこで、新築計画に対して、今後どれくらいの献金が可能であるかを問う信徒向けのアンケートを実施することが、100 周年実行委員会で決議され、2014（平成 26）年 10 月に実行された。その結果は非常に良い感触であった。

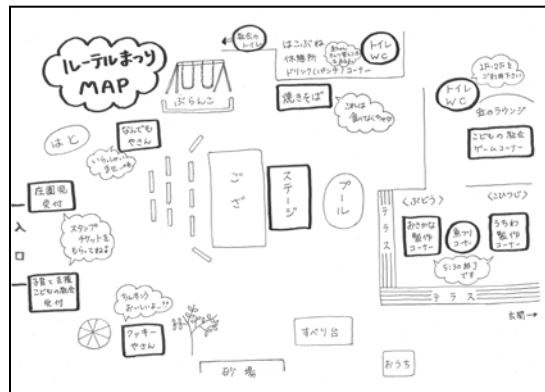
2014（平成 26）年、実行委員会は、具体的な構想を考えてもらうために、設計士を探すこととした。従来のルーテル教会内の設計士ではなく、外から探すことができないかということで意見が一致し、これまでルーテル教会に関わったことのない高垣建次郎氏を候補として、交渉することになった。高垣氏は主にカトリック関係の建築に携わっていた。交渉の結果、高垣氏は建築のためのナビゲーターとして関わることを快諾した。

2014（平成 26）年 8 月 30 日の一日修養会（テーマ「教会を建てる」）を開催。講師として招いた高垣氏は、自らの建築姿勢を「空間の創造」であると語った。さらに「パウロの教会論 キリストの体」という末竹牧師の講義も行われ、充実した学びのときとなった。建物が教会なのではなく「キリストの体」が教会であるという聖書的教会論を学び、改めて「教会」とは何かを考えるときとなった。

明けて 2015（平成 27）年 3 月 21 日、第 52 回東海教区総会において、なごや希望教会の建築計画が承認され、いよいよ具体的に動き始めることになった。

小さなところから一つに

一つの教会となったとは言え、各礼拝所での壮年会や女性会はそれぞれに行われていた。名東礼拝所はすでに自由ヶ丘礼拝所と今池礼拝所の各会に合流していたので、2009（平成 21）年以降は二つの壮年会と女性会が活動していた。2014（平成 26）年 1 月、礼拝所一本化を見据えて、まず女性会が一本化することが女性会総会において提案され、承認された。さらに、2015（平成 27）年 1 月には今池礼拝所の壮年会と自由ヶ丘礼拝所のインマヌエル会が一本化され、新インマヌエル会となった。新インマヌエル会と女性会が教会の両輪として、一つの体を形作るために協力していくこととなった。幼稚園の子どもたちの遊びから生まれた「ルーテル祭り」=カット=に、教会女性会、新インマヌエル会が協力しているのもその現れである。



おわりに

2009年1月1日に正式に合同した教会として歩み始めたなごや希望教会は、三つの礼拝所から一つの礼拝所への道を歩み続けてきた。100周年を共に祝い、新しい100年に向かって歩みだす年を共に生きている。この会衆を一つにするのは、みことばである。一つのみことばを共に聞く礼拝を通して、一つとなっていくのが教会である。これからも、みことばが導いてくださると信じ、「キリストの体」として神によって造られることを希望として抱きながら、歩み続けて行く。なごや希望教会の希望は神にある。

神に仕えた教職たち

100 年の時の中で

名古屋教会

着任順



第1代 宣教師

E・T・ホールン

1915（大正4）年10月～1917（大正6）年



第1代 牧師

値賀 虎之助

1915（大正4）年10月～1918（大正7）5月

第2代 宣教師

S・O・トーラクソン

1918（大正7）年～1921（大正10）年

第2代 牧師

高島 貞久

1918（大正7）年9月～1924（大正13）年



第3代 宣教師

アーサー・C・クヌーテン

1922（大正11）年＝含3年休暇＝～1940（昭和15）年

第3代 牧師

武藤 醇

1924（大正13）年～1927（昭和2）年4月



第4代 牧師

平井 清

1927（昭和2）年6月～1931（昭和6）年



第5代 牧師

吉田 康登

1931（昭和6）年～1938（昭和13）年



第6代 牧師

東 菊次

1938（昭和13）年～1941（昭和16）年



第7代 牧師

大内 弘助

1941（昭和16）年～1949（昭和24）年8月



第4代 宣教師

ハロルド・ディール（名古屋地方担当）

1949（昭和24）年～1958（昭和33）年



第8代 牧師

俵 貢

1949（昭和24）年～1951（昭和26）年



第9代 牧師

江口 武憲

1951（昭和26）年6月～1954（昭和29）年6月



第10代 牧師

白髭 市十郎

1954（昭和26）年7月～1958（昭和33）年



第11代 牧師

折田 良三

1958（昭和33）年～1960（昭和35）年



第12代 牧師

中尾 忠雄

1960（昭和35）年～1976（昭和51）年



第5代 宣教師

エベリン・タフ

1967（昭和42）年～1979（昭和54）年7月



第13代 牧師

宝珠山 幸郎（兼牧）

1976（昭和51）年～1977（昭和52）年



第14代 牧師

伊藤 文雄

1977（昭和52）年～1980（昭和55）年3月



第6代 宣教師

デルバート・ルメ

1979（昭和54）年8月～1992（平成4年）9月



第15代 牧師

明比 輝代彦

1980（昭和55）年5月～1988（昭和63）年4月



第16代 牧師

重野 信之

1988（昭和 63）年～1995（平成 7）年 4 月



第7代 宣教師

ペッカ・フフティネン

1994（平成 6）年～1996（平成 8）年



第17代 牧師

鈴木 浩

1995（平成 7）年 4 月～1998（平成 10）年 3 月



第18代 牧師

トーマス・スティンバーグ（兼牧）

1998（平成 10）年 4 月～1999（平成 11）年 3 月



第8代 宣教師

ヘレナ・カリヤライネン

1998（平成 10）年 9 月～1999（平成 11）4 月



第19代 牧師

落合 成光

1999（平成 11）年 4 月～2003（平成 15）年 1 月



第20代 牧師

明比 輝代彦（兼牧）

2003（平成 15）年 1 月～2003（平成 15）年 6 月



第21代 牧師

小泉 潤

2003（平成 15）年 7 月～2005（平成 17）年 3 月



第22代 牧師

末竹 十大

2005（平成17）年4月～



第22代 牧師

竹田 孝一

2005（平成17）年4月～2009（平成21）年3月



第9代 宣教師

チャールズ・フレドリクソン

2006（平成18）年8月～2009（平成21）年3月

希望教会

着任順



第1代 宣教師

エリック・ピーダーセン

1964（昭和39）年～1967（昭和42）年



第2代 宣教師

フィリップ・ルティオ

1967（昭和42）年～1970（昭和45）年



第3代 宣教師

マーカス・モルク

1970（昭和45）年～1972（昭和47）年



第4代 宣教師

トーマス・スティンバーグ

1972（昭和47）年

第5代 宣教師

ケツレン・ギルバートソン

1972（昭和47）年～1973（昭和48）年



第6代 宣教師

アンナ・マリア・ミッチェル

1973（昭和48）年～1981（昭和56）年6月



第1代 牧師

川口 誠

1974（昭和49）年6月～1981（昭和56）年3月



第2代 牧師

早川 顕一

1981（昭和56）年4月～1991（平成3）年3月



第3代 牧師

内藤 新吾

1991（平成3）年4月～1997（平成9）年3月



第4代 牧師

中村 朝美

1997（平成9）年4月～2002（平成14）年3月



第5代 牧師

落合 成光（兼牧）

2002（平成14）年4月～2003（平成15）年1月



第6代 牧師

内藤 新吾

2003（平成15）年1月～2004（平成16）年3月



第7代 牧師

明比 輝代彦

2004（平成16）年4月～2005（平成17）年3月



第8代 牧師

末竹 十大

2005（平成17）年4月～



第8代 牧師

竹田 孝一

2005（平成17）年4月～2009（平成21）年3月



第7代 宣教師

チャールズ・フレドリクソン

2006（平成18）年8月～2009（平成21）年3月

名東教会

着任順



第1代 宣教師

トーマス・スティンバーグ

1980（昭和55）年4月～2001（平成13）年8月



第2代 宣教師

ティモシー・メイソン

2001（平成13）年8月～2004（平成16）年10月



第1代 牧師

小泉 潤

2004（平成16）年10月～2005（平成17）年3月



第2代 牧師

末竹 十大

2005（平成 17）年 4 月～



第2代 牧師

竹田 孝一

2005（平成 17）年 4 月～2009（平成 21）年 3 月



第3代 宣教師

チャールズ・フレドリクソン

2006（平成 18）年 8 月～2009（平成 21）年 3 月

なごや希望教会

着任順



第1代 牧師

末竹 十大

2009（平成 21）年 4 月～



第1代 宣教師

チャールズ・フレドリクソン

2009（平成 21）年 4 月～2010（平成 22）年 6 月



第1代 牧師

佐々木 赫子

2009（平成 21）年 4 月～2011（平成 23）年 3 月



・ なごや希望教会 100 周年に寄せて ・

教会員の寄稿文



新しい会堂

新しい教会堂での礼拝

大野 比奈子

各々の歴史を持った3つの教会が「なごや希望教会」として、建物も一つとなった教会堂での礼拝を思い浮かべます。毎日曜日、日常生活の営みを中断して礼拝の中へと入って行きます。その礼拝に於いて牧師を通して神さまのみ言葉を聴き、神が人生の主体であることを学び、その時々になされている状況の中で、なすべき事を与えられて日常の生活に戻って行く・・・その繰り返しが私たちの人生を支えて行くと思っています。

近い将来、新しい礼拝堂で礼拝できる喜びが私たちを満たし、そ

して道行く人々が教会の前でふと足を止め、扉を開けて私たちと共に礼拝に与り、共に讃美歌を歌い、楽しく交わり、此処を再び訪れたいと思う・・・そんな教会でありたい。また新会堂の建築は次世代に繋がっていく希望でもあり、それが自分を含め年を経た者たちの励みとなって、会堂建築に向かう道の上に働く神さまの力を信じて進みたいのです。

新しい教会のイメージ

ヨシミ ミドリ

新しい教会に望むことは、明るい教会です。日曜の朝、礼拝に向かう時は、ちょっとうれしい気分



で実家に帰って行くような、ありのままの気持ちで行きたい。礼拝が終わって教会を後にする時は、何かほっとするような、朗らかな気持ちで、心が暖かく軽くなるような気分で帰路につきたいです。

活かされ、満たされて

前田 朱美子

今池の地で 100 年もの間、神さまのみことばを伝え続けてきた教会。そこに幼稚園が加わり 90 年。これからの歩みも、教会と幼稚園が共に宣教の場として充分用いられ、活かされるように…今、集められている私たちが、改めて手を携えて 1 歩ずつその道を整えて行けたらと願います。

日曜日には、子どもたちの讃美の声で教会の一日が始まり、その日一日礼拝や様々な交わりを通して、神さまのみ言葉が満ち溢れ、月曜日からは、幼稚園の子ども達の声が園庭で響きわたり、毎日行

われる礼拝や、繰り広げられる生活の隅々にまで神さまの恵みで満たされていく。

一方、教会を拠点として保護者の聖研・集まりだけでなく、教会の人たちと保護者が共に参加出来るような小さな交わりのプログラム（手芸や料理や音楽など…）が行われ、お互いに教会や幼稚園が身近な存在になれば ♡♡♡

そして、そんな何気ない日々の中から神さまのみ言葉が広がっていく～皆の拠り所となる教会になれば素敵だなと思います。

新会堂建設にあたって

浅井 敬

人は神様によって命が与えられ、塵に返される存在です。それにもかかわらず、人間に対する思いだけで生きていることが多いものです。本来は神様との関わりを大切にすべきです。



教会は神様と関わる場所です。
その場所を新たに建てることは素晴らしい恵みです。その意味で教会を建てることを喜びたいと思います。

すべては恵み

鈴木 一恵

2005 年のあの出来事がなければ、
2009 年のあの日がなければ、今の
この時はなかったのだなあとしみ
じみ思います。名古屋教会 100 年、
希望教会 50 年、名東教会 35 年を
なごや希望教会としてむかえるこ
とになりました。なんと幸せなこ
とでしょう。今私たちがここに
いる必然を思わずにはられません。

今池礼拝所の周りの環境も今年
大きく変わりました。大通りから
教会の十字架が見えるようになった
のです。この時に教会建築が
出来るなんて！今池と言えば、ルー
テル教会の礼拝堂ね、と言われる

ような今池のシンボルになるかも
しれません。

暗い夜空に浮かび上がる光射す
十字架。木漏れ日と木々を揺らす
風の中に見え隠れする礼拝堂。こ
れからなごや希望教会に集うであ
ろう、まだ見ぬ人たちのためにも、
私たちは最大限の力を発揮して心
癒す祈りの空間を今池の地に残し
たいと思います。みことばに聴い
て神の教会とされますように。

新会堂の建設

菊池 敏

百年になる私達の教会には、新
しい芽が出てきている。新会堂の
建設である。

今年はこの実現に、主の御詞を
受けて聞き従い、魂に命を受けて
実現の第一歩を踏み出していきたい。
教会員が無私の心で、主の御
詞に従っていけば、教会の眞の魂



の命が入る。皆が生き生きとして、主にも他者にも仕えることが出来る新会堂が生まれる。ここを基盤として、新たに続く「なごや希望教会」が生きていくと確信できる。

百年を迎えるこの時、新しい芽生えを育てる時期となり、無私の心で、主の御詞に聞き従い育て上げましょう。

「新しい礼拝堂、牧師室」の意味

大野 捷二

アダムとイヴ以来 神様から離れてしまった人間にとっては、神様が「ここにいるぞ」と言ってくださってはじめて、あらたに信仰心が浮かび上がり礼拝心が蘇ってくるものでしょう。ここに来て「たくさんの人とともに牧師から神様の説教を伝えていただき、神様を賛美できる」・・・というこここそが新しい日本福音ルーテルなごや希望教会と思いたい。

1. 老朽化した現在の教会からリフレッシュして、外を歩く人の心をもひきつける安全で魅力的な礼拝堂を持つ教会。
2. 礼拝堂は信仰心がより高まる雰囲気がある空間。また、信仰心の大小を問わず心休まる礼拝堂。
3. 神様が言われることを一番知っている牧師に正しい解釈を伝えてもらい、神様から平安を得て神様に感謝する場所。
4. いつでも神様を心から賛美する声が出せる会堂(礼拝堂)。
5. そして神様の来臨のときまで(何年でも)信徒に神様の教育をし続けることができる(牧師、信徒のバトンタッチが続けられる)教会。

オルソン キクチ 三恵

私の夢は、近所に教会があることです。教会には、教会員はもちろんのこと、クリスチャンではない人も何かと集まり、近所の人は



この教会をよく知っていて、皆の好きな場所であることです。礼拝、教会学校、勉強会、ボランティア活動、バザー、音楽会、結婚式、お葬式、お楽しみサークルなど、神様の祝福と愛に包まれて行われていたら素晴らしいと思います。

とここまで書いて、何か懐かしい思いがこみ上げてきました。私の育った光が丘の家の4、5軒隣にステンドグラスのある可愛い教会がそうでした。異文化に触れたのも、その教会の宣教師からでした。光が丘にあった希望教会は、私が今、思い描く教会の原点かもしれません。

これから、なごや希望教会が新しくなろうとしています。今池の地は、場所的には私の夢と離れてしまいましたが、物理的な距離だけでなく、もっと内面的な距離を縮めていくことが、私が夢を描いて行く上で、大切なことだと思っています。

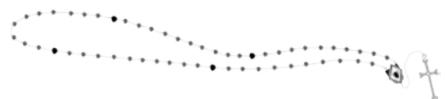
新会堂を夢みて

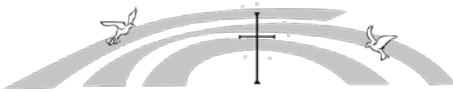
長谷川 奈穂

私の願う新会堂は、厳かであっても立派ではなく、大きくもなく、ただ温もりを感じさせてくれる会堂です。貧しい人も、疲れた人も、そうでない人も、この建物に入りたいと感じさせてくれる教会です。

あまり大きいと、掃除や管理が大変ですし、人と人の間も広くなって淋しいです。

そして、いつも神様を賛美し合える交わりを持ち続けたいです。礼拝で、神様に愛されている自己を確認したならば、再び重い荷を負う気持ちになれることを、一人でも多くの人に知ってほしい。一言が、私を変えて下さる幸せを感じているので、皆さんとそれを分かちあいたいです。





菊池 幸子

なごや希望教会が宣教 100 周年の記念の年を迎えられること嬉しく、感謝いたします。

毎日曜日には、元気な子供たちが集うこどもの教会、落ち着いた大人の礼拝、音楽にあふれた若々しい讃美礼拝、国籍をこえた国際礼拝など幼子から人生の終末をむかえる人々までが集い、共に礼拝と讃美あふれる教会を夢みています。私が 40 数年前、この教会の門を叩いた時、牧師先生、信徒の方々があたたかく迎えてくださり、「ここには、私の居場所が用意されている」と思わされて、感激したのを昨日のように思い出されます。あなたの居場所は「このなごや希望教会に用意されていますよ」とわかるような、新会堂ができますようにと祈っています。私たちが頂いている限りない恵に感謝して、一歩、二歩と外に向けて、主

にあってひとつ、人の痛みを共有できる群れとして新しく歩んでいきますように。



野間 實

「人もし渴かば我に來りて飲め。我を信ずる者は、聖書に云えるごとく、その腹より活ける水、川となりてながれ出づべし」 ヨハネ傳第六章三十七節三十八節

老いばれ信徒の希望を述べさせて戴きます。

新しい教会堂は近辺の人達に利用して貰う開かれた集会場の部屋をと思う。具体的には小ホールでライブ会場として音楽サークル、カラオケとか歌声喫茶としても使えるふれあい交流サロンです。気楽なカフェとして末竹牧師先生の一口説教を交え高齢者、孤独な人達に利用して戴くのが良いかと。



他に瞑想の場としたり、老人の悩み困り事等を気楽に相談出来る場所としての活用等です。神様の御言葉が無理なく自然に集う人達に届く場が必要と考えます。

会堂は天窓も大きく燦々と光が降り注ぐ中での神様を讃美する会堂です。勿論、会堂は満席で子子孫孫まで御言葉がつづく教会を望みます。

私の教会

中島 里実

祈りの場であると共に、やすらぎの場となるような温かい雰囲気
の教会にしていきたいと思います。
主をまだ知らない方が、求めて来訪された時に、いつでも人の気配があり、笑顔でお迎えできるような所になる事を望みます。バザーをはじめ手作りの会、コンサート、勉強会や講習会などを通して、地域の方々に主の愛を知って頂くチ

ャンスを広げ、開かれた教会にできたら良いなと思います。

晩 鐘

嶋 昭江

もう十数年前の事だろうか。つけっぱなしにされたNHKのテレビから今まで聴いたことのないピアノの音色が聞こえてきた。

私は音楽の専門家でないのでこの曲名は何か、誰の作曲かも知らない。ただ透き通った高音の音色が切なく、激しく心に浸透し、身震いを覚えたことを覚えている。これがフジ子・ヘミングのラ・カンパネラとの出会いであった。そして、この曲はリストがパガニーニのヴァイオリンの演奏を聴いて感動し、ピアノ曲にしたこともその後知った。

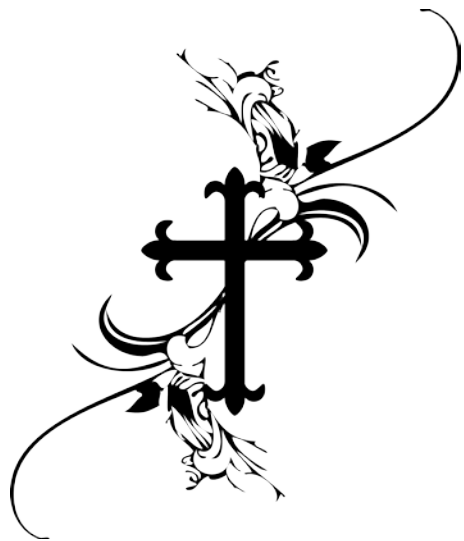
何としてももう一度聴きたいと思った。その矢先、再放送があった。そしてフジ子の数奇な運命と



生活を垣間見ることが出来た。どんなに苦しく貧しくとも毎日数時間はピアノを弾き続けた事。自分の食べ物がなくとも人間に捨てられた動物には食べ物を与え、飼育した事。貧しくとも自分なりの身なりやインテリアを工夫し、絵を描いていた事。名も無く誠実に生きる人をこよなく愛する事。何にも囚われず、自由闊達に生きる事。いつも祈りを捧げる事。そんな生き方が音色に深みと透明感を与え、私を、人を魅了する。

それ以来私は幾度も彼女の演奏会に行った。この6月17日も愛知芸文コンサートホールでヴァイオリンとの演奏を聴いた。ラ・カンパネラは前にもましてまろやかにやさしく祈りのように響いた。

ふっと私の葬送の曲はラ・カンパネラと思った。新生の教会で。





感謝

未来へ向かう

植下 眸子

私の祖父母、両親はクリスチャンです。76年前私の誕生を喜び神様に感謝の祈りと私の未来へ向かって信仰を持ち教会の一員として生きて行くために、多くの事を与えてくれました。教会のない田舎で祖父母は家庭集会を持ち、牧師先生、宣教師の方々が夜汽車で礼拝を行うために来てくださいました。

祖父は教会を建て、沢山のの人々と礼拝し毎週牧師さんのお話を聞きたいと願い、祈りました。私の第一歩の教会でした。結婚式も子供たちの洗礼もこの教会でした。

人生四つの教会にお世話になりました。沢山の兄弟姉妹との交わりを持ってました。ふっと今、全ての事を神様がお選び下さって私にお与え下さった！！私の小児洗礼はこの名古屋教会初代高島牧師が祖父の家でして下さい、宣教百年名古屋教会堂に私が座している。教会が私の子や孫に大切なものと伝え続けねばと強く思います。

神様、感謝します！

堀 育美

主人の転勤により、長女がルーテル幼稚園に転園したことから始まる神とのつながり。すべてが神の計画の内にあつたとは。



聖壇の花活け、奏楽奉仕、女性
会教区会計任務、すべてを神の恵
みとして、受け入れ、委ね、持て
るもののうち最高のものを捧げる
姿勢でいつもあるようにと思って
います。

信仰あるものとして、こどもの
教会のスタッフ、幼稚園（遊ぼう
会、こばと組、メダカ）に関わる
ことができ、神によって用いられ
ていることに感謝する毎日です。
み言葉を丸ごと受け入れ、大きな
声で讃美し、小さい手と手を合わ
せたお祈り、アーメンの声も大き
いこどもたち、その姿に癒されて
いる私です。これからも一人でも
多くのこどもたちに福音を伝えて
いきたいです。その気持ちを起こ
させてくださる神を信じ、向き合
い取り組んでいきたいと思ひます。

いつかそのこどもたちと兄弟姉
妹として共に礼拝が守れる日がく
ることを祈りつつ…。

イエス様に出会って半世紀

山田 武雄

私は、幼少のころ、川に落ち川
底に沈んでいるのを、通りがかり
の人の人工呼吸により、奇跡的に
息を吹き返しました。そして、十
九歳のとき、畑でラジオのルーテ
ルアワーを聞いていて、朗読され
ていた聖書の言葉に心を打たれ、
電話番号を地面に書いて控え、家
に帰り電話をすると、この教会で
した。日曜礼拝のほか、祈祷会に
も出かけました。中尾牧師夫妻に
迎えられ、神様とお話しをしてい
るようでした。

そして二十九歳の時、私達の地
域に消防署ができることを知り、
早速採用試験を受けました。それ
は、消防署員は人の命と財産を守
る職業であり、ご恩返ししがたかっ
た。現場で社会悲劇と向き合っ
ての活動は、神さまに祈らずにはお
られなかった。



神さまに導かれ、あれから 53 年、
この教会は遠いけど、残りの人生
を健康で礼拝を守りたい。

石川 耕三

現在は高齢の為、老人保養施設
に入居静養している為教会活動へ
の参加は暫く休んで居ります。

此度名古屋教会創立百周年記念
を迎えるに当り、当初の会員とし
て、名東教会の初代のステインバ
ーグ牧師夫妻と御一緒の教会活動
が印象に残っています。

特に当番による礼拝堂の各部
(机、窓、椅子、床)の清掃は、毎回ピ
カピカに磨きました。

又東海教区の活動の一つとして
の、毎月の夜の炊き出し(名古屋市
中区の高速道路高架下)には家内
と共に参加し、準備と配膳及び翌
日の後片づけを暫らく続けました
ことが印象に残っております。

放蕩息子

吉田 穰

私は学生時代に東京で洗礼を受
け、社会人となってから数年間は
月に 2 度位礼拝に出席していまし
た。しかし、多忙にかこつけて次
第に足が遠のき、やがて海外に転
勤、帰国後の勤務地名古屋は全く
不案内の土地なので教会を探すこ
ともせず、それやこれや(の言い
訳ばかり)で結局 40 数年間、教会
とは無縁、聖書も読まず、お祈り
もせずのままでした。ところが、
4 年前のある日、PC をいじってい
るうちに、何となく、(本当に
「何となく」です、これが主のお
導きでしょうか)「希望教会」の
サイトに行き当たり、今池礼拝所
に顔を出して見ることにしました。
幸いにも牧師先生、教会員の皆さ
んがどこの馬の骨ともわからぬ人
間を温かく受け入れて下さったの
で、続けて礼拝に出席させて頂く
ようになり、今日に至っています。
敬虔な教会員の皆さんから見れば、
「何とまあいい加減な奴」でしょ



うが、どうか目を瞑って交わりに加えて下さい。お願いします。

金澤 郁子

教会創立 100 年おめでとうござ
います。

私は光が丘に教会があった時、
土曜日にあるミッチェル先生の聖
書研究に出席するようになり、日
曜日の礼拝にも導かれました。

現在の教会で 1978 年 5 月に川口
先生より受洗させて頂き、現在に
至りますが、無牧の時もこの教会
で励まされて、又いつも魂の拠り
所としております。教会への奉仕
も皆でたのしく働いています。

礼拝後のお茶の時間も希望のよ
うで、本音でイエス様とのつなが
りを大事に生活していきたいとね
がっています。末竹先生の聖書研
究はこの頃はすなおに聞けるよう
になり、これからもたのしみにし
ています。

名東教会と私

森 あおい

私が名東教会の礼拝に出席する
ようになったのは 1990 年代前半で、
スティンバーグ牧師が牧会されて
いた時でした。スティンバーグ先
生のお説教は、ボクシング・ジム
で習得されたというどちらかと言
えば体育会系の日本語表現が用い
られることもあり、ときどき意表
を突かれることもありましたが、
常に愛に満ちた御言葉を伝えてく
ださっていました。名東教会での
一番の思い出と言え、やはりク
リスマスでしょう。アメリカ流の
クリスマス・スピリットに満ちた
アドヴェントの時季には、ステイ
ンバーグ夫人の熱心なご指導のも
と、クッキーを焼いたり、リース
を作ったりと、思い出すだけでも
とても温かな気持ちになります。
その後、生活の拠点が広島に移っ
たので、実質的に名東教会で信仰
生活を送ったのは数年しかありま
せんが、名東教会で出会った牧師
先生、信徒の皆さんとの交わりは、



私にとっての大きな賜物で、いまだに大きな拠り所となっています。

春 蘭

吉田 玲子

どんな時にも
神様に愛されている
そう思っている
手を伸ばせば届くところ
呼べば聞こえるところ
眠れない夜は枕の中に
あなたがいる

これは、星野富弘氏の「風の歌」で「陽春」の中の春蘭の絵と共に書かれている詩です。彼の友が「神様に会える“どこでもドア”を持っているんですね。いいな」と問いかけると「大きなドアですが開かないこともあります。気がつくと自分で鍵をかけているんです。」と答えています。最近、私が心ひかれた一文でした。

百周年記念に思うことは、私が生まれるよりも前に、この名古屋のこの地に御言葉の種が播かれ、そして今、兵庫生まれの私がこの名古屋で御言葉を聞いている不思議！どうしてめぐり会えたのでしょうか？やはり、私も神様に愛されているからなんだろうと思う。感謝です。

未来に向かって

細川 千代子

今迄多くの人に出会って、その一人一人に感謝します。イエスキリストに出会って感謝します。信仰の師の石川千鶴姉妹に出会って感謝します。石川姉はイエスキリストのような愛に満ちあふれた人でした。色々とめんどろをみてもらいました。

さて出会った人々の多くは世にいません。やがて再び会える日を待っています。イエスキリストに



じかに顔と顔を合わせてあえる事を楽しみに待っています。

宣教 100 年に思う

丹羽 とし子

私は昭和 40 年のクリスマスに今池の地で、中尾忠雄牧師より受洗させて頂きました。丁度宣教 50 年の年だったと思いますが、文集を出したり祝会をもった覚えがあります。その後、夫の仕事の関係で仙台に移り、又名古屋に戻った際、家の近くの自由が丘礼拝所に教籍を戻し現在に至っております。

宣教 100 年を迎えるにあたり代々の牧師先生のお働きと信者の皆様の努力で、信仰の拠点としての確固たるものが脈々と受け継がれて今日があると思います。

日本も諸外国も平和とは程遠い諸問題が山積みの世になっておりますが、今回とても大きな痛みを伴いつつ 3 教会が一つになった事が奇蹟です。

末竹牧師のお働きに感謝し、新しい教会と共に今池が宣教の拠点となり、御言葉に聞き従い、神様の御守りのうちに平和を発信する教会になって行けたらと願います。



赤尾 千史

私は神から愛されている。赦されている。洗礼を受けた時から、そのように強く感じる自分がここにある。しかし愚かで罪深い私はそんな大切な事から離れてしまい、言葉と行いによって罪をおかしてしまう。今まで幾度となく懺悔したことであろうか。それでも尚、神が普遍的な愛で私を愛して下さい。

四年前の春、弟を亡くした。両親も弟(長男)も私も悲しみにくれ、長く辛い日々を送った。しかし私には祈りがあった。祈ることが私には唯一の救いであった。神はこの世を裁きに來られたのではなく



癒すために来られた、という意味を身を持って知り得たのであった。

だからこそ、豊かな恵みを受けた者として、愛を持って生きたいと強く願う。どんな人や事に対しても、手を差しのべられる私でありますように。今日もそうやって神に祈る私がここにある。

ざいます。特に、火事で園舎が全焼した時には「ひとりでもルーテル幼稚園の保育が受けたいという子がいたら保育をしたら良い、後の事は教会で考えるから大丈夫。」ととても力強い言葉を頂き感激しました。教会の子ども達への思いを伝えるために、この先も教会と幼稚園が手を携えて保育できます様にと祈っています。

100周年に寄せて

名古屋ルーテル幼稚園
副園長 亀山 千代江

100周年おめでとうございます。

いつも幼稚園の事を心に留めて頂き感謝しています。教会の方々には、主日礼拝の時に幼稚園の子ども達や教師のためにお祈りをさせて頂き感謝しています。お祈りを聞く度、気持ちを新たに明日からの保育も頑張ろうと力を得ています。また園庭の木々の手入れや空調の掃除をして頂いたり、挫けそうなときには優しく声を掛けて励まして支えて頂き、ありがとうございます。





未来へ

よろこび

松隈 芳久

「ルーテル教会は歌う教会です」。今も耳に残るエベリン・タフ宣教師の言葉。50 年前、20 代半ばの頃、先生を囲み、仲間たちと多くの讃美歌を歌った。米・ノースダコタ育ちの女性が異国で宣教に励み、若者たちが教会に集う。喜びの二重奏▼この世の業は、ヒト・モノ・カネ・情報で営まれる。目標を定め、そこへの到達に力を尽くす。達成感が新たなミッションの活力となる。私の喜び。今、教会に集う人は少ない▼ドイツで過ごした日々、聖餐式では一つの輪になった。「私たちは兄弟、姉妹です」と、自宅に招かれ、週日

の集いにも加えられた。つながりは今も続く。共に主にある喜び▼礼拝はドイツ語で Gottesdienst、その意は「神様の奉仕（もてなし）」。礼拝の流れに身を委ねて覚える安らぎ、その語源を悟る。宣教二世紀も、「主は我がよろこび」と讃え歌う群に、神様の思いが注がれる。

愛と喜びと感謝

川上 美佐子

100 周年を一つの区切りとして新たな時代に向っての希望……私にとっては少し漠然として難しいテーマでしたが、改めて「教会と



は何か」を考える機会を与えて下さり感謝します。今、私たちを取り巻く社会環境が何か危うい方へと向っている様な気がする中で、教会だけは何があっても平和を求めて暗闇を照らす光で在り続けて欲しいと思います。眼に見える物だけに心を配るのではなく、教会が「キリストの体」として、この世に存在し続ける為にも、私たち信徒一人ひとりが救われた者として愛と喜びと感謝を持って歩む姿を今こそこの世に向って伝えていく事が大切だと強く思います。

なごや希望教会の将来の夢

西尾 三郎

今年になごや希望教会伝道 100 年の記念の年。私がこの教会の礼拝に初めて出席したのが、1964 年のクリスマス礼拝。その頃「ルーテルアワー」が CBC ラジオで放送がされていて、そこで勧められた聖書通信講座で、初級、中級と進

んでいくうちに、教会の礼拝に出てみませんかと誘われました。その頃は西区笠取町に住んでいたので、今池がいいだろうと紹介して頂いて、名古屋教会にお世話になることにしました。次の年、1965 年 10 月の宗教改革記念日に、伝道 50 年記念の「桜の木」を植えたことを覚えています。その木は今はありません。大きくなって南側の道路にはみ出してしまい、交通の妨げになると、やむをえず切ってしまったようです。

私達夫婦は、この教会に 50 年余お世話になり、結婚式、披露宴も中野廣子姉など幼稚園の先生たちのお世話になりました。息子の結婚式もこの教会であげることができ、さらに孫たちもこの教会で結婚式をと思ってくれる、すばらしい会堂が出来ることを期待しています。

今池に私たちのいろいろな思い出があるように、名東、自由ヶ丘の人たちも思い出が詰まったそれぞれの教会がなくなることは、心



の整理がつけにくいことと思います。3つの教会の会員が新しく作る会堂を自分たちの希望で満たし、自分の教会として力を合わせて礼拝を守り御言葉を伝えていくことによって、なごや希望教会の名前にふさわしい教会になれると思います。

機関誌「るうてら」3月号によると、ルーテルアワー聖書通信講座が新しく始まるとのことです。以前はラジオでしたが今度はインターネットとのこと。多くの人にキリストの教えが広まり、多くの人々が教会に集まり、新しい会堂がいっぱいになるように期待しています。

百周年にあたって思う事

村松 正義

私が、今池教会に初めて来たのは、18才の時でした。19才の時に中尾忠雄牧師によって、病床洗

礼を受けました。今池の地にあって、宣教百周年を迎える、このときを振り返って。私は73歳ですから、55年この教会に、お世話になっているわけです。半世紀にもなるのです。未来に向かって前を見つつ。何をなすべきか、希望、私なりに考えている事を、書いてみたいと思います。いつも皆さんも思っている事と思いますが。教会員数がいっこうに増えない、どうしてでしょう。ああでもない、こうでもない、考えてもさっぱりわかりません。どうしたらいいか、これもわかりません。主よ、どうすればいいのですかと問うても、答えは返って来ません。牧師の働き、信徒の働き、何か問題があるのでしょうか？どうしたら、いいのか教えてほしい。建築契約、自由が丘、名東の人たちと仲良く、信仰生活を共にしていきたい。でも、不安がないわけではありません。私は、この頃、思うのです。何も難しい事を考えてはいけない。いつも笑顔をもって人々と接する事。一人一人が自分のタラントを、



最大限に発揮して、行けばいい結果に結び付けるのではないかと。次の二百年記念に向かって、この教会が、この地で大きな、働きの場になるよう、夢を見つつ、祈りたいと思います。

希 望

佐藤 允子

なごや希望教会宣教 100 年おめでとうございます。開拓伝道時代から戦中、戦後を経て現在に至るまでの深い「神の恵み」と多くの人たちの「献身」を感じます。自由が丘礼拝所は歴代の宣教師の先生方や牧師先生方に始まり 50 年になります。時に大勢集まった時代もありましたが時を経て老年者が多くなりました。100 年を迎えるに当たり希望したいことは、三つの教会が一つになり、幼稚園を隣接する風格のある教会を創ることです。子ども、若者、壮年、老年それぞれ少人数が増えて元気な教

会になることです。幼稚園から子供の教会、教会へと道筋ができることです。一方で音楽の盛んな催しがあつて人の出入りの多い明るい教会になることを期待します。

神様の導きを信じ神様に感謝して教会生活を送っていきたくと思っています。

希望は失望に終わることがない

川上 勝

超高齢化社会、教会もご他聞に漏れず会員の 60%以上が私を含め高齢者という状況の中、10 年、20 年先を考える時、必ず行わなくてはならない次世代へのバトンタッチを想う。

そのバトンに私たちは何を託さなければならないのか？ 美しく立派な会堂を残すことだけがバトンに私たちが託す事なのか？ 人のためと言いながら進む環境破壊



と人間破壊、そして弱者切捨ての現代、その中で教会は傷ついた人々のシェルターで在り続けて欲しい。悩み苦しみ絶望の淵にある人たちが躊躇することなく訪れ、キリストの愛に触れ、身体を休め生きる希望が与えられるような場所であって欲しいと願う。そんな想いをバトンに込め次世代に伝えたい。希望は失望に終わることがない、聖書が語るように。

未来の私へ

塩田 浩

希望教会が20周年を迎えるころに君は名古屋に移り住み、姉に連れられ通い始めました。学生時代は宣教師の兄姉と共に奉仕した教会学校の楽しい思い出。求道中に参加した洗礼式後の祝会にて、思いがけず口にした自らの受洗宣言。母を天国に送った時には多くの教会員の皆様に慰められ力づけられました。

なごや希望教会として100周年を皆様と祝い、何年後にこの作文を読み返すのでしょうか。その頃にはどのような方たちと巡り合って助けられ、どれだけの試練を乗り越えているのでしょうか。家族は？また神様にどれだけの力を与えられて、どのような方たちの支えとなることが出来ているのでしょうか。新しい礼拝堂は？私の奉仕は何をしているのでしょうか。また、どれだけ神様のご意志を受け取り実行に移す力を備えることが出来ているのでしょうか。どうか未来の私が皆様と共に素晴らしい信仰生活を続けていますように。



100周年を記念して

井森 悠子

100年の間礼拝が守られて来たこと、牧師、信徒、会堂を備えて頂いたことを心から神に感謝いたします。三つの教会が、様々の事



情を乗り越えて一つの教会となり、
まとまって新しい会堂を建てるこ
とが出来るまでになりました。先
生はじめ会員の方々の弛まない努
力、奉仕の賜物と感謝します。私
のような家族の介護のため礼拝に
も殆ど出られない者が、教会のみ
んなに守られてありますことは有
難く感謝の気持ちで一杯です。こ
れからの 100 年も、み言葉が新し
い会堂で宣べ伝えられてゆきます
よう、主よりの豊かなお支えお導
きを祈ります。

チャンスは希望へ

鈴木 幸子

100 年前、私は産まれていませ
んでした。100 年後、私は生きて
いないでしょう。

今、私はその一直線上の真ん中
にいます。そして人生の後半にな
った自分に思いもかけない素晴ら
しいチャンスがやってきました。
自分達の教会を建てるという想像

を越えるチャンスです。チャンス
は希望へとつながります。

私の夢は、ステンドグラスから
陽がさし込み中心に十字架があり、
それを仰ぎ見る自分がそこにいる
ことです。現在、私の身内には誰
一人クリスチャンがいません。
100 年後私の思いを受けつぐ子孫
が、その教会で洗礼を授かり、そ
して良き人にめぐり逢い、その教
会で結婚式をあげてくれることで
す。

建物には、あまり思い入れはあ
りません。門戸は広く、中心に十
字架があるだけで充分です。私の
希望は、シンプルにです。

未来へ向かう

古谷 美千留

一つの教会に長く、お世話にな
ってきました。来たくても、教会
に来ることができない人もいるこ
とを知らされ、教会に来られるの



が当たり前ではないことを知り、
恵まれていることを感謝します。

神様は、いろんな人を、生かし、
用いるお方です。これから、式
文の言葉も大切にしながら、賛美
歌の信仰的な、歌詞にも、心をと
めながら、キリストがともにいる
ことを忘れずに、そのような、礼
拝を大切に、キリストに気持ちを
変えていただきながら、奉仕も
という教会であってほしいです。

未来へ向かう

坂井 茂子

私達の教会は 3 礼拝所が一つの
ファミリーとして新しい教会で出
発する予定です。宣教の場として
新しい気持ちを持って前に進みた
いと思います。

日常の雑多な出来事から逃れて
静かに祈りの時を持てることは、
私達にとってますます必要なこと
でしょう。そして神様に心から信

頼して祈れることは本当に幸せで
す。

教会の家族の繋がりは血縁の繋
がりではないけれど、私達は神様
の御心を通して繋がっていると思
います。年を重ねて行くと何かと
不自由な事が多くなります。そん
な時、分かち合える兄弟姉妹がそ
ばにいてお互いいたわりの祈りが
出来たら素敵です。私はそんな心
温かい雰囲気のある教会で過ごし
て行きたいと思います。

又若者たちが多く集まって来て
いつも讃美の歌が流れていたら素
晴らしいです。そして、若い人た
ちにも受け入れられる開かれた教
会で共に御言葉を聞きたいもので
す。

未来へ向かう

伊藤 由紀子

新たな一歩を踏み出すにあたり
「生き生きとした教会」を目指し



たいと思います。そのためには、建物をどれだけ新しくしてもそこに集う一人一人がペトロの石ころとなり教会を構築していくという思いがなくては生き生きとした教会にはなれないと思います。その教会に毎日曜日に集められ、神の御言葉をいただき、自分をたてなおし、気持ちを新たに教会から出て行きたいものです。私たちの群れに一人でも多くの人が増し加えられることを願いながら……

明日の「なごや希望教会」

よき証し人になろう！

内河 恵一

三つの教会が一つになって、新しく「なごや希望教会」が生まれました。今池礼拝所は、100年に及ぶ伝統を有し、都心の中にどっかりと位置し、併せて幼稚園を包摂する。自由ヶ丘礼拝所は、新興地にあって、地域に親しまれる教会として、思いきり自由な雰囲気醸

し出している。名東礼拝所は、宣教師が中心になって開拓精神に溢れた歴史を有する。教勢という面では、今、教会は苦難の時を迎えているが、三つが一つになって新しいものを見つけていきたい。イエスの御心がキリスト者を通してどのようにこの社会に顕現されるかが問われている。高齢者は高齢者なりに、若者は若者なりに。

「私が愛したようにあなた方も互いに愛し合いなさい」と命じられる神様の思いは、私たちの生き方に映し出され、そのことがこの世における「証し」となり、キリスト者としての生きがいになる。そして、そのエネルギーこそ、教会をより大きな宣教の器とならしめるものと確信したい。

名古屋教会宣教百年にあたり

市川 旬

私が名古屋教会に帰ってきて30年余になりました。過去の恵みを



思い明日からの希望について文章を、との指示でした。私事を書く
と指定の文字数では無理なので大変な経験と恵みを記します。

2001年に幼稚園舎が焼失しました。園舎再建に関わり大変多くの方々の支援と協力をいただき卒園式に間に合った事です。雑用と会計として主の豊かなく守りと恵み>を心から感じ感謝しました。

これからの歩みについての思いですが、大変複雑な感情です。この10年あまりで、多くの会員の方々が他の教会に転籍をされたり、礼拝に参加されなくなりました。転籍の理由も、ひとり一人有ることでしょう。しかし市内のルーテル教会や市内の他教派に転籍をされる方の原因を考え、教会員の意識と、牧師や役員会の危機意識が不足しているのでは無いか！とボケタ頭で思っています。老人の取り越し苦労かな？それとも夢かな？

百周年に寄せて

真木 雅子

なごや希望教会百周年、おめでとうございます。九州の日田教会から、なごや希望教会へ導かれて十年になります。

私が幼かった頃の教会は、人口6万人の小さな町でも若い人達が集まり、活気のある場所でした。しかし高度成長期が終わり、少子高齢化や欧米からの宣教支援の撤退などの事情にもより、ルーテル教会の宣教はどこも厳しいものとなっています。

そんな中、会堂を新築し、もう一度一から宣教を新たに進めようという試みは私達には希望を与えるものです。パウロの時代から、教会は様々な波乱を超えて、遠い東の国にも宣教され継承されています。その末端の一人としてこれからも繋がり、ささやかながらイエスの言葉を指針として歩んでいきたいと思っています。



希望のバトン

今枝 有里子

1915 年、100 年前の方々は、100 年後をどのように夢描かれたのでしょうか。2015 年の今、これまでの 100 年の神様のお導きとお守り、そして 100 年の間に携わった方々の沢山の奉仕あってこそ「今」という歴史の重みに、ただただ感謝の気持ちでいっぱいです。

日本の教会はどこも若い世代が減少していると聞きます。しかし、この今の世の中だからこそ、何かを求めている人は沢山いるはずです。そんな方々で、新しく建てられるなごや希望教会がいっぱいになりますように…ワクワクな夢も抱きます。

先輩方が築かれた歴史のリレーのバトンを受け取り、未来の方々には、自分が今頂いている、今までと変わらない「希望」を持ってまたバトンを渡せるように、信仰者の一人として、今何ができるか

を考え、実践しつつ、祈りながら、次の 100 年につなげていきたいと思えます。

善きことへと

今枝 隆久

なごや希望教会が宣教 100 周年を迎えると知り、改めて歴史のある教会なのだなあと深く感銘を受けました。私はまだ洗礼を受けて 7 年あまりですが、100 年記念誌の編集作業で、諸先輩方が宣教のために多大の努力を重ねられ、今がある、ということを知りました。その歴史に連なることができたことを神様に感謝します。この 100 年の歴史を受け止めて、次の 100 年へと向かわなければなりません。

「すべてのものは、神から出て、神によって保たれ、神に向かっています」（ローマの信徒への手紙 11 章 36 節）。神様から出たものが、100 年の歴史を通して、今現在があります。若い世代が少なく、



これから教会はどうなっていくの
だろうか、という不安もあります
し、これから困難なこともたくさ
んあるでしょう。しかし、すべて
のものは善きことへと向かってい
ます。神様、どうかなごや希望教
会の次の 100 年を祝福して下さい。

み言葉を聞くこと

小澤 実紀

「実に、信仰は聞くことにより、
しかも、キリストの言葉を聞くこ
とによって始まるのです。」（ロ
ーマの信徒への手紙 10:17）

「フィンランド人の牧師さんに
フィンランドのクリスマスの歌を
教えてもらえるから行ってみな
い？」と、友達に誘われてなんと
なくついて行った所、そこが名古
屋教会（現在の今池礼拝所）でし
た。私は、思いがけず教会という
場所に行くことになり、そこで初
めてキリストの言葉を聞きました。
その時は、キリストの言葉を受け

入れられず、自分がキリストを信
じる者になるなんて想像もできま
せんでした。しかし、その「キリ
ストの言葉」は私を変えました。

「キリストの言葉を聞くことに
よって始まる」。それは、どんな
些細なきっかけであっても始まる
のです。キリストが始めてくださ
るからです。この世で教会が、キ
リストの言葉を聞ける場所であり
続けることを祈ります。



信仰の継承

小澤 周平

私と妻の実紀はなごや希望教会
に籍を置き、現在、神戸ルーテル
神学校の家族寮に住んでいます。
皆様からお祈りとお支えを受けな
がら、私は神学生として学び、実
紀は音楽伝道師として、特に次世
代伝道を中心に奉仕をさせていた
だいております。わたしたちが受



けている恵み、それは、この毎日です。キリストにつながる枝の一人として、沢山の信仰の先輩方に、そして、次世代を担う若者達に囲まれ、共に礼拝に与り、賛美し、祈り、慰めそして励まし合う毎日です。これからもキリストに集う家族が神様の平安のうちに共に恵み深い信仰生活を送ることができるように、適切に信仰を継承すること、それが私の召しです。それは、私の夢でもあります。「わたしにつながっていなさい。」(ヨハネ 15:4)とおっしゃるキリストを一人でも多くの方が知り、罪の赦しによる救いを信じ、恵みに満ちた生活を歩めるように、主に、そして主の家族に仕えていきたいです。

演歌に教えられ聖書に学ぶ

松原 雅夫

いい年をしてと、笑われるかもしれないが、写真仲間からカラオ

ケによく誘われる。もちろん若い人が歌うようなポップス系など歌えるわけが無いので、演歌になってしまうが、その時に歌うことがある。「もう、だめだと思ったときもあったし、不器用で無愛想な自分が、どうにかここまで生きてきた。喉の渇きを潤したいっぱいの水。世話になった人への恩返しはいつのことやら。人の子の親になり、女房を道連れにどうにかここまで生きてきたが、まだまだ、これからも何やらありそうだ」といった内容で、数年前の入院中にテレビのイヤホンから男性歌手が歌っているのを聴いて魅かれた歌である。信仰でも、仕事でも、数回の闘病生活でも、神に支え導かれ、多くの方々に助けられ、お世話になって、ここまで生きてきた自分の言葉を代弁してくれているような詞が印象に残った。

同時に、この歌詞が、パウロのフィリピの信徒への手紙(2章1～5節)の聖言葉と重なってわが身に迫ってくる。「あなたがたに幾



らかでも、キリストによる励まし、愛の慰め、霊による交わり、それに慈しみや憐れみの心があるなら、同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。何事も利己心や虚栄心からするのではなく、へりくだって、互いに相手を自分よりも優れたものと考え、めいめい自分のことだけでなく、他人のことにも注意を払いなさい。互いにこのことを心がけなさい」。パウロは、この言葉を通して、聖霊と信徒との交わりをとおして、神の愛、神の憐れみを知り、思いを一つにして、自己心からではなく、虚栄心も捨てて福音の真理に従い、「キリストを模範」にしろと教えている。

高校時代に友達から誘われたのがきっかけで、宣教師館に行くようになり、一年後に宣教師から受洗した。いらい64年。なごや希望教会今池礼拝所（当時は名古屋教会）に移ってからでも20数年がたった。その間、時には教えを忘れて走ることもあったし、転勤など

で礼拝に出席しないこともあった。しかし、50有余年、歩みを共にしてくれた女房とともに、子の親となつてここまで生きてこられたのも、神の愛と恵みがあつたからで、導いてくださった主に感謝を捧げるとともに、いろいろと支えてくださった方々にも改めて感謝したい。

なごや希望教会今池礼拝所が宣教百年を迎えたいま、第二世紀に向かって伝道、奉仕、教育など、神からゆだねられた教会員の務めは多い。私に与えられたこれからの務めは、残された日々を、いつ起きるかも分からない〈何か〉に備え、聖言葉をかみ締め、神の愛と信じる喜びを次代に繋いでいくことだろう。そのためには、パウロの教えにあるように、キリストを模範として、日々悔い改め、主に導かれ、祈りつつ、生きていきたいと願っている。それが神の恵みにあずかった者の恩返しになるのかも知れない。

（記念誌編集委員長松原雅夫は2012年5月15日天に召された。）

あとがき

100 周年記念誌編集委員長 末竹 十大

なごや希望教会の 100 周年記念誌発行を神に感謝する。神が苦難を引き受ける信仰を一人ひとりに与え給い、100 年の歩みを導いてくださった。三つの教会が一つになって、なごや希望教会として歩み始めた 2009 年に至るまでのそれぞれの歩みがこのときへと収斂していく過程は、神が一つの体を造り給う過程であった。そのために一つひとつの苦難は与えられたのだと改めて思う。そこにこそ「希望」が孕まれていたのだ。

編集委員長を引き受けてくださった松原雅夫兄の頭の中には、A5 版縦書きハードカバーの記念誌構想があった。松原兄は 2011 年には構想の形を我々に示した。彼が体調を崩して、委員長を川上勝兄に引き継いだとき、松原兄が構想したものを何とか形にしようと協議した。長年、中日新聞の記者として働いた松原兄がいない状態では、彼の構想のままでの発行は不可能であるとの結論に達した。そこで、彼の書き遺した文書を土台として、新たに構想を立て直すことになった。

歴史部分は、ほとんど松原兄のものを使った。記念誌委員会を立ち上げた当初、兄はこうわたしに尋ねた。「負の歴史も記すのか」と。「旧約聖書も負の歴史そのもの。人間の罪の歴史が神を証する。」とわたしは答えた。我々の歴史は、旧約聖書と同じように神に反抗する歴史である。しかし、その中に神の介入があって、救いへと導かれる。我々なごや希望教会の歴史も同じである。人間の思いが錯綜する中に、神の意志が現れ、神の意志がなっていく。この信仰を伝えるために、この記念誌は刊行された。

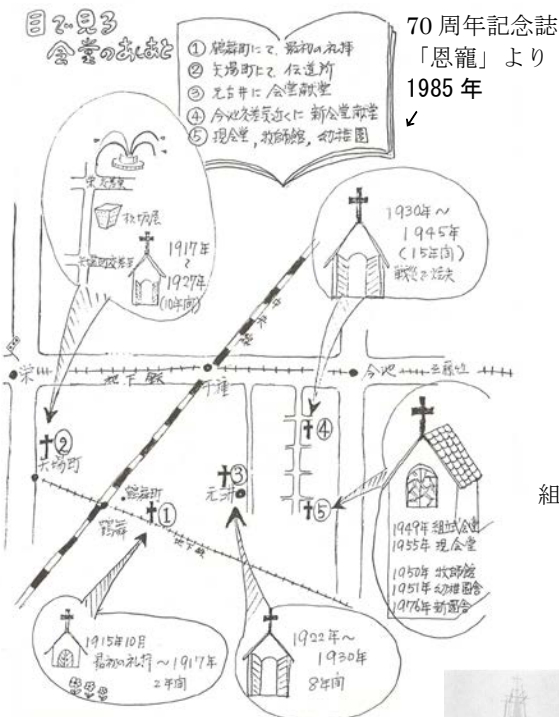
記念誌編集のために、力を貸してくださった編集委員。写真を提供し、寄稿文を寄せてくださった教会員。祈り支えてくださった教会員。それぞれのうちに生きて働き給うた神に感謝する。神の国に向かって歩み続ける我々一人ひとりの歩みがこれからも続いて行く、希望なる神によって。

2015 年 10 月 18 日 福音書記者ルカの日に

名古屋教会

鶴舞から今池へ

2-23
会堂のあゆみ



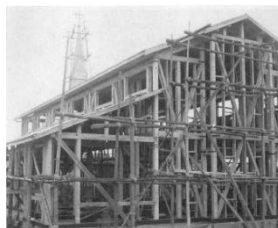
千種教会 献堂式 1930年



組立式会堂
1949年
→



1984年運動会風景
2001年に放火焼失した園舎



現会堂の骨格 1955年



現会堂聖壇 1955年



2002年再建された園舎 現在

難敵な敷地面にひっそり建つヴォーリスの教会
日本福音ルーテルなごや希望教会 Japan Evangelical Lutheran Nagoya Kibou Church

今池の飲食街裏通りにひっそり木造の教会堂が建っている。幼稚園に隣接し平屋に塔屋が載るシンプルな構成だが、これがヴォーリス建築事務所作品だと知る人は少ない。ウィリアム・メレル・ヴォーリスは、1902年アメリカから宣教を目的に来日。近江八幡を拠点に建築や教育、医療、出版などさまざまな活動を展開、伝道につとめた。主に関西圏で活躍し名作を多く残す。ルーテル教会はドイツの宗教改革者ルターに端を発するプロテスタントの一派だ。基本は3層式の教会堂だが、側面との境のフラッシュ引違い戸が構のように空間を開け切り、必要に応じて教室になる。身廊には木造のトラスが梁かり。入り口上部に設けられた中2階庫との引違い戸を開閉することで、大窓から室内への採光を創的に変えられる。また全体をラワン材で仕上げ、音響もよい。以前は正面入り口扉やその上部の大窓枠も木材だったが現在は変更されてしまった。人知れず、だが使用者に愛され続ける教会堂は、いかにヴォーリスの建築らしい。(RM)

▲教会堂外観。向かって左側は内部の私庫に併い増築された部分。また正面扉は当初木造の豪華なデザインだった。その上部の大窓も木枠で多方向に開き、豊かな表情をつくっていたという。塔屋は木造階段張り

©2013 1955年竣工 WM.ヴォーリス設計
名古屋市中区今池3-5-19 | 052-732-5545
www.ocn.ne.jp/~kibou

あいちトリエンナーレ実行委員会発行
「あいち建築ガイド」に掲載された現会堂 2013年



光が丘から富士見台へ

希望教会



光が丘会堂 起工式 1966 年



光が丘会堂 外観と内部 1967 年



富士見台の宣教師館 1966 年

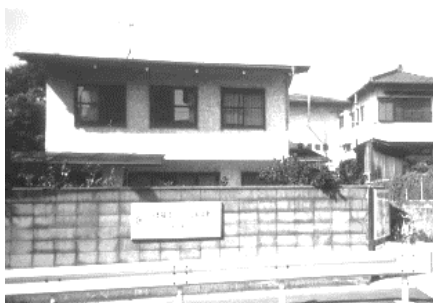
富士見台の
宣教師館が
集まり易く
富士見台に
会堂建設。



献堂された富士見台会堂 1980 年



ブロック塀
から
フェンスに
← 現在



ブロック塀の富士見台会堂 1980 年



現会堂聖壇 現在



40 周年記念で改修なった現会堂 2007 年



スティンバーク牧師夫妻



サンプラザでの最初の礼拝 1980 年



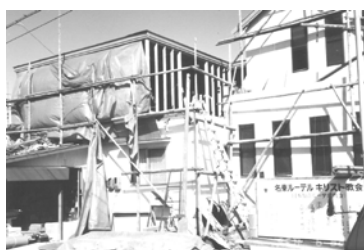
宣教師館での礼拝 1980 年



最初の受洗者 1980 年



現会堂起工式 1987 年



建築中の現会堂 1988 年



多治見修道院でのバイブルキャンプ 1988 年



メイソン牧師と英語礼拝 2002 年



東海教区 宣教 50 周年信徒大会 2000 年



フレドリクソン牧師家族 2010 年



正式になごや希望教会として歩み始めた 2009 年

なごや希望教会



佐々木牧師と菰野集会 2010 年



フレドリクソン牧師一家送別会 2010 年 6 月 27 日



自由ヶ丘礼拝所にて 一日修養会 2011 年



自由ヶ丘礼拝所
牧師一人体制で（一日修養会） 2011 年



はこぶねキャンプ
ノリタケの森にて
2014 年



復活祭礼拝後に 2015 年

名古屋教会						希望教会				名東教会			
西暦	元号	宣教	牧師	宣教師	特記事項(含・ルーテル幼稚園)	宣教	牧師	宣教師	特記事項	宣教	牧師	宣教師	特記事項
1915	T 4	1	値賀虎之助	E・T・ホールン	10月30日・昭和区鶴舞町の宣教師館で伝道開始／11月から中区松枝町の家屋を集会所に								
1916	T 5	2	↓	↓									
1917	T 6	3	↓	↓									
1918	T 7	4	↓ 高島 貞久	S・O・トラクソン	中区矢場町に伝道所を移して伝道								
1919	T 8	5	↓	↓									
1920	T 9	6	↓	↓									
1921	T 10	7	↓	↓									
1922	T 11	8	↓	A・クヌーテン	千種区元古井町に集会所を設けて伝道								
1923	T 12	9	↓	↓									
1924	T 13	10	↓ 武藤 醇	↓									
1925	T 14	11	↓	↓									
1926	T 15 S 1	12	↓	↓	9月・元古井町に幼稚会設立(月謝20銭)／名称は「千種ルーテル幼稚会」とする 千種区今池町の池西側の借地(元古井町)に会堂を建設								
1927	S 2	13	↓ 平井 清		矢場町の伝道所を元古井町の会堂に合併し、4月・教会献堂式／ クヌーテン宣教師休暇帰米								
1928	S 3	14	↓	A・クヌーテン	(東区に大曽根講義所を設置、高瀬義正伝道師が着任)								
1929	S 4	15	↓	↓									
1930	S 5	16	↓	↓	9月・現在地北100mに幼稚園舎完成／名称を「千種ルーテル幼稚園」と改称 9月1日付・幼稚園園則を制定								
1931	S 6	17	↓ 吉田 康登	↓	10月・幼稚園に愛知県知事(文部省)から認可が下りる (大曽根講義所に青山四郎牧師が就任)								
1932	S 7	18	↓	↓	幼稚園教諭2人給料月76円／身体検査34人・医師15円								
1933	S 8	19	↓	↓									
1934	S 9	20	↓	↓									
1935	S 10	21	↓	↓	幼稚園が月1、2、回の給食開始／天然痘流行・種痘／町名変更								
1936	S 11	22	↓		クヌーテン師夫妻が帰米								
1937	S 12	23	↓		16mm移動写真機・うがい器設置								
1938	S 13	24	↓ 東 菊次	A・クヌーテン	5月・国民精神総動員達成実施／クヌーテン師夫妻再来日								
1939	S 14	25	↓	↓	幼稚園が月1回の給食に／台所改修								
1940	S 15	26	↓	↓	幼稚園の名称を「今池幼稚園」に変更								
1941	S 16	27	↓ 大内 弘助		幼稚園園庭に洗面・水飲み場新設／クヌーテン師夫妻が帰米								

名古屋教会						希望教会				名東教会			
西暦	元号	宣教	牧師	宣教師	特記事項(含・ルーテル幼稚園)	宣教	牧師	宣教師	特記事項	宣教	牧師	宣教師	特記事項
1942	S 17	28	大内 弘助										
1943	S 18	29	↓		戦時下保育体制に								
1944	S 19	30	↓										
1945	S 20	31	↓		5月18日・空襲で教会堂(73平方メートル)・幼稚園舎(99平方メートル)・留守番屋(13平方メートル)が焼失								
1946	S 21	32	↓		幼稚園休園								
1947	S 22	33	↓		幼稚園休園／千種区若竹町の牧師館で礼拝再開								
1948	S 23	34	↓		幼稚園休園								
1949	S 24	35	↓ 俵 貢	H・ティール (名古屋地方)	3月・組み立て式教会献堂式(収容人員約50人)／6月・教会の仮会堂で幼稚園再開								
1950	S 25	36	↓	↓	8月・牧師館完成(987,000円)								
1951	S 26	37	↓ 江口 武憲	↓	8月・幼稚園舎を建設(1,913,862円)/名称を「ルーテル幼稚園」に変更								
1952	S 27	38	↓	↓	幼稚園舎が完成								
1953	S 28	39	↓	↓	(戦災で焼失した大曽根講義所が復活教会として伝道を再開し献堂式)								
1954	S 29	40	↓ 白髭市十郎	↓									
1955	S 30	41	↓	↓	現教会堂が完成し(4,000,000円)献堂式								
1956	S 31	42	↓	↓	幼稚園児激減								
1957	S 32	43	白髭市十郎	↓									
1958	S 33	44	↓ 折田 良三	↓	幼稚園の制服制定								
1959	S 34	45	↓		教会が第一種自給教会となる								
1960	S 35	46	↓ 中尾 忠雄		教会堂などの伊勢湾台風被害を修理と増築／聾啞者伝道を始める								
1961	S 36	47	↓		3月・幼稚園がピアノを購入しピアノ開き音楽会開催／ルーテル・アワーの名古屋事務所が復活教会に設けられ、G.キルバート宣教師が主事に								
1962	S 37	48	↓		7月・園庭にプールを建設(156,795円)								
1963	S 38	49	↓		幼稚園舎を増築(553,272円)／一宮伝道を開始(ルーテル・アワーのフォローアップ活動)				エリック・ピーダーセン宣教師派遣 千種区富士見台の宣教師館で宣教準備				
1964	S 39	50	↓		日本福音ルーテル教会と東海福音ルーテル教会が合同し東海教区所属になる			E・ピーダーセン	エリック・ピーダーセン宣教師着任				
1965	S 40	51	↓		10月・教会伝道開始50周年で記念式典を開催／教会50年史発行、さくらを記念植樹	1		↓	9月12日宣教師館で最初の聖日礼拝				
1966	S 41	52	↓		3月・尾高キンダーハイム合宿	2		↓					
1967	S 42	53	↓	E・タフ		3		↓ F・ルティオ	光が丘に教会堂を建築。3月献堂式。フィリップ・ルティオ宣教師着任。江島充子伝道師着任。陪餐会員6名。				
1968	S 43	54	↓	↓	子供の家建設 幼稚園母の会夏期学校(雀のお宿)	4		↓	北里伝道師着任。 第3回定期総会において、第3種教会に承認される。				
1969	S 44	55	↓	↓		5		↓	陪餐会員15名。CS20名。				

名古屋教会						希望教会				名東教会			
西暦	元号	宣教	牧師	宣教師	特記事項(含・ルーテル幼稚園)	宣教	牧師	宣教師	特記事項	宣教	牧師	宣教師	特記事項
1970	S 45	56	中尾 忠雄	E・タフ		6		F・ルディオ M・モルク	マーカス・モルク宣教師着任。6周年記念誌発行。				
1971	S 46	57	↓	↓		7		↓	北里伝道師離任。				
1972	S 47	58	↓	↓		8		↓ T・スティンバーグ K・ギルバートソン	トーマス・スティンバーグ宣教師着任。 ケツレン・ギルバートソン宣教師着任。				
1973	S 48	59	↓	↓		9		A・ミッチェル	アンナ・マリア・ミッチェル宣教師着任。				
1974	S 49	60	↓	↓	幼稚園が保育形態を自由保育に切り替え縦割保育開始/南園舎増築	10	川口 誠	↓	6月より川口誠牧師(柴田教会)が兼牧。				
1975	S 50	61	↓	↓		11	↓	↓	7月、富士見台への移転を決める。				
1976	S 51	62	宝珠山幸郎	↓	幼稚園の新園舎を建設 ボーイスカウト、ガールスカウト発団	12	↓	↓	8月1日、富士見台において最初の主日礼拝を守る。陪餐会員16名。				
1977	S 52	63	↓ 伊藤 文雄	↓		13	↓	↓					
1978	S 53	64	↓	↓	3月・幼稚園職員就業規則制定/幼稚園が新プールを建設 6月・教会でキンダーサンデー開始(以後毎年テーマを決めて開催)	14	↓	↓					日本福音ルーテル教会東海教区は、「名古屋東部開拓伝道」調査を開始。名古屋市名東区、尾張旭市、瀬戸市、長久手町、東郷町を調査。
1979	S 54	65	↓	↓ D・ルメ		15	↓	↓					
1980	S 55	66	↓ 明比輝代彦	↓	幼稚園定員を120人に申請	16	↓	↓	新会堂建築。ミッチェル宣教師は、英会話教室謝礼金から500万円を献げた。残りは、会員一人約20万円の貸し付けを資金とした。 9月14日、献堂式。出席者115名。献金84,527円、献堂祝い金171,000円。 現住陪餐会員22名。主日礼拝出席17名。16周年記念誌発行。	1		T・スティンバーグ	3月、東海教区総会において、「名古屋東部開拓伝道計画」が決議され、T・スティンバーグ宣教師が専任牧師となる。 4月18日、「サンブラザ」(名東区)でタ礼拝を行う。 その後、宣教師館(名東区高柳町708)でタ礼拝。
1981	S 56	67	↓	↓	教会台所を増築/江南幼稚園で月2回、明比牧師が奉仕	17	↓ 早川 顕一	↓	早川顕一牧師着任。第2種教会となる。 6月、ミッチェル宣教師離任。	2		↓	4月19日、イースター。宣教師館での初めての朝礼拝。その後も同所で朝・夕の主日礼拝。 新会堂建設のための土地を探す。
1982	S 57	68	↓	↓	教会で愛知牧場復活苑に納骨堂に3室購入/会堂北側集会室を増改築 スカウト発団5周年記念式	18	↓		ミッチェル宣教師感謝号発行	3		↓	
1983	S 58	69	↓	↓	8月・2、3歳児の集い開始(毎月第1土曜日に教会員奉仕)/ぶどうの会発足 スカウトハウスを新築	19	↓			4		↓	
1984	S 59	70	↓	↓	幼稚園の学校法人化を本教会に申請したが、本教会は申請を却下/教会堂の屋根を修理	20	↓			5		↓	
1985	S 60	71	↓	↓	11月2日・幼稚園開園60周年記念式と感謝の集いを愛知会館で開催/会堂の外壁を塗装/ 10月27日・伝道70周年感謝礼拝	21	↓			6		↓	
1986	S 61	72	↓	↓		22	↓		10月から翌年3月まで、早川牧師スイス留学。代行に、戸田裕牧師。	7		↓	第3種教会となり、「日本福音ルーテル名東教会」と称する。
1987	S 62	73	↓	↓	9月13日・スカウト発団10周年記念礼拝	23	↓			8		↓	6月、本教会常議員会決議として、名東教会建設委員の任命。明比輝代彦牧師(長)、T・スティンバーグ牧師、G・ポーランド牧師、牛丸祐三兄、安藤博兄。 8月、宣教師館を増改築して、教会堂を建てる計画とする。 日本ルーテル社団が、日本福音ルーテル教会に現在地を有償譲渡。12月6日、起工式。完成予定は1988年5月。
1988	S 63	74	↓ 重野 信之	↓	教会が駐車場管理組合を組織し本教会と契約/12月26日・教会堂改修工事に着工	24	↓		教区総会で第1種教会になりうる教会として位置づけられる。	9		↓	5月22日、献堂式。既設部分149.058㎡、新築部分182.983㎡。建築費3,300万円。

名古屋教会						希望教会				名東教会			
西暦	元号	宣教	牧師	宣教師	特記事項(含・ルーテル幼稚園)	宣教	牧師	宣教師	特記事項	宣教	牧師	宣教師	特記事項
1989	H 1	75	重野 信之	↓	1月29日・教会堂改修工事が終わる／12月3日・新式文による礼拝が始まる	25	早川 顕一		1990年に1種自給を目指す。	10		T・スティンバーグ	
1990	H 2	76	↓	↓	運動場(園庭)を改修	26	↓			11		↓	
1991	H 3	77	↓	↓		27	↓ 内藤 新吾		4月、内藤新吾牧師着任。	12		↓	
1992	H 4	78	↓	↓	名古屋市が幼稚園に3歳児の採用開始	28	↓		第1種教会となる。現住陪餐会員43名。 25周年記念誌発行。	13		↓	
1993	H 5	79	↓		幼稚園舎を改修／熊本で日本福音ルーテル教会宣教100年記念全国大会開かれる	29	↓			14		↓	
1994	H 6	80	↓	P・フフティン		30	↓		礼拝堂の椅子を製作。 30周年記念誌発行。	15		↓	第2種教会となる。 英語タ礼拝始まる。
1995	H 7	81	↓ 鈴木 浩	↓	12月3日・教会宣教80周年	31	↓			16		↓	
1996	H 8	82	↓	↓	1月1日付・幼稚園職員給与規定制定／教会事務長を設ける(週3回で時間給1,000円)	32	↓			17		↓	
1997	H 9	83	↓			33	↓ 中村 朝美		4月、中村朝美牧師着任。	18		↓	
1998	H 10	84	↓ T・スティンバーグ	↓ カリヤライン	東海教区で複数共同牧会の動きが活発化	34	↓		3教会による複数共同牧会に向けての協議が休止となり、復活教会との合同が協議されることとなった。	19		↓	
1999	H 11	85	↓ 落合 成光	↓	幼稚園の定員を105人に変更	35	↓		ブロック塀老朽化のため、フェンスを設置。 2001年の合同に向けて、復活教会との協議が続けられる。	20		↓	
2000	H 12	86	↓			36	↓		複数共同牧会のための名古屋市内6教会協議会が3回行われたが、中断となる。 第25回2教会役員協議会をもって、復活教会との組織合同は破棄される。 教区の宣教方策が明確になるまで、個々の教会で待機とする。	21		↓	東海教区宣教50周年記念信徒大会が、金城学院大学ランドルフ講堂で開かれ、食事などの奉仕を担当。
2001	H 13	87	↓		4月6日未明・幼稚園舎が連続不審火で全焼／教会堂隣接ホールや会堂を使って保育続行／9月16日・イサオササキ&篠崎正嗣デュオ、12月15日・亀渕友香ゴスペルコンサート開催	37	↓		5教会協議が再開。	22		↓ T・メイソン	8月19日、トーマス・スティンバーグ牧師離任。米国へ帰国。 ティモシー・メイソン宣教師着任。前任地は掛川・菊川教会。
2002	H 14	88	↓		3月9日・幼稚園の新園舎が完成し竣工礼拝／3月30日・グッチ裕三コンサート／6月・新園舎や牧師館で放火騒ぎ／千種警察署が巡回強化し、男性会員が連日交代で宿泊警戒／11月29日・一連の放火事件に決着／12月21日付で本教会が地元新聞にお詫び掲載	38	↓ 落合 成光		4月、名古屋教会 落合成光牧師の兼牧となる。 全国総会において、新宣教方策PM21採択。	23		↓	全国総会において、新宣教方策PM21採択。
2003	H 15	89	明比輝代彦 小泉 潤		教会が希望教会、名東教会、復活教会との名古屋地区4教会合同について話し合いを続行／7月、小泉潤牧師着任。毎月1～2回信徒による礼拝を実施	39	内藤 新吾		1月から、内藤新吾牧師が主管牧師として、着任。 牧師不在のため、教団引退牧師の松田先生、志村先生、金城学院の原先生、後藤田先生、名古屋学院の大藪先生に協力いただく。	24		↓	
2004	H 16	90	↓		名古屋地区教会の合同は希望教会、名東教会の3教会でまとまる／教会総会に幼稚園の学校法人化で愛知ルーテル学院(挙母幼稚園の母体)への合同を提案し検討へ	40	↓ 明比輝代彦		4月、明比輝代彦牧師着任。復活教会との兼牧。	25		↓ 小泉潤(兼)	10月10日、メイソン牧師離任。ハワイのCalvary by the Sea Lutheran Churchへ。10月17日、小泉潤牧師着任。名古屋教会との兼牧。
2005	H 17	91	↓ 末竹 十大 竹田 孝一		牧師二人が就任／幼稚園が開園80周年記念礼拝と記念会を行う／10月23日・教会宣教90周年記念礼拝を挙行、記念パーティーと賛美コンサートのほか、鈴木浩牧師のマルコ福音書研究「ガリラヤに行け」を新教出版社から記念出版／教会機関紙「からし種」を休刊へ／幼稚園の学法化検討を教会合同が決まるまで中断へ	41	↓ 末竹 十大 竹田 孝一		4月、末竹十大牧師、竹田孝一牧師着任。	26	↓ 末竹 十大 竹田 孝一		4月、末竹十大牧師(主任)、竹田孝一牧師着任。

名古屋教会						希望教会				名東教会			
西暦	元号	宣教	牧師	宣教師	特記事項(含・ルーテル幼稚園)	宣教	牧師	宣教師	特記事項	宣教	牧師	宣教師	特記事項
2006	H 18	92	末竹 十大 竹田 孝一	C・フレドリクソン	12月・名古屋教会、希望教会、名東教会の3教会組織合同を合意し準備会を開催	42	末竹 十大 竹田 孝一	C・フレドリクソン		27	末竹 十大 竹田 孝一	C・フレドリクソン	9月1日、チャールズ・フレドリクソン宣教師着任。主として英語礼拝担当。 9月中旬から11月初旬にかけて、外壁、屋根、配管などの補修工事。
2007	H 19	93	↓ ↓	↓	2月4日・教会総会で希望教会、名東教会との合同を決議 4月1日、名東教会、希望教会、名古屋教会が合同。6月3日の臨時総会で「なごや希望教会」と名称決定。 4月1日付・幼稚園園則、職員就業規定、給与規定、出張旅費規定を全面改定	43	↓ ↓	↓	2月4日・教会総会で名古屋教会、名東教会との合同を決議 4月1日、名古屋教会、名東教会、希望教会が合同。6月3日の臨時総会で「なごや希望教会」と名称決定。 9月2日、宣教40周年記念礼拝。40周年記念誌発行。希望館外壁、駐車場を改築。	28	↓ ↓	↓	2月4日総会で3教会合同決議／3月25日、名東教会最後の主日礼拝。4月以降、教会員は自由ヶ丘礼拝所、今池礼拝所のどちらかの主日礼拝に出席。第2、第4金曜日に週日礼拝を始め 4月1日、希望教会、名古屋教会、名東教会が合同。6月3日の臨時総会で「なごや希望教会」と名称決定。
2008	H 20	94	↓ ↓	↓	2月、総会において、各礼拝所の名称を決定。／幼稚園運営委員会改組(希望、名東役員入れ) 5月・名古屋教会、希望教会、名東教会の3教会合同を本教会総会で承認	44	↓ ↓	↓	2月、総会において、各礼拝所の名称を決定。／幼稚園運営委員会に希望代議員入る。 全国総会において、3教会合同が承認された。	29	↓ ↓	↓	2月、総会において、各礼拝所の名称を決定。／幼稚園運営委員会に名東代議員入る。 全国総会において、3教会合同が承認された。
なごや希望教会・今池礼拝所						なごや希望教会・自由ヶ丘礼拝所				なごや希望教会・名東礼拝所			
2009	H 21	95	↓ ↓ ↓ 佐々木赫子	↓	希望教会、名東教会と正式に合同し「なごや希望教会」と名称を変更、名古屋教会は「今池礼拝所」となる。 竹田孝一牧師は大森教会へ転任。広島教会より佐々木赫子牧師が着任。 幼稚園の学校法人化で愛知県の説明聞く／教会機関紙を「愛」と名付け年4回発行を決める	45	↓ ↓ ↓ 佐々木赫子	↓	名古屋教会、名東教会と正式に合同し「なごや希望教会」と名称を変更、希望教会は「自由ヶ丘礼拝所」となる。 竹田孝一牧師は大森教会へ転任。広島教会より佐々木赫子牧師が着任。自由ヶ丘に居住。	30	↓ ↓ ↓ 佐々木赫子	↓	名古屋教会、希望教会と正式に合同し「なごや希望教会」と名称を変更、名東教会は「名東礼拝所」となる。 竹田孝一牧師は大森教会へ転任。広島教会より佐々木赫子牧師が着任。
2010	H 22	96	↓ ↓	↓	幼稚園の学校法人化で愛知県と本教会の方針が合わず学法化計画を凍結／宗教法人法による「宗教法人なごや希望教会規則」改正を愛知県の認可を受け法務局に提出 6月27日、チャールズ・フレドリクソン牧師は4年の任期を終え、離任。7月3日、米国へ帰国。 11月・政府が幼保一体化＝こども園＝への移行方針を提示	46	↓ ↓	↓	6月27日、チャールズ・フレドリクソン牧師は4年の任期を終え、離任。7月3日、米国へ帰国。	31	↓ ↓	↓ L・シェパード	6月27日、チャールズ・フレドリクソン牧師は4年の任期を終え、離任。7月3日、米国へ帰国。 パストラル・リーダーとして、ロウエル・シェパード牧師が国際礼拝を担当。
2011	H 23	97	↓ ↓ ↓		佐々木赫子牧師宇部に転任／末竹牧師一人体制へ／震災支援活発に 7月・政府が幼保一体化＝こども園＝の完全実施を断念し幼稚園の存続を認める(保育園は一定期間後に一体化施設へ移行)政府は2013年度に子ども・子育て新システム導入を目指す)	47	↓ ↓ ↓		3月31日、佐々木赫子牧師は宇部教会へ転任。 4月1日より、末竹十大牧師が主任牧師として、自由ヶ丘礼拝所に居住／女性会パッチワークで震災支援	32	↓ ↓ ↓	↓	3月31日、佐々木赫子牧師は宇部教会へ転任。 4月1日より、なごや希望教会は末竹十大牧師一人の体制となり、宣教・運営にあたる。
2012	H 24	98	↓		教会総会において、100周年実行委員会組織。	48	↓		教会総会において、100周年実行委員会組織。	33	↓	↓	教会総会において、100周年実行委員会組織。
2013	H 25	99	↓		総会において、今池礼拝所に一本化する案を末竹牧師が提案。 6月2日臨時総会において今池に一本化を決議。 10月1日より、国際礼拝が今池礼拝所に移動。名称をAll Saints International Churchと改称。	49	↓		総会において、今池礼拝所に一本化する案を末竹牧師が提案。 6月2日臨時総会において今池に一本化を決議。	34	↓	←	総会において、今池礼拝所に一本化する案を末竹牧師が提案。 6月2日臨時総会において今池に一本化を決議。 10月1日より、国際礼拝は今池礼拝所に礼拝を守ることになった。
2014	H 26	100	↓	↓	女性会一本化。 学校法人愛知ルーテル学院への編入が認められ、名称を「名古屋ルーテル幼稚園」と改める。	50	↓		女性会一本化。	35	↓		女性会一本化。
2015	H 27	101	↓	J・ヴァンファロー	宣教100周年／今池100周年／幼稚園90周年壮年会(今池)とインマヌエル会(自由ヶ丘)が一本化して、新インマヌエル会となる。 9月より、ASICパストラル・リーダーとして、ジョン・ヴァンファロー牧師を招聘。	51	↓		宣教100周年／自由ヶ丘50周年壮年会(今池)とインマヌエル会(自由ヶ丘)が一本化して、新インマヌエル会となる。	36	↓		宣教100周年／名東35周年壮年会(今池)とインマヌエル会(自由ヶ丘)が一本化して、新インマヌエル会となる。 週日礼拝を継続。

ルーテル幼稚園 創立 90 年 史

西暦	元号	回生	牧 師	宣教師	幼稚園長	特記事項(含・教会今池礼拝所)	園児数	卒園児数	職員名(順不同)
1915	T 4		値賀虎之助	E・T・ホール		10月30日・鶴舞町の宣教師館で伝道開始 11月から松枝町の家屋を集会所に			
1916	T 5		↓						
1917	T 6		↓						
1918	T 7		↓ 高島 貞久	S.O.トラカシ		矢場町に伝道所を移して伝道			
1919	T 8		↓	↓					
1920	T 9		↓	↓					
1921	T 10		↓	↓					
1922	T 11		↓	A・クスーデン		元古井町に集会所を設けて伝道			
1923	T 12		↓	↓					
1924	T 13		↓ 武藤 醇	↓					
1925	T 14		↓	↓					
1926	T 15		↓	↓	R・クスーデン	9月・元古井町に幼稚園設立(月謝20銭)ノ名称は「千種ルーテル幼稚園」とする 今池の池西側の借地(元古井町)に会堂を建設 矢場町の伝道所を元古井町の会堂に合併し、4月・教会献堂式	13		松岡操、森本繁子、山田せよ
1927	S 2		↓ 平井 清			クスーデン宣教師休暇帰米 大宮根講義所(現復活教会の前身)を設置			松岡操、森本繁子
1928	S 3		↓	A・クスーデン	R・クスーデン				松岡操、森本繁子
1929	S 4		↓	↓	↓				松岡操、森本繁子
1930	S 5	1	↓	↓	↓	9月・現在地北100mに幼稚園舎完成/名称を「千種ルーテル幼稚園」と改称 9月1日付・幼稚園園則を制定		21	松岡操、森本繁子、長留幸子
1931	S 6	2	↓ 吉田 康登	↓	↓	10月・愛知県知事(文部省)から認可が下りる 教諭2人給料月76円/身体検査34人・医師15円		22	松岡操、森本繁子
1932	S 7	3	↓	↓	↓			13	永田 、久保田 、長留幸子
1933	S 8	4	↓	↓	↓			20	永田

ルーテル幼稚園 90年史

西暦	元号	回生	牧 師	宣教師	幼稚園長	特記事項(含・教会今池礼拝所)	園児数	卒園児数	職員名(順不同)
1934	S 9	5	吉田 康登	A・クスーテン	R・クスーテン			37	
1935	S 10	6	↓	↓	S.O.トウラカン	幼稚園が月1, 2回の給食開／天然痘流行・種痘／町名変更		26	
1936	S 11	7	↓		↓	クスーテン師婦米		35	
1937	S 12	8	↓		↓	16mm移動写真機・うがい器設置		30	永田
1938	S 13	9	↓ 東 菊次	A・クスーテン	R・クスーテン	5月国民精神総動員達成実施／クスーテン師再来日		41	上田
1939	S 14	10	↓	↓	↓	幼稚園が月1回の給食／台所改修		33	
1940	S 15	11	↓	↓	C.K.リハート	幼稚園の名称を「今池幼稚園」に変更		32	米田 、伊藤
1941	S 16	12	↓ 大内 弘助		↓ 大内 弘助	幼稚園園庭に洗面・水飲み場新設／クスーテン夫妻帰米	57	39	長留文子、大内あい、市田
1942	S 17	13	↓		↓			36	長留文子、大内あい、佐藤操
1943	S 18	14	↓		↓	戦時下保育体制に			長留文子、大内あい
1944	S 19	15	↓		↓				長留文子、大内あい、井上初代、岩間
1945	S 20	休園	↓		↓	5月18日・太平洋戦争の空襲で教会堂・幼稚園舎・留守番屋が焼失	77		長留文子、大内あい、井上初代、岩間
1946	S 21	休園	↓			幼稚園休園			
1947	S 22	休園	↓			幼稚園休園／千種区若竹町の牧師館で礼拝再開			
1948	S 23	休園	↓			幼稚園休園			
1949	S 24	16	↓ 儀 責	H・デイル	儀 責	3月・組み立て式教会献堂式／6月・教会の仮会堂で幼稚園再開	57	32	長留文子、太田操、俵松枝
1950	S 25	17	↓	↓	↓	8月・牧師館が完成		41	長留文子、太田操、俵松枝、青柳富貴
1951	S 26	18	↓ 江口 武憲	↓	↓ 江口 武憲	8月・幼稚園舎を建設(1,913,862円)／名称を「ルーテル幼稚園」に変更		46	青柳富貴、太田操、江口市子
1952	S 27	19	↓	↓	↓	幼稚園舎が完成		52	高木妙之、太田操、江口市子
1953	S 28	20	↓	↓	↓		77	58	高木妙之、岸名きよか、江口市子、小早川曜子
1954	S 29	21	↓ 白髭市十郎	↓	↓ 白髭市十郎		89	56	高木妙之、岸名きよか、江口市子、後藤生子、米倉よし乃
1955	S 30	22	↓	↓	↓	現教会堂献堂式(4,000,000円)	75	53	高木妙之、岸名きよか、永久保京子、後藤生子、米倉よし乃、西山慶子

ルーテル幼稚園 90年史

西暦	元号	回生	牧 師	宣教師	幼稚園長	特記事項(含・教会今池礼拝所)	園児数	卒園児数	職員名(順不同)
1956	S 31	23	白髭市十郎	H・デール	白髭市十郎	幼稚園児が激減	56	37	高木妙之、西山慶子
1957	S 32	24	↓	↓	↓		47	25	中野廣子、北里歌子
1958	S 33	25	↓	↓	↓	幼稚園の制服制定		23	中野廣子、河合フサ子、山本翠
1959	S 34	26	↓	↓	↓	教会が第一種自給教会となる ハトの遊具設置		40	中野廣子、河合フサ子、植田恵子
1960	S 35	27	折田 良三 中尾 忠雄		折田 良三 中尾 忠雄	伊勢湾台風修理と増築	60	37	中野廣子、岩田節子、植田恵子、中尾ゆきみ
1961	S 36	28	↓	↓	↓	3月・ピアノを購入しピアノ開き音楽会開催	66	26	中野廣子、小林淑乃、加藤久代、中尾ゆきみ
1962	S 37	29	↓	↓	↓	7月・プール建設(156,795円)	80	38	中野廣子、小口和泉、矢野恵子、和久綾子、中尾ゆきみ
1963	S 38	30	↓	↓	↓	園舎を増築(553,272円)	96	46	中野廣子、小口和泉、矢野恵子、堀越桂子、鷹野真知 小島広子、中尾ゆきみ
1964	S 39	31	↓	↓	↓	日本福音ルーテル教会と東海福音ルーテル教会が合同し、教会は東 海教区の所属になる	97	39	中野廣子、小口和泉、安部嘉子、鷹野真知子、前田、 中尾ゆきみ
1965	S 40	32	↓	E・タフ	↓		91	44	中野廣子、本庄巳生子、安部嘉子、鷹野真知子、 矢野愛子、中尾ゆきみ
1966	S 41	33	↓	↓	↓	3月・尾高キンダーハイム合宿	92	28	中野廣子、上田淑子、安部嘉子、矢野愛子、中尾ゆきみ
1967	S 42	34	↓	↓	↓		105	49	中野廣子、上田淑子、猿渡里美、矢野愛子、 浅野あい子、紅村葵、中尾ゆきみ
1968	S 43	35	↓	↓	↓	子供の家建設／幼稚園母の会夏期学校(雀のお宿)	96	33	中野廣子、上田淑子、石山聴子、矢野愛子、浅野あい子
1969	S 44	36	↓	↓	↓		88	36	中野廣子、上田淑子、新里栄子、原田美智子
1970	S 45	37	↓	↓	↓		67	24	中野廣子、上田淑子、川島敏子、原田美智子
1971	S 46	38	↓	↓	↓		65	35	中野廣子、杉浦由美子、高岡加代
1972	S 47	39	↓	↓	↓		74	18	中野廣子、杉浦由美子、高岡加代、柴田光子
1973	S 48	40	↓	↓	↓	9月・第1回愛知県私立幼稚園教員海外研修に中野廣子教諭が参加	97	45	中野廣子、杉浦由美子、高岡加代、白石晴美
1974	S 49	41	↓	↓	↓	幼稚園が保育形態を自由保育に切り替え縦割保育開始/南園舎増築 (2,418,694円)	85	29	中野廣子、杉浦由美子、白石晴美
1975	S 50	42	↓	↓	↓	中野廣子教諭が園長代理に	103	43	中野廣子、杉浦由美子、白石晴美、高橋いつみ
1976	S 51	43	宝珠山幸郎	↓	宝珠山幸郎	幼稚園新園舎建設/ボートイスカウト、ガールスカウト発団	110	36	中野廣子、山口茂子、白石晴美、坪井早苗、沢田清美、 村松千里
1977	S 52	44	伊藤 文雄	↓	伊藤 文雄		108	37	中野廣子、山口茂子、近藤三枝子、坪井早苗、 江口幸子

ルーテル幼稚園 90年史

西暦	元号	回生	牧 師	宣教師	幼稚園長	特記事項(含・教会今池礼拝所)	園児数	卒園児数	職員名(順不同)
1978	S 53	45	伊藤 文雄	E・タ	伊藤 文雄	3月・幼稚園職員就業規則制定／クラス名をこひつじ、こばと、ぶどう、むぎ組に変更／ 6月・キンダーサンデー開始(以後毎年テーマを決めて開催)	99	44	中野廣子、山口茂子、近藤三枝子、坪井早苗、 深谷牧子、事務・松原陽子
1979	S 54	46	↓	↓ D・ルメ	↓		99	39	中野廣子、伊東敦子、近藤三枝子、坪井早苗、 吉田美穂、事務・松原陽子
1980	S 55	47	↓ 明比輝代彦	↓	↓ 中野 廣子	幼稚園定員を120人に申請	75	27	中野廣子、伊東敦子、吉田美穂、事務・松原陽子
1981	S 56	48	↓	↓	↓	教会台所を増築／江南幼稚園で明比牧師が月2回奉仕	58	29	門松あき、長瀬千佳、事務・松原陽子
1982	S 57	49	↓	↓	↓	教会で愛知牧場復活苑に納骨堂3室購入／会堂北側集會室を増築 スカウト発団5周年記念式	63	19	門松あき、長瀬千佳、戸木幹枝、大野純子、 事務・松原陽子
1983	S 58	50	↓	↓	↓	8月・2、3歳児の集い開始(毎月第1土曜日に教會員奉仕)／ぶどうの 会発足 スカウトハウスを新築	69	19	門松あき、長瀬千佳、山内雅子、大野純子、 事務・松原陽子
1984	S 59	51	↓	↓	↓	幼稚園の学校法人化を本教会に申請したが、本教会は申請を却下	78	31	門松あき、臼田智子、山内雅子、大野純子、服部典子、 事務・松原陽子
1985	S 60	52	↓	↓	↓	11月2日・幼稚園開園60周年記念式と感謝の集いを愛知会館で開催 10月27日・教会が伝道70周年の感謝礼拝	79	27	酒井ゆかり、臼田智子、服部典子、事務・嶋昭江
1986	S 61	52	↓	↓	↓		85		酒井ゆかり、臼田智子、服部典子、井川 、 事務・嶋昭江
1987	S 62	54	↓	↓	↓		71		酒井ゆかり、臼田智子、服部典子、井川
1988	S 63	55	↓ 重野 信之	↓	↓		79	24	酒井ゆかり、臼田智子、服部典子、井川
1989	H 1	56	↓	↓	重野 了子		70	25	
1990	H 2	57	↓	↓	↓	運動場(園庭)を改修	67	31	
1991	H 3	58	↓	↓	↓			12	
1992	H 4	59	↓	↓	↓	名古屋市が幼稚園3歳児採用開始	57	23	富田佐和子、関恵子、家田和子、事務・重野了子(兼)
1993	H 5	60	↓	↓	↓	幼稚園舎を改修	35	18	富田佐和子、関恵子、家田和子、事務・重野了子(兼)
1994	H 6	61	↓	P・フワティン	↓		30	9	関恵子、若林知枝、斎藤奈美、事務・重野了子(兼)
1995	H 7	62	↓ 鈴木 浩	↓	↓ 鈴木 浩		31	11	中野廣子、関恵子、若林知枝、斎藤奈美、事務・嶋昭江
1996	H 8	63	↓	↓	↓	1月1日付・幼稚園職員給与規定制定	36	12	中野廣子、高木早苗、若林知枝、斎藤奈美、高山周子、 事務・鈴木直子
1997	H 9	64	↓	↓	↓	YMCA体操指導を取り入れる。	36	11	中野廣子、高木早苗、中川裕季子、斎藤奈美、 高山周子、事務・鈴木直子
1998	H 10	65	↓ T・スティンハーゲ	↓	↓ 中野 廣子				家田和子、高木早苗、中川裕季子、事務・市川旬

ルーテル幼稚園 90年史

西暦	元号	回生	牧 師	宣教師	幼稚園長	特記事項(含・教会今池礼拝所)	園児数	卒園児数	職員名(順不同)
1999	H 11	66	T・ステインバーク 落合 成光		中野 廣子	幼稚園を定員を105人に変更			家田和子、高木早苗、中川裕季子、斎藤奈美、 恒川千恵子、事務・市川旬・落合美千代
2000	H 12	67	↓		↓	白川村のコテージで合宿	60	20	亀山千代江、家田和子、中川裕季子、岩崎優子、 木村仁美、事務・落合美千代
2001	H 13	68	↓		落合 成光	4月6日未明、幼稚園舎が連続不審火で全焼/教会堂隣接ホールや会堂を使って保育続行/ 9月16日・イオササキ&篠崎正嗣デュオ、12月15日・亀淵 友香ゴスペルコンサート開催	55	10	亀山千代江、家田和子、中川裕季子、岩崎優子、 木村仁美、事務・落合美千代
2002	H 14	69	落合 成光		落合 成光	3月9日・幼稚園の新園舎が完成し竣工礼拝/3月30日・グッチ裕三コンサート/6月・新園舎や牧師館で放火騒ぎ/千種警察署が巡回強化し、男性会員が交代で宿泊警戒/ 多治見「地球村」で山間合宿 11月29日・新園舎放火事件に決着/12月21日付で本教会が地元新聞にお詫び掲載	58	27	亀山千代江、家田和子、中川裕季子、岩崎優子、 木村仁美、事務・落合美千代
2003	H 15	70	明比輝代彦 小泉 潤		嶋 昭江	預かり保育「メダカホーム」、子育て支援「こぼと組」(2歳児親子教室)開始	47	13	亀山千代江、家田和子、中川裕季子、岩崎優子、 事務・利光睦子
2004	H 16	71	↓		↓	教会総会に幼稚園の学校法人化で愛知ルーテル学院(孝母幼稚園の母体)への合意を提案し検討へ	49	18	亀山千代江、家田和子、早川由利、事務・植下睦子
2005	H 17	72	末竹十大 竹田 孝一		↓ 浅井 敬	牧師二人が就任/幼稚園が開園80周年記念礼拝と記念会を行う/ことり組がモンテソリ教室に 10月23日・教会宣教90周年記念礼拝を挙行、記念パーティーと賛美コンサートを開催、鈴木浩牧師の「ガリヤヤに行け」を記念出版 幼稚園学校法人化検討を中断/満3歳児保育「桃組」開始	42	10	亀山千代江、近藤真衣、尾上智恵子、事務・植下睦子
2006	H 18	73	↓		↓		52	16	亀山千代江、鍋谷貴子、野口真似、近藤真衣、 事務・鈴木一恵
2007	H 19	74	↓		↓	4月1日付・幼稚園規則、職員就業規定、給与規定、出張旅費規定を全面改定/子育て支援「遊ぼう会」(1歳児親子教室)開始	59	18	亀山千代江、鍋谷貴子、野口真似、近藤万莉、 事務・鈴木一恵
2008	H 20	75	↓		↓	教会総会で幼稚園運営委員会改組、希望、名東の役員も委員に。 JoySports「体育的関わり」、子育て支援「マナ組」(2歳児保育)開始	61	23	亀山千代江、鍋谷貴子、日比野直子、船橋さゆり、 事務・鈴木一恵
2009	H 21	76	↓ ↓ ↓		↓	教会が希望教会、名東教会と正式に合同し「なごや希望教会」と名称を変更、名古屋教会は「今池礼拝所」となる 愛知県に幼稚園の学校法人化で説明を聞く	51	22	亀山千代江、鍋谷貴子、日比野直子、船橋さゆり、 岡田亜由美、事務・鈴木一恵
2010	H 22	77	↓ ↓		↓	幼稚園の学校法人化で愛知県と本教会の方針が合わず学費化計画を凍結/11月・政府が幼保一体化=こども園=への移行方針を提示 亀山千代江教諭が副園長に/白石先生の造形指導始まる	62	19	亀山千代江、鍋谷貴子、日比野直子、船橋さゆり、 岡田亜由美、事務・鈴木一恵
2011	H 23	78	↓ ↓		↓	7月・政府が幼保一体化=こども園=の完全実施を断念し幼稚園の存続を認める 政府は2013年度に子ども・子育て新システムの導入を目指す	60	16	亀山千代江、船橋さゆり、嵩美加子、近藤万莉、 事務・鈴木一恵
2012	H 24	79	↓		↓		71	24	亀山千代江、嵩美加子、近藤万莉、木村琴美、 事務・鈴木一恵
2013	H 25	80	↓		↓		66	21	亀山千代江、田邊美加子、近藤万莉、今村真奈美、 北條美智、事務・鈴木一恵
2014	H 26	81	↓		末竹十大	学校法人愛知ルーテル学院への編入が認可され、名称を「名古屋ルーテル幼稚園」に改称。	62	22	亀山千代江、田邊美加子、浅間万莉、北條美智、 杉岡里紗、事務・織部純子
2015	H 27	82	↓		↓	教会宣教100周年/幼稚園開園90周年 ルーテル祭り開催	59		亀山千代江、前田朱美子、北條美智、杉岡里紗、 事務・織部純子

日本福音ルーテルなごや希望教会

宣 教 1 0 0 周 年 記 念 誌

記念誌編集委員会

委員長：松原雅夫、川上勝、末竹十大

委 員：松隈芳久、今枝隆久

鈴木一恵、大野比奈子

発行日 2015（平成 27）年 10 月 18 日

編 集 宣教 100 年記念誌編集委員会

発 行 日本福音ルーテルなごや希望教会

〒464-0850

愛知県名古屋市千種区今池 3-5-19

Tel: 052-732-5545 Fax: 052-732-5545

印刷所 平山印刷出版

〒861-8043

熊本市東区戸島西 6-3-5

Tel: 096-234-6515 Fax: 096-234-6802



Sola Fide

Sola Gratia

Sola Scriptura